

平成26年11月4日

訟務担当者ブロック研修

趣旨・目的

労災訴訟の的確な追行のため、主要な勝訴・敗訴判決の要因分析、新件協議における留意点及び訴訟対応上の留意事項等を解説するとともに、各局間の情報交換を行う。

1 最近の判決の動向

別紙「労災行政事件訴訟の推移」を参照

平成26年度10月末 国敗訴10件

(脳心3件、精神5件、石綿1件、高次脳機能障害1件)

平成26年度の敗訴事件をみると、精神事案については、個別の心理的負荷の評価が国の主張と異なったものが多く、脳心事案については、「異常な出来事」に該当する出来事があったと評価される一方、私的リスクファクターがほとんどみられないもの(2件)、また、時間外労働時間の認定が国の主張と異なったものである。


2 勝訴・敗訴要因の分析

(1) 精神障害

ア 「上司からの叱責」、「いじめ、嫌がらせ」の評価


(イ) 勝訴

資料1のNo.2、No.3を参照



(ロ) 敗訴

資料1のNo.9、No.11を参照



イ 精神障害の発病後の悪化の業務起因性の評価

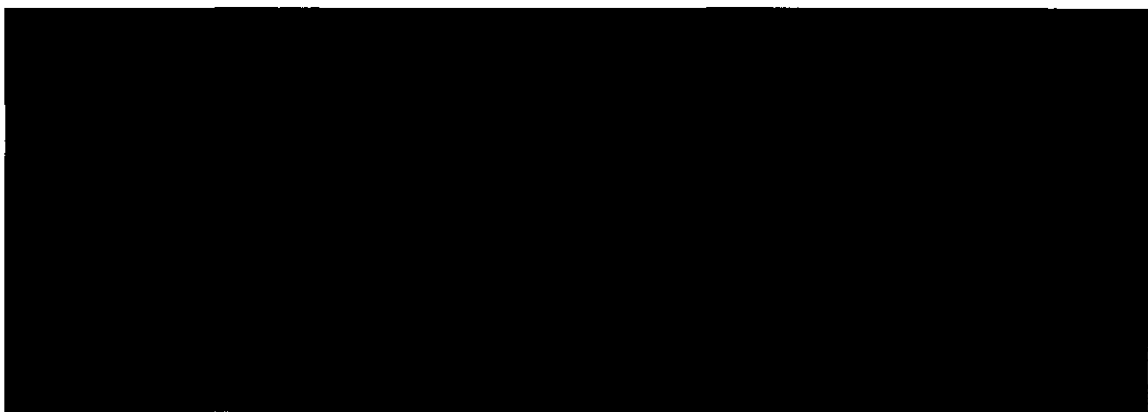
資料1のNo.5、No.6を参照

「精神障害の労災認定の基準に関する専門検討会報告書」（平成23年1月8日。以下「平成23年検討会報告書」という。）P5～6

「既に発病している疾病の悪化の業務起因性

一般に、既に精神障害を発病して治療が必要な状態にある者（したがって、過去に精神障害を発病したが既に治癒している者とは異なる）は、病的状態に起因した思考から自責的・自罰的になり、ささいな心理的負荷に過大に反応するのであり、悪化の原因は必ずしも大きな心理的負荷によるものとは限らない。（略）このような精神障害の特性を考慮すると、悪化の前に強い心理的負荷となる業務による出来事が認められたことをもって、直ちにそれが精神障害の悪化の原因であるとまで判断することは現時点では医学上困難であり、したがって、業務起因性を認めることも困難といわざるを得ない。

本検討会では、これらの事情も勘案し、既に精神障害を発病している労働者本人の要因が業務起因性の判断に影響することが非常に少ない極めて強い心理的負荷があるケース、具体的には「特別な出来事」に該当する出来事があり、その後おおむね6か月以内に精神障害が自然経過を超えて著しく悪化したと医学的に認められる場合については、その心理的負荷が悪化の原因であると推認して、業務起因性を認めるのが適当との結論に至った。」



(2) 脳・心臓疾患

ア 私的リスクファクター

(ア) 勝訴

資料 1 の No. 19 を参照



(イ) 敗訴

資料 1 の No. 21 を参照



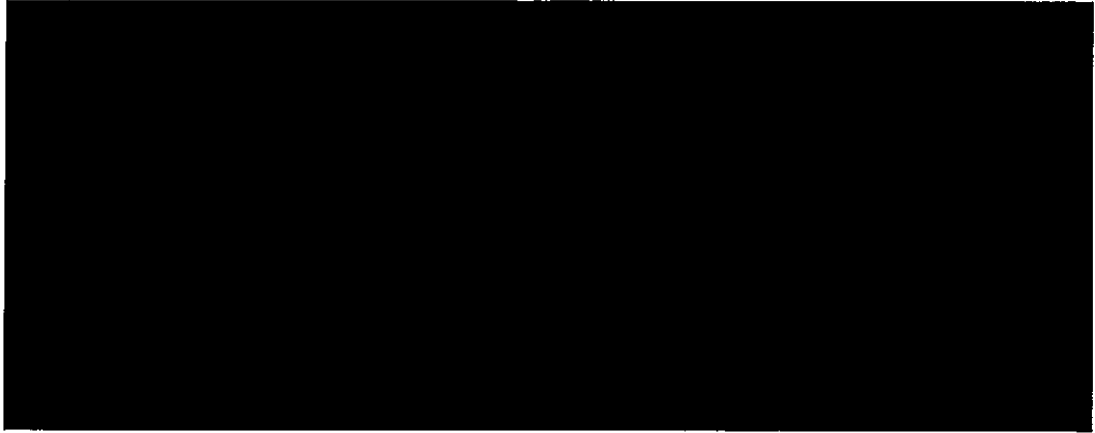
イ 最近の判決例

(7) 東京高裁平成 ■■■年■■月■■日判決（国敗訴）確定
〈事件概要〉

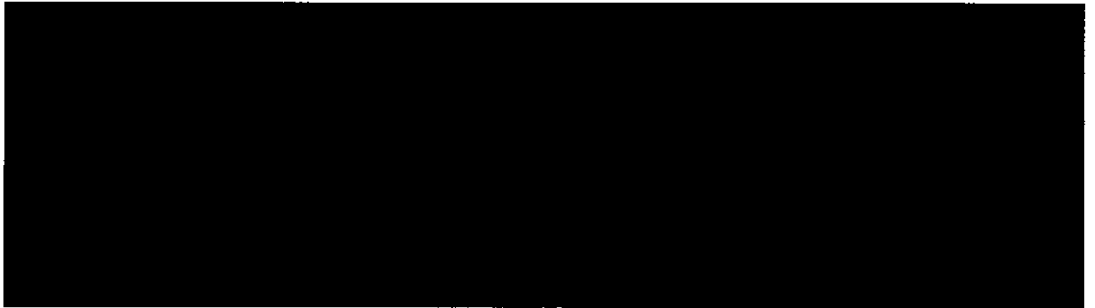


〈判決要旨〉

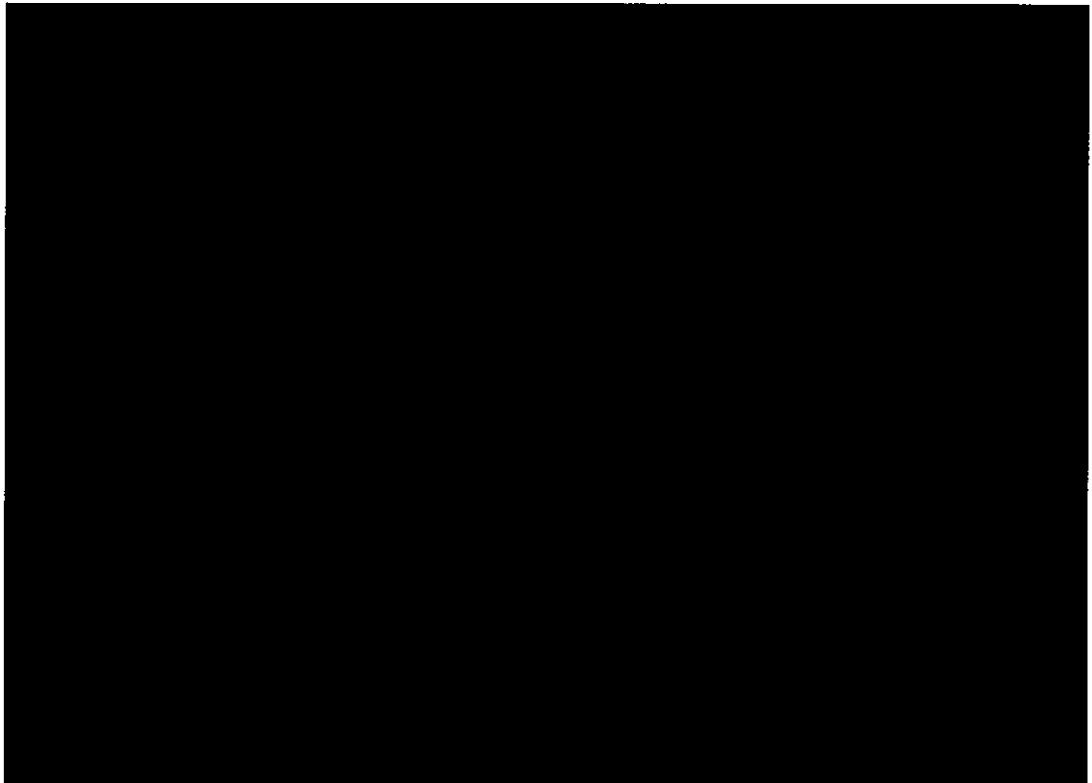




(イ) 静岡地裁平成■■■年■■■月■■■日判決（国敗訴）確定
〈事件概要〉



〈判決要旨〉

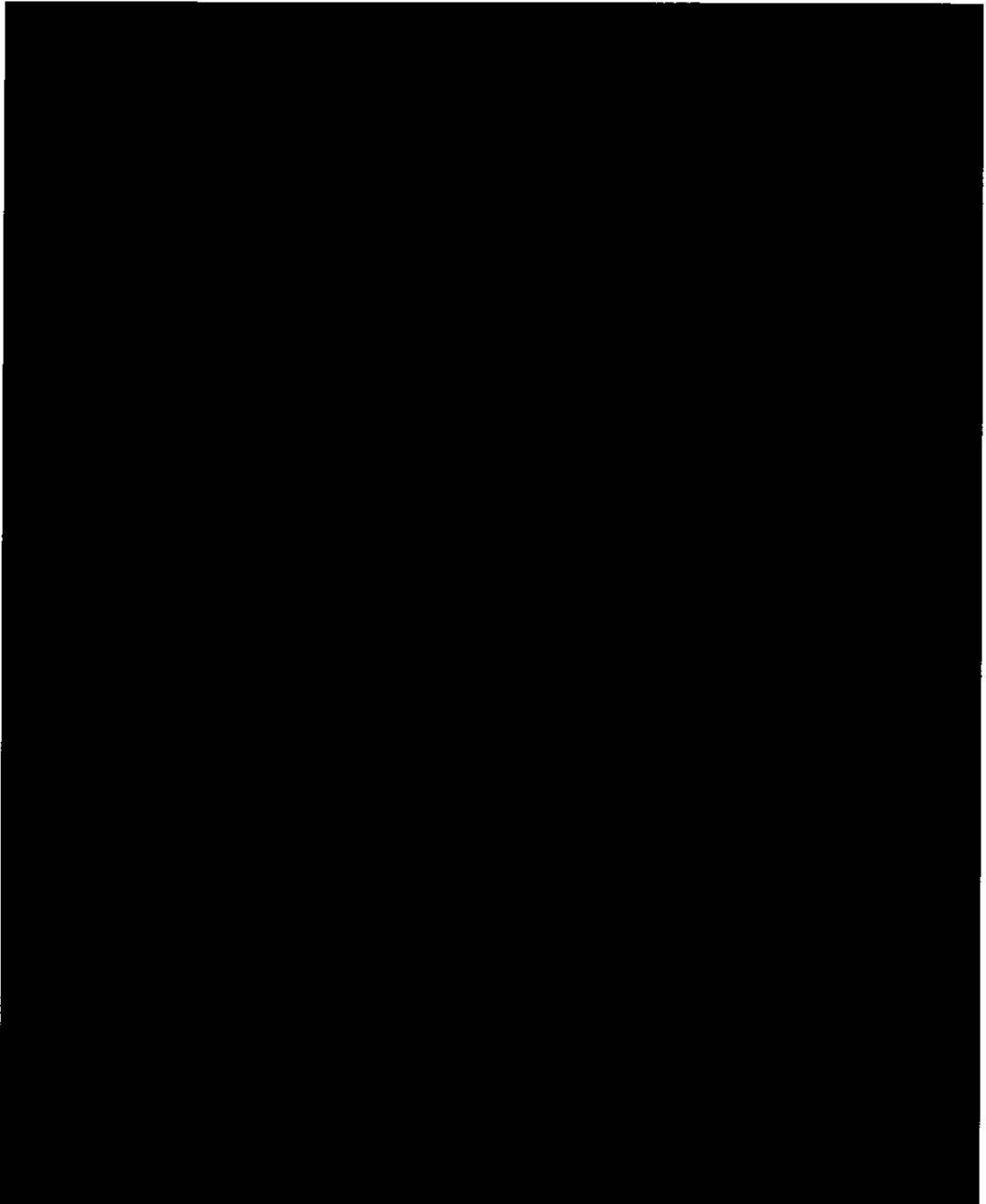


(ウ) 大阪地裁平成■■■年■■■月■■■日判決（国勝訴）原告控訴

〈事件概要〉



〈判決要旨〉

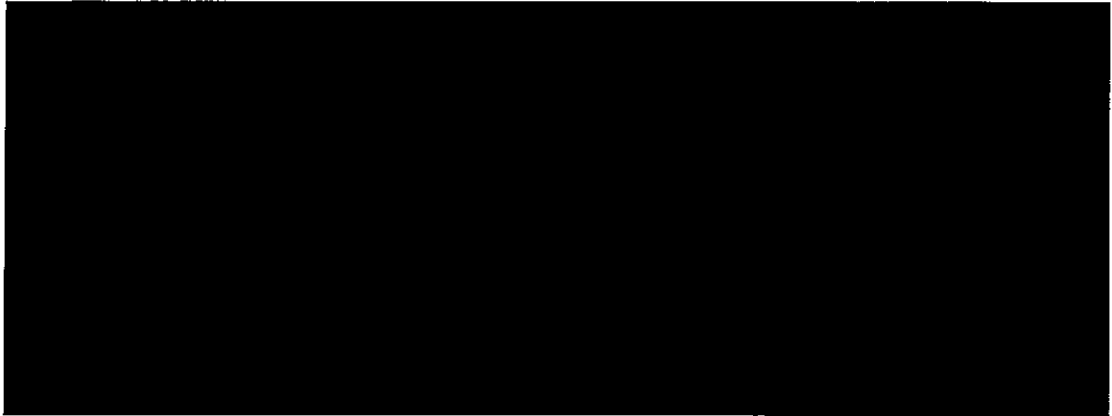


(3) その他

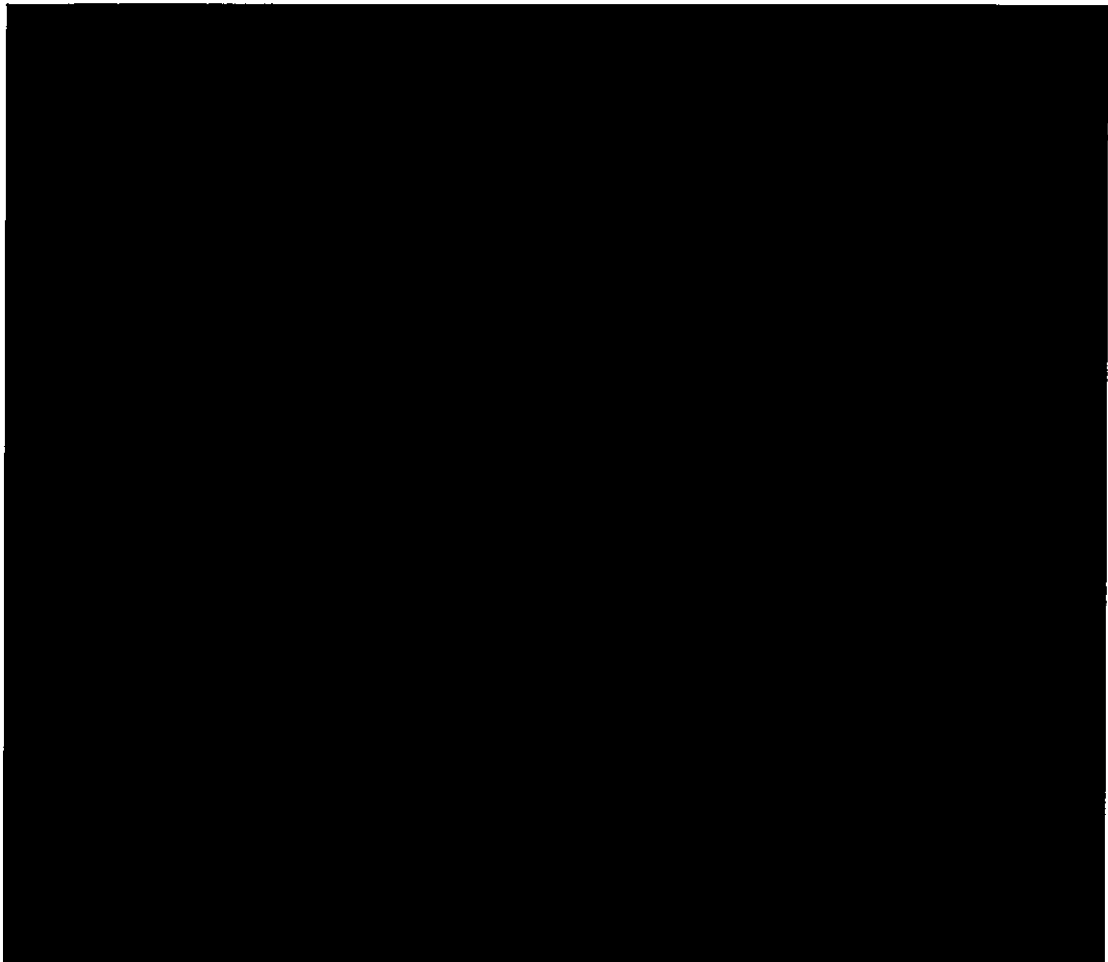
二重就労者の給付基礎日額を争う事案

大阪地裁平成■■■年■■月■■日判決（国勝訴）原告控訴

〈事件の概要〉



〈判決要旨〉



3 新件協議での留意点

(1) 新件協議で把握した原処分の問題点

ア 調査が不足しているもの

(ア) 精神障害事案で、具体的な出来事の態様、時期が明らかでない事案

(イ) 上肢障害事案で、業務量を明らかにしないまま、医師の意見書を徴し、当該意見書のみを根拠として業務起因性を否定している事案

(ウ) 化学物質による中枢神経障害を訴える事案で、化学物質へのばく露状況（ばく露作業の内容、頻度等）が明らかでない事案

イ 判断手法に誤りがあるもの

精神障害事案で、発病後の出来事を考慮して、心理的負荷の強度を評価している事案

(2) 新規提訴時における留意点

判断基準（認定基準等）に沿って主張するに当たり、不足する事実関係や判断の誤り等がないか十分に精査の上、応訴方針を検討する。

4 訴訟を意識した原処分時の対応

資料2を参照

5 訴訟対応上の留意事項（まとめ）

(1) 応訴方針の検討に当たっては、原処分の判断に誤り等がある場合には、これを是正して主張することも念頭に置いて、提訴後早期に十分な検討を行う必要がある。

(2) 原処分の事実認定が不十分な場合には、提訴後早期に会社関係者からの聴取等により補充する。

(3) 脳・心臓疾患事案については、業務の過重性が認められないという主張と併せて、私的リスクファクターについても、専門医と相談の上、医学意見書に基づき十分に主張する。

労災行政事件訴訟の推移

	判決結果				提訴件数	係争件数
	国側勝訴	国側敗訴	合計	勝訴率		
平成16年度	62	6	68	91%	40	78
うち脳・心臓	10	4	14	71%	6	21
うち精神障害	1	1	2	50%	3	10
平成17年度	51	7	58	88%	89	128
うち脳・心臓	5	2	7	71%	21	37
うち精神障害	2	1	3	67%	22	28
平成18年度	66	17	83	80%	81	149
うち脳・心臓	19	7	26	73%	23	45
うち精神障害	3	6	9	33%	17	37
平成19年度	85	21	106	80%	93	174
うち脳・心臓	18	8	26	69%	24	52
うち精神障害	10	9	19	53%	17	41
平成20年度	113	18	131	86%	111	227
うち脳・心臓	26	10	36	72%	19	51
うち精神障害	23	4	27	85%	34	67
平成21年度	151	19	170	89%	126	265
うち脳・心臓	27	7	34	79%	20	50
うち精神障害	39	7	46	85%	37	80
平成22年度	149	23	172	87%	117	274
うち脳・心臓	23	5	28	82%	9	41
うち精神障害	41	9	50	82%	37	74
平成23年度	170	15	185	92%	137	306
うち脳・心臓	26	5	31	84%	13	36
うち精神障害	47	3	50	94%	35	75
平成24年度	208	22	230	90%	124	289
うち脳・心臓	27	2	29	93%	12	33
うち精神障害	55	9	64	86%	48	88
平成25年度	175	14	189	93%	93	256
うち脳・心臓	15	0	15	100%	13	38
うち精神障害	55	1	56	98%	35	88
平成26年度 (10月末時点)	79	10	89	89%	62	256
うち脳・心臓	11	3	14	79%	10	38
うち精神障害	19	5	24	79%	19	91
合計	1,309	172	1,481	89%	1,073	
うち脳・心臓	207	53	260	80%	170	
うち精神障害	295	55	350	84%	304	

※ 上記件数には国家賠償請求事件等も含まれる








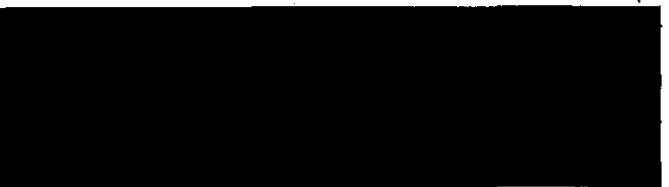
訟務担当者ブロック研修 主要判決目次

1 精神障害判決

(1) 勝訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■年■月■日 東京高裁 (確定)		出来事としての時間 外労働 新認定基準の合理性
2	平成■年■月■日 岐阜地裁 平成■年■月■日 名古屋高裁 上告審係属中		発症前6か月より前 からの長時間労働 上司の叱責(仕事上の ミスに対する指導)
3	平成■年■月■日 大阪地裁 平成■年■月■日 大阪高裁 上告審係属中		上司によるいじめ・ 嫌がらせ
4	平成■年■月■日 東京地裁 平成■年■月■日 東京高裁 平成■年■月■日 最高裁(確定)		■からの暴行によ るPTSD 発病後の私的旅行
5	平成■年■月■日 大阪地裁 控訴審係属中		■の自殺 精神障害発病後の悪 化
6	平成■年■月■日 最高裁(確定)		精神障害発病後の悪 化

(2) 敗訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
7	平成■年■月■日 大阪高裁		出来事後の恒常的な 長時間労働 漏水調査・補修工事の 過重性
8	平成■年■月■日 東京地裁		拘束時間 極度の長時間労働
9	平成■年■月■日 新潟地裁		出来事が繰り返される 場合の心理的負荷 の評価期間 ノルマ未達成 叱責の繰り返し
10	平成■年■月■日 大阪高裁		退職の強要による心 理的負荷
11	平成■年■月■日 鳥取地裁		厳しい叱責
12	平成■年■月■日 福井地裁		労働災害による入院生 活 疼痛性障害
13	平成■年■月■日 大阪高裁		帰宅途中のひったく りによる心理的負荷
14	平成■年■月■日 京都地裁		左示指の一部切断、 適応障害

15	平成■年■月■日 東京高裁 (逆転敗訴)		労災請求の約12年前に 発病した精神障害 ■
----	----------------------------	--	------------------------------

2 脳・心臓疾患事案判決

(1) 勝訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
16	平成■年■月■日 静岡地裁 平成■年■月■日 (確定)		社員旅行の業務遂行性
17	平成■年■月■日 東京高裁 最高裁係属中		発症前6か月より前の過重性の評価 蓄積された疲労の解消 逆転勝訴
18	平成■年■月■日 神戸地裁 (確定)		発症前6か月より前の長時間労働 疲労の回復
19	平成■年■月■日 東京地裁 平成■年■月■日 東京高裁 (確定)		多数回の出張 リスクファクター
20	平成■年■月■日 福岡地裁 控訴審係属中		熱中症 狭心症

(2) 敗訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
21	平成■年■月■日 東京地裁		時間外労働時間数 80時間以内 精神的緊張

22	平成■年■月■日 東京地裁		心房細動 上腸間膜動脈閉塞 不整脈による血栓 の形成

3 石綿関連疾患事案判決

(1) 勝訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
23	平成■年■月■日 千葉地裁 (確定)		石綿びまん性胸膜肥厚による肺機能障害 %肺活量の値と動脈血酸素分圧の値との不整合
24	平成■年■月■日 宮崎地裁 平成■年■月■日 福岡高裁宮崎支部		石綿肺 顕微鏡的多発血管炎
25	平成■年■月■日 大分地裁 控訴審係属中		石綿肺 間質性肺炎
26	平成■年■月■日 神戸地裁 控訴審係属中		石綿肺がん 胸膜プラーク

(2) 敗訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
27	平成■年■月■日 静岡地裁		確定診断のない中皮腫
28	平成■年■月■日 東京地裁		石綿肺がん 同僚に胸膜プラークが認められた事例

29	平成■■年■■月■■日 宮崎地裁		ブレーキライニン グ交換作業 石綿肺
30	平成■■年■■月■■日 東京高裁		石綿肺がん クリソタイルの長 期ばく露

4 高次脳機能障害（TBI、MTBI）事案判決（勝訴）

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
31	平成■■年■■月■■日 東京高裁 平成■■年■■月■■日 最高裁（確定）		高次脳機能障害 MTBI
32	平成■■年■■月■■日 東京高裁 上告審係属中		高次脳機能障害 MTBI
33	平成■■年■■月■■日 東京高裁 （確定）		高次脳機能障害

5 脳脊髄液漏出症事案判決

（1）勝訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
34	平成■■年■■月■■日 広島高裁岡山支部 （確定）		脳脊髄液減少症

(2) 敗訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
35	平成■■年■■月■■日 和歌山地裁 控訴審係属中		脳脊髄液漏出症 四肢麻痺

6 受動喫煙・化学物質過敏症事案判決（勝訴）

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
36	平成■■年■■月■■日 東京地裁 (確定)		受動喫煙 平均的労働者
37	平成■■年■■月■■日 東京地裁 (確定)		受動喫煙 肺がん
38	平成■■年■■月■■日 大阪高裁 (確定)		トルエン 化学物質過敏症

7 上肢障害判決

(1) 勝訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
39	平成■■年■■月■■日 東京地裁 (確定)		頸肩腕症候群 パソコン作業

(2) 敗訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
40	平成■■年■■月■■日 東京地裁		上肢障害（頸椎症性 脊髄症）、腰痛 鉄製工具の形状と 作業態様による負 荷
41	平成■■年■■月■■日 東京地裁		■■■■■■■■■■ 頸肩腕障害 上肢等への負担
42	平成■■年■■月■■日 千葉地裁		腱板断裂 リハビリの効果

8 腰痛判決（勝訴）

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
43	平成■■年■■月■■日 大阪高裁 上告審係属中		身体障害を有する 労働者 平均的労働者基準

9 振動障害判決（敗訴）

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
44	平成■■年■■月■■日 高知地裁		振動障害 皮膚温の中等度異 常の評価

10 労働者性事案判決

(1) 勝訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
45	平成■■年■■月■■日 福岡高裁（確定）		労働者性 ■■■■ 業務執行権

(2) 敗訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
46	平成■■年■■月■■日 福岡地裁		本社課長の管理監督者性

11 認定基準によらない疾病（長時間労働等）事案判決（勝訴）

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
47	平成■■年■■月■■日 東京高裁 平成■■年■■月■■日 最高裁（確定）		著しい長時間労働 慢性骨髄性白血病 高度の蓋然性の証明
48	平成■■年■■月■■日 東京高裁 平成■■年■■月■■日 最高裁（確定）		原発性肝がん 海外出張
49	平成■■年■■月■■日 大阪地裁 控訴審係属中		化学物質（ジアニジン等） 口腔がん
50	平成■■年■■月■■日 大阪地裁 控訴審係属中		糖尿病 長時間労働

12 二重就労事案判決（勝訴）

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
51	平成■年■月■日 東京高裁 平成■年■月■日 最高裁（確定）		二重就労 平均賃金（給付基礎 日額）の合算
52	平成■年■月■日 東京高裁		二重雇用 労働時間の合算

13 その他

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
53	平成■年■月■日 東京地裁 上告審係属中		じん肺症と急性心筋 梗塞 治療機会の喪失
54	平成■年■月■日 大阪高裁 平成■年■月■日 最高裁（確定）		労災認定事業場名 情報公開法 不開示情報 逆転勝訴
55	平成■年■月■日 横浜地裁		RSD (CRPS type I) DVD 映像
56	平成■年■月■日 熊本地裁		騒音性難聴 時効の起算点

○〔精神4〕 平成■■年■■月■■日 東京高裁判決 国勝訴（二審確定）

キーワード：出来事としての時間外労働、新認定基準の合理性

1 事件の概要

2 判決要旨

(1) 一審判決（さいたま地方裁判所：平成■■年■■月■■日（国勝訴））

ア 精神障害の発病時期

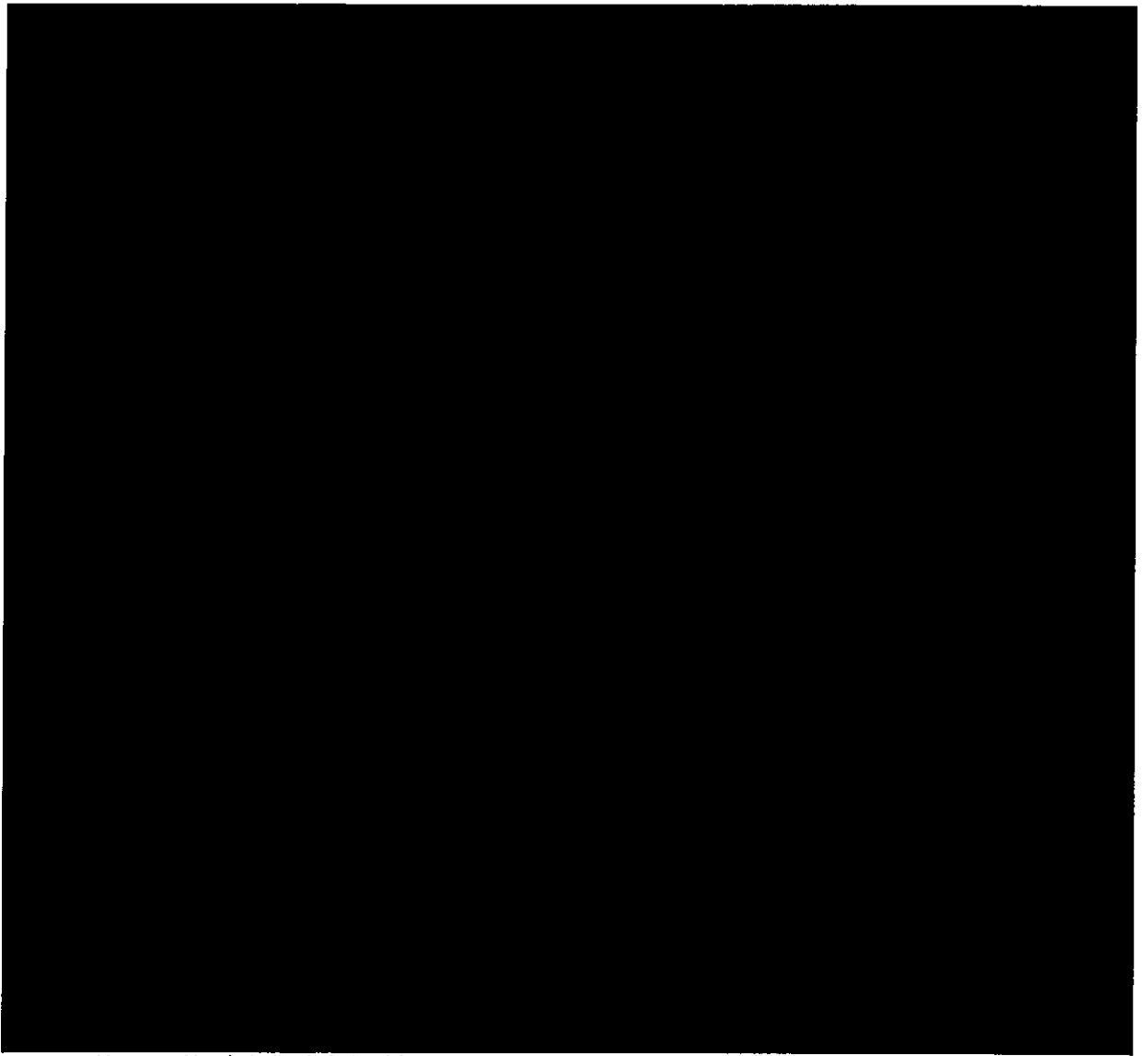
イ 業務による心理的負荷（労働時間以外は略）

ウ 判断指針による判断

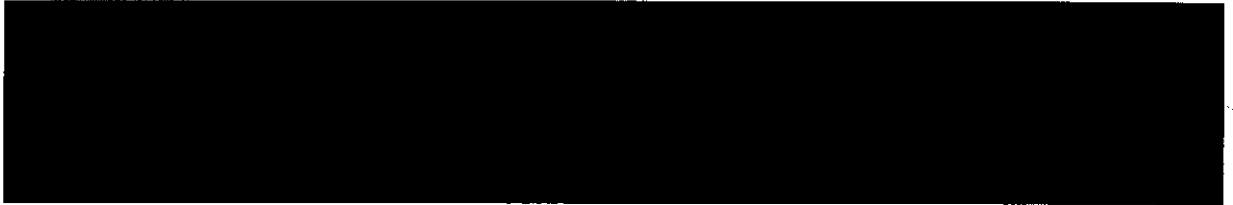
(2) 控訴審（東京高等裁判所：平成■■年■■月■■日（国勝訴））

ア 認定基準の合理性（認定基準発出の経緯、認定基準の内容に照らせば合理性が認められると判示）

イ 認定基準に基づく検討（新設の80時間超えの時間外労働を出来事として評価しても心理的負荷の強度は「中」にとどまる）



ウ 認定基準に基づく業務起因性の判断



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	認定基準での主張	
2	療養経過	

○〔精神4〕平成■■年■■月■■日 岐阜地裁判決 国勝訴（控訴審係争中）

キーワード：発病前6か月より前からの長時間労働、上司の叱責（仕事上のミスに対する指導）

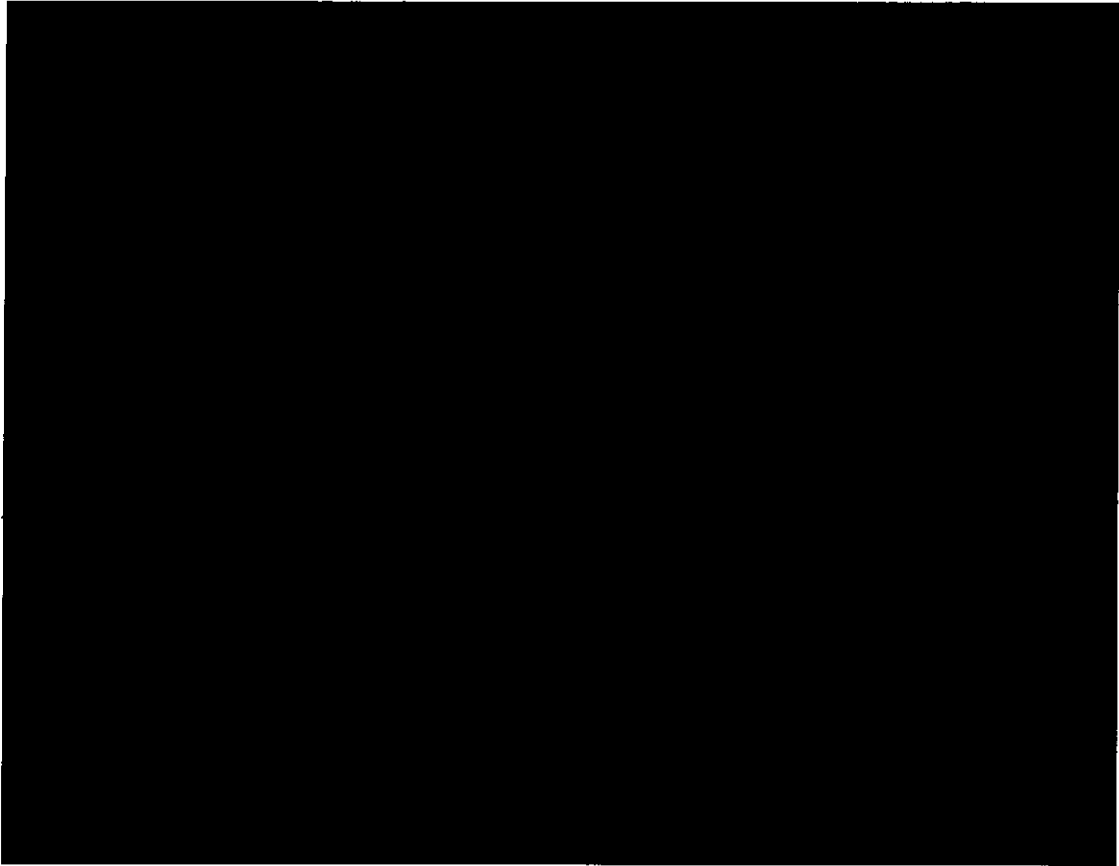
1 事件の概要

2 判決要旨（国勝訴）

(1) 〈判断枠組み〉

(2) 〈出来事の評価対象期間〉

(3) 〈業務の過重性〉



(4) 〈結論〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	時間外労働 時間数の算 定	
2	出来事の評 価期間	
3	上司の叱責 (仕事上の ミスに対す る指導)	

○〔精神3〕平成 年 月 日 大阪地裁判決 国勝訴（控訴審係争中）



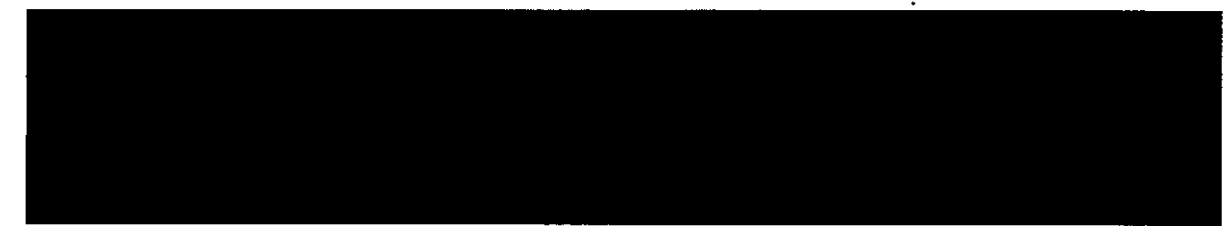
キーワード：上司によるいじめ・嫌がらせ

1 事件の概要

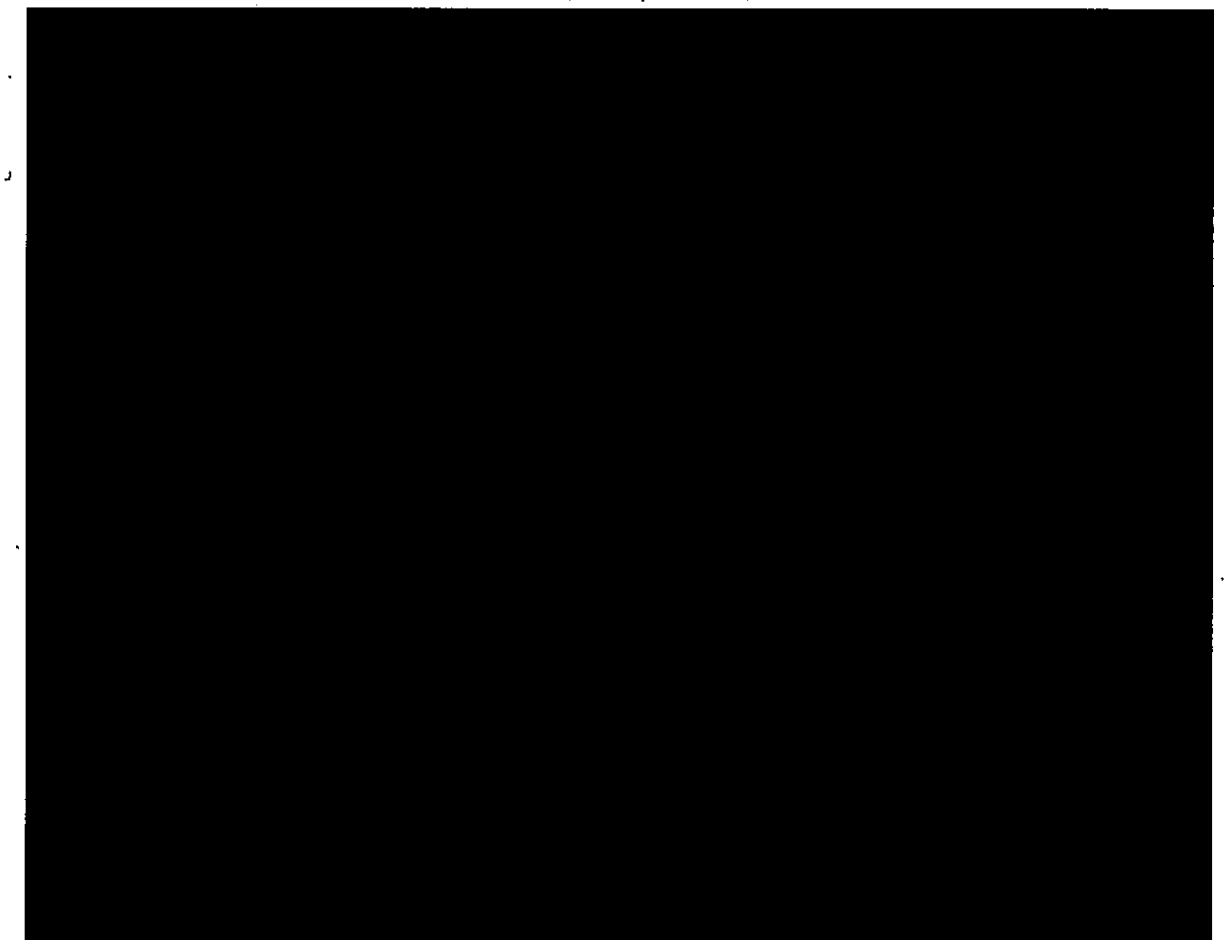


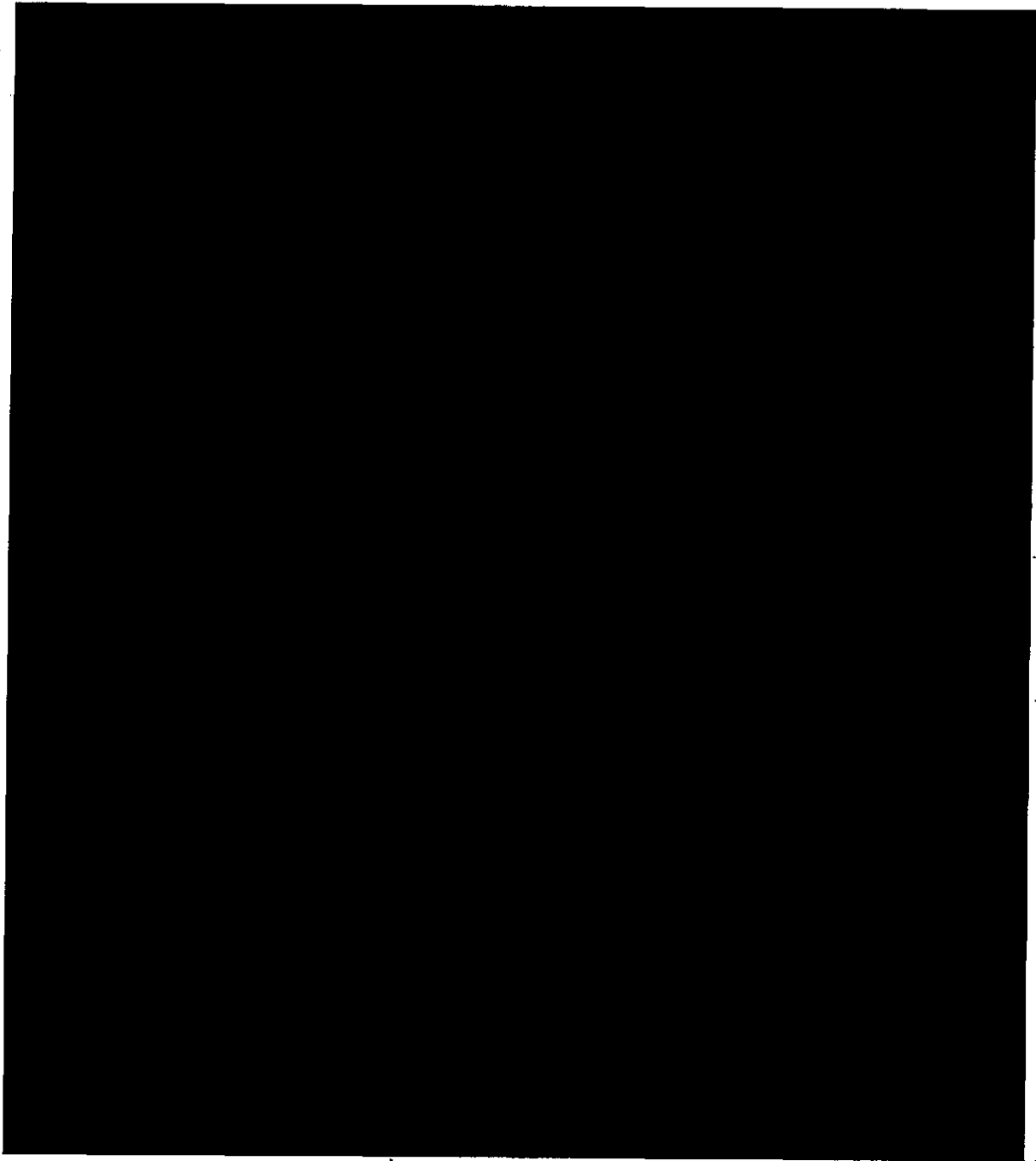
2 判決要旨（国勝訴）

(1) 〈判断枠組み〉



(2) 〈業務起因性〉





3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	上司によるいじめ・嫌がらせの事実	

○〔精神2〕 平成 年 月 日 東京地裁判決 国勝訴（控訴審係争中）

[Redacted]

キーワード： からの暴行によるPTSD、発病後の私的旅行

1 事件の概要

[Redacted]

2 判決要旨

(1) 〈判断枠組み〉

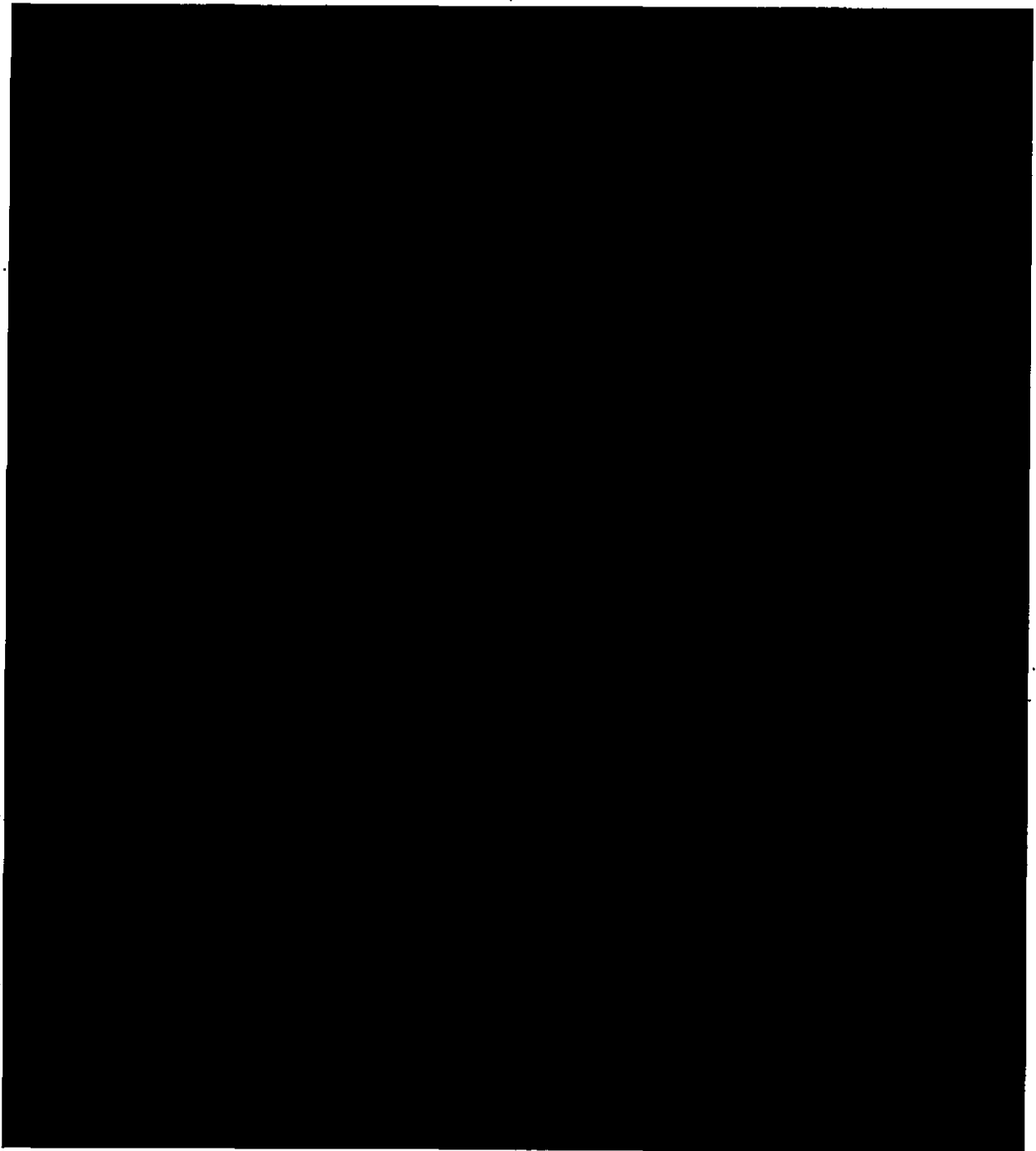
[Redacted]

(2) 〈発症時期〉

[Redacted]

(3) 〈業務起因性〉

[Redacted]



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	療養中の原告の行動の主張	
2	認定基準での主張	

○ [精神2] 平成 年 月 日 大阪地裁判決 国勝訴 (控訴審係争中)

キーワード： の自殺 精神障害発病後の悪化

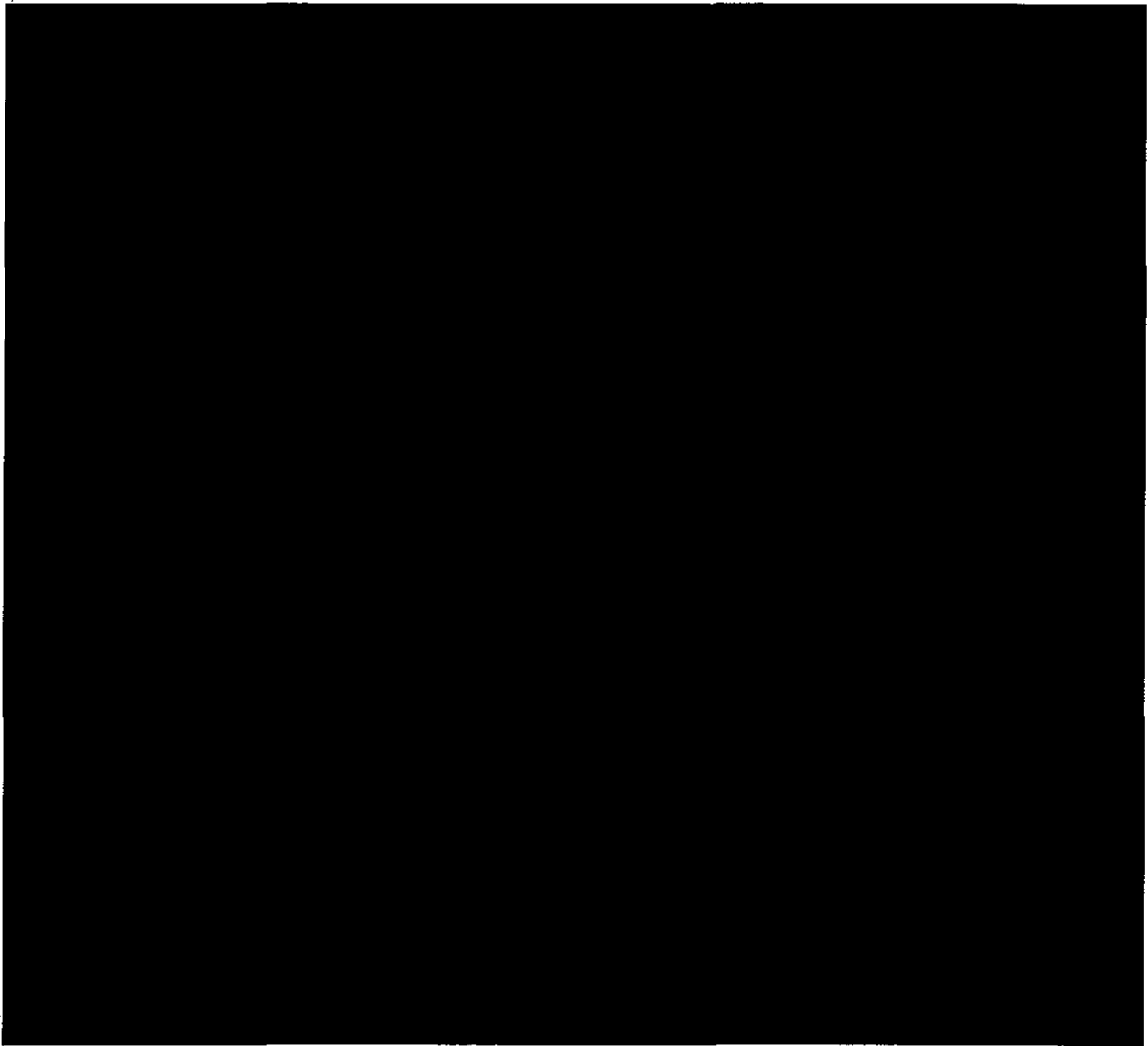
1 事件の概要

2 判決要旨(国勝訴)

(1) <判断枠組み>

(2) <発病時期>

(3) <業務起因性>



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	亡子の勤務状況及び精神障害発病後の労働時間増加の原因	
2	精神障害発病後の悪化の業務起因性	

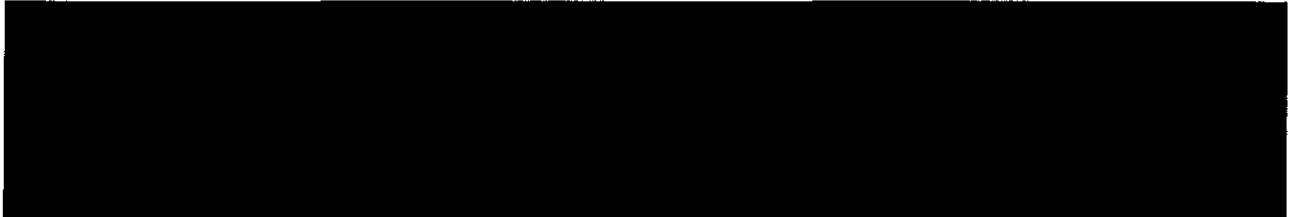


○〔精神1〕 平成■■年■■月■■日 最高裁決定 上告不受理
平成■■年■■月■■日 東京高裁判決 国勝訴
(平成■■年■■月■■日 東京地裁判決 国勝訴 原告控訴)



キーワード：精神障害の発病後の悪化

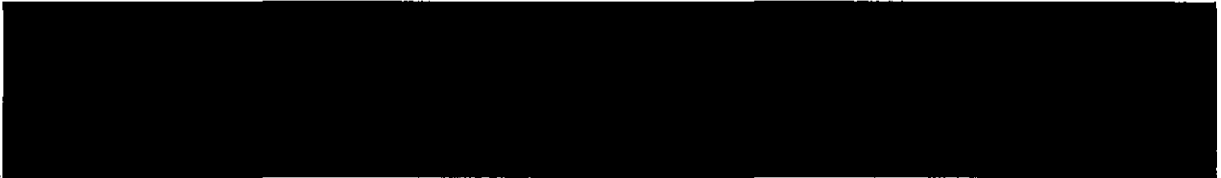
1 事件の概要



2 判決要旨

(1) 一審判決 (国勝訴)

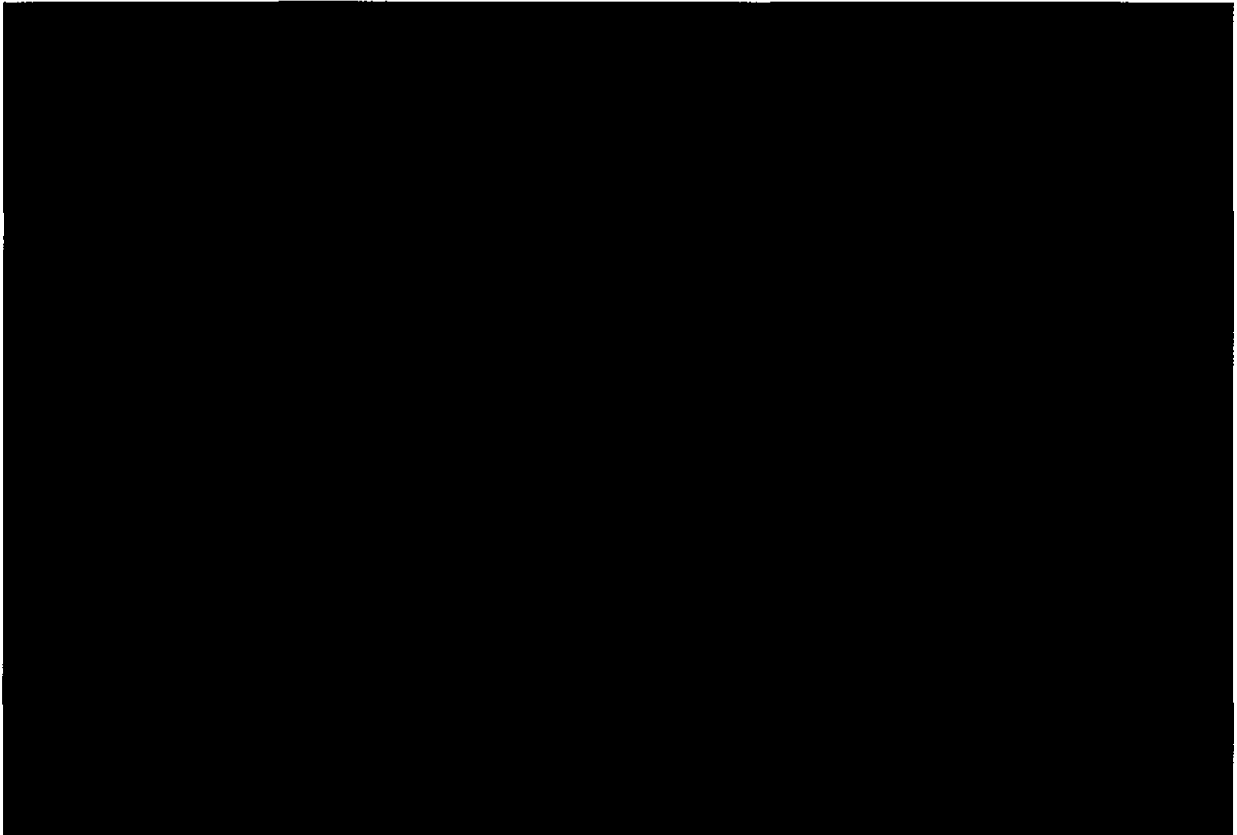
ア 〈判断枠組み〉

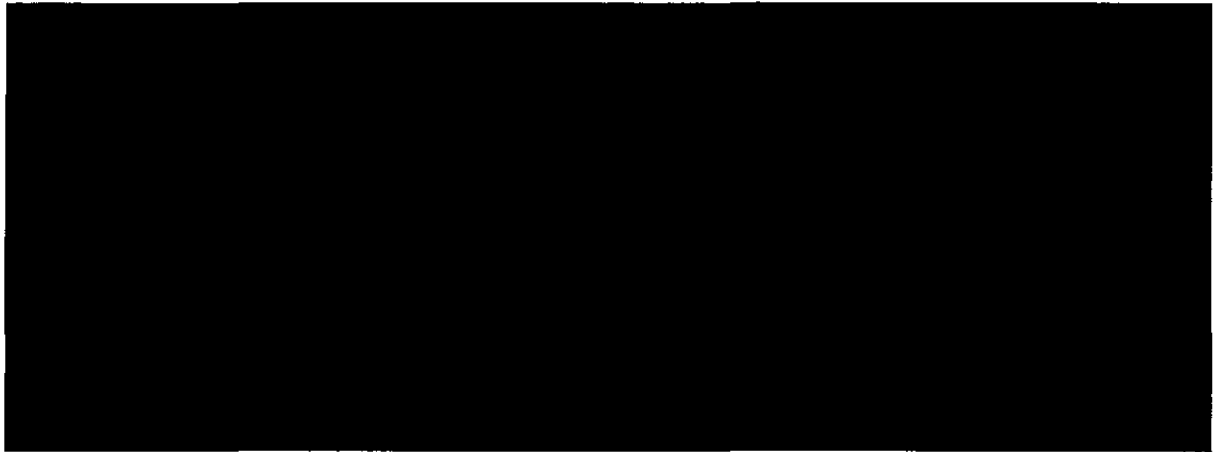


イ 〈発病時期〉



ウ 〈業務起因性〉





(2) 控訴審判決（国勝訴）

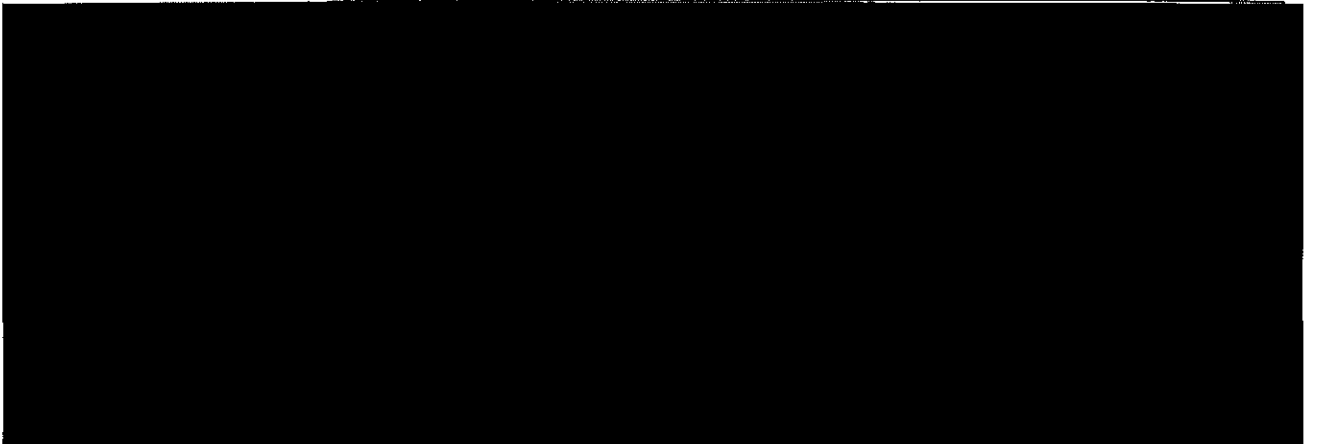
ア <発病時期、精神障害発病の業務起因性>



イ <精神障害の悪化の業務起因性>



3 発病後の悪化に係る訴訟上の留意事項



○〔精神1〕 平成 年 月 日 大阪高裁判決 国敗訴（二審確定）
（平成 年 月 日 神戸地裁判決 国勝訴 原告控訴）

キーワード：出来事後の恒常的な長時間労働、漏水調査・補修工事の過重性

1 事件の概要

2 一審判決要旨（国勝訴）（平成 年 月 日）

(1) 〈判断枠組み〉

(2) 〈業務による心理的負荷〉

[Redacted]

(3) 〈業務起因性〉

[Redacted]

3 控訴審判決要旨（国逆転敗訴）（平成[Redacted]年[Redacted]月[Redacted]日）

(1) 〈判断枠組み〉

[Redacted]

(2) 〈業務による心理的負荷〉

[Redacted]

(3) 〈業務起因性〉

[Redacted]

4 控訴審における敗訴要因

		敗訴した要因として考えられる事項
1	出来事後の恒常的な長時間労働	[Redacted]
2	勤務時間中の空き時間の立証	[Redacted]
3	控訴審における主張・立証	[Redacted]

○ [精神1] 平成 年 月 日 東京地裁判決 国敗訴 (一審確定)

キーワード：拘束時間、極度の長時間労働

1 事件の概要

2 判決要旨 (国敗訴)

(1) <判断枠組み>

(2) <精神障害の発病及び時期>

(3) <業務による心理的負荷>

(4) 〈業務起因性の判断〉

3 国の主張と判決の主な相違点

		国主張	判決
1	労働時間の 事実認定		
2	精神障害の 発病		

4 敗訴要因

		敗訴した要因として考えられる事項
1	労働時間の 事実認定	
2	故意による 自殺	

○【精神3】平成 年 月 日 新潟地裁判決 国敗訴（一審確定）

キーワード：出来事が繰り返される場合の心理的負荷の評価期間、ノルマ未達成、叱責の繰り返し

1 事件の概要

2 判決要旨（国敗訴）

(1) 〈判断枠組み〉

(2) 〈営業所長の指導や叱責〉

(3) 〈国側の聴取書の信用性〉

(4) 〈ノルマ〉

(5) 〈全体としての評価〉

(6) 〈心理的負荷の評価期間〉

(7) 〈業務起因性〉

3 国側主張と判決との相違点

		国側主張	判決
1	指導や叱責		
2	ノルマ		

4 敗訴の要因分析

		敗訴した要因として考えられる事項
1	指導や叱責の態様	

- [精神4] 平成■■年■■月■■日 大阪高裁判決 国敗訴 (二審確定)
(平成■■年■■月■■日 大阪地裁判決 国勝訴 原告控訴)

[Redacted]

キーワード：退職の強要による心理的負荷

1 事件の概要

[Redacted]

2 一審判決要旨 (国勝訴) (平成■■年■■月■■日)

(1) 〈業務起因性の判断枠組み〉

[Redacted]

(2) 〈精神障害の発症〉

[Redacted]

(3) 〈業務による心理的負荷〉

[Redacted]

(4) 〈個体側の脆弱性〉

[Redacted]

(5) 〈業務起因性〉

[Redacted]

3 控訴審判決要旨（国逆転敗訴）（平成■■年■■月■■日）

(1) 〈業務起因性の判断枠組み〉

[Redacted]

(2) 〈精神障害の発症〉

[Redacted]

(3) 〈業務による心理的負荷〉

[Redacted]

(4) 〈個体側要因〉

[Redacted]

(5) 〈業務起因性〉

[Redacted]

4 控訴審における敗訴要因

		敗訴した要因として考えられる事項
1	退職の強要の具体的内容	[Redacted]

○ [精神5] 平成■■年■■月■■日 鳥取地裁判決 国敗訴 (一審確定)



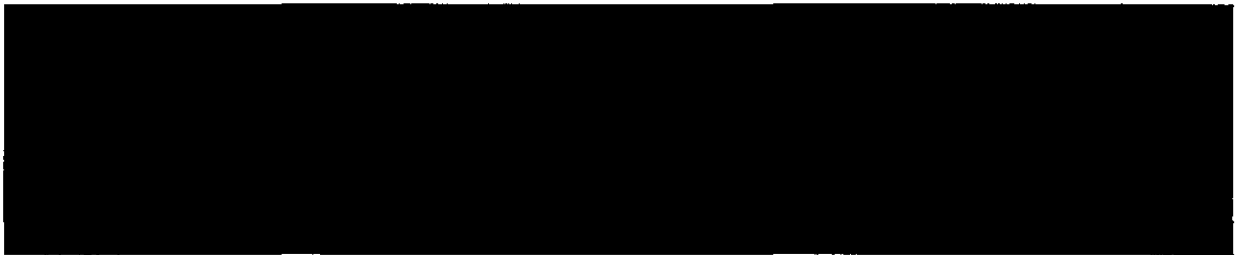
キーワード : 厳しい叱責

1 事件の概要



2 判決要旨 (国敗訴)

(1) <判断枠組>



(2) <原告の疾病>



(3) <業務起因性>



3 国の主張と判決との相違点

	国側主張	判決
1 不告知教唆		
2 叱責		
3 班分離		

4 敗訴の要因分析

	敗訴した要因として考えられる事項
上司の厳しい叱責を肯定する複数証言 [Redacted]	

○〔精神1〕平成 年 月 日 福井地裁判決 国敗訴（一審確定）

キーワード：労働災害による入院生活、疼痛性障害

1 事件の概要

2 判決要旨（国敗訴）

(1) 〈精神障害の発病の有無〉

(2) 〈本件崩落事故と精神障害発病との相当因果関係の有無〉

3 国の主張と判決の主な相違点

		国主張	判決
1	精神障害の発病の有無		

2	本件崩落事故と精神障害発病との相当因果関係の有無		

4 敗訴要因

		敗訴した要因として考えられる事項
1	原告の時機に遅れた主張	
2	専門医を証人尋問に立てなかったこと	

○〔精神○〕平成■■年■■月■■日 大阪高裁判決 国一部敗訴（二審確定）
（平成■■年■■月■■日 大阪地裁判決 国勝訴 原告控訴）



キーワード：帰宅途中のひったくりによる心理的負荷

1 事件の概要

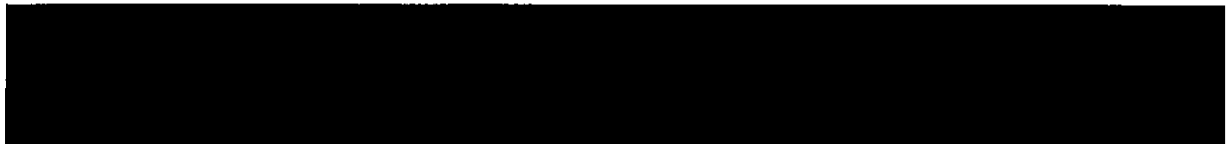


2 一審判決要旨（国勝訴）（平成■■年■■月■■日）

(1) 〈通勤起因性の判断枠組み〉



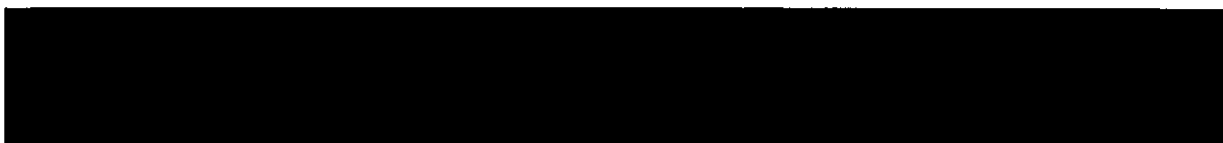
(2) 〈精神障害の発症〉



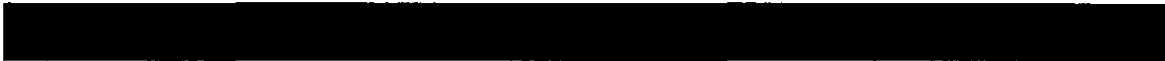
(3) 〈本件事故による心理的負荷の評価〉



(4) 〈個体側要因〉



(5) 〈結論〉

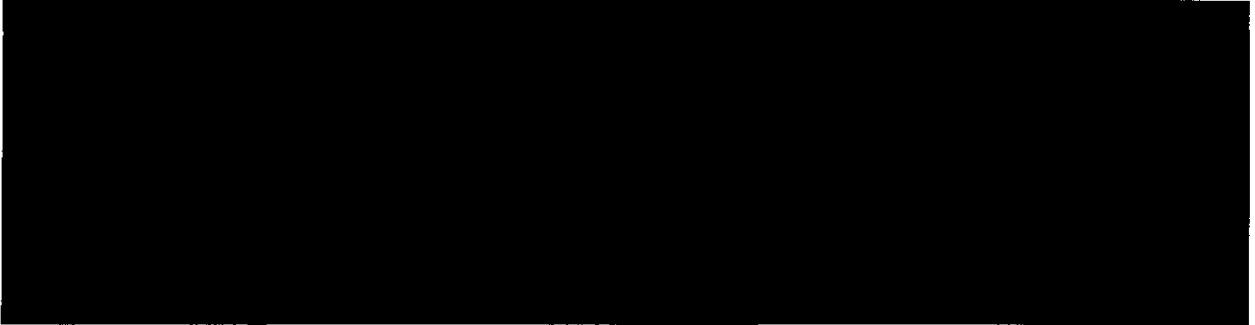


3 控訴審判決要旨（国逆転一部敗訴）（平成 年 月 日）

(1) 〈通勤起因性の判断枠組み〉



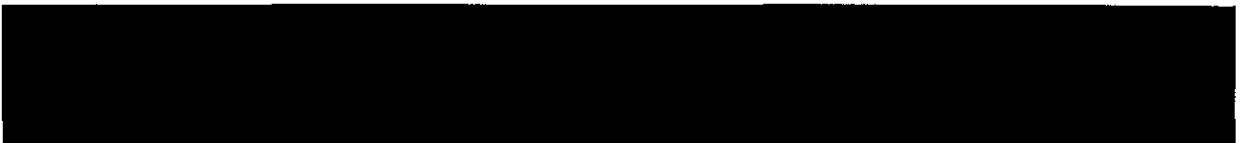
(2) 〈控訴人の症状〉



(3) 〈通勤起因性〉



(4) 〈結論〉



4 控訴審における敗訴要因

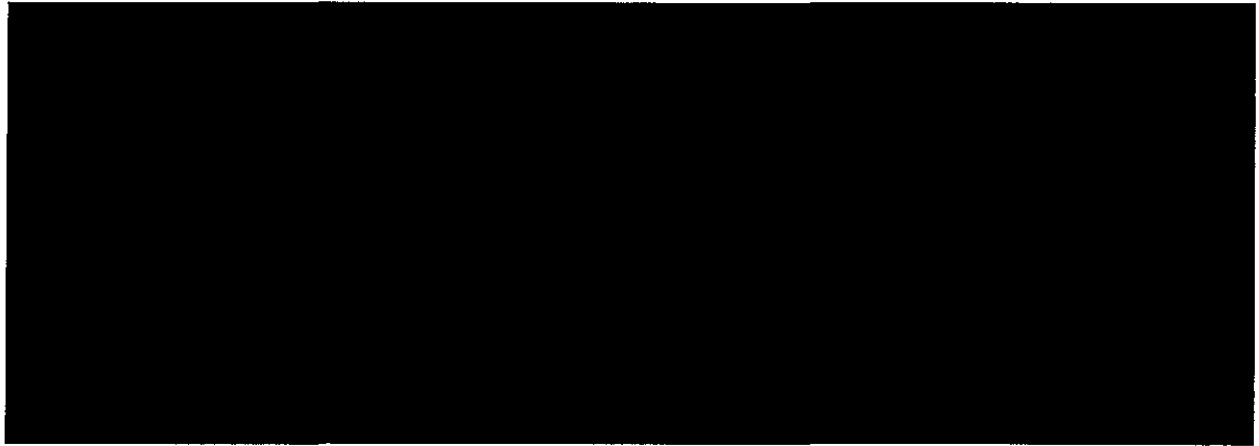
		敗訴した要因として考えられる事項
1	本件事故による心理的負荷の評価	

○〔精神○〕平成■■■年■■月■■日 京都地裁判決 国敗訴（確定）



キーワード：左示指の一部切断、適応障害

1 事件の概要

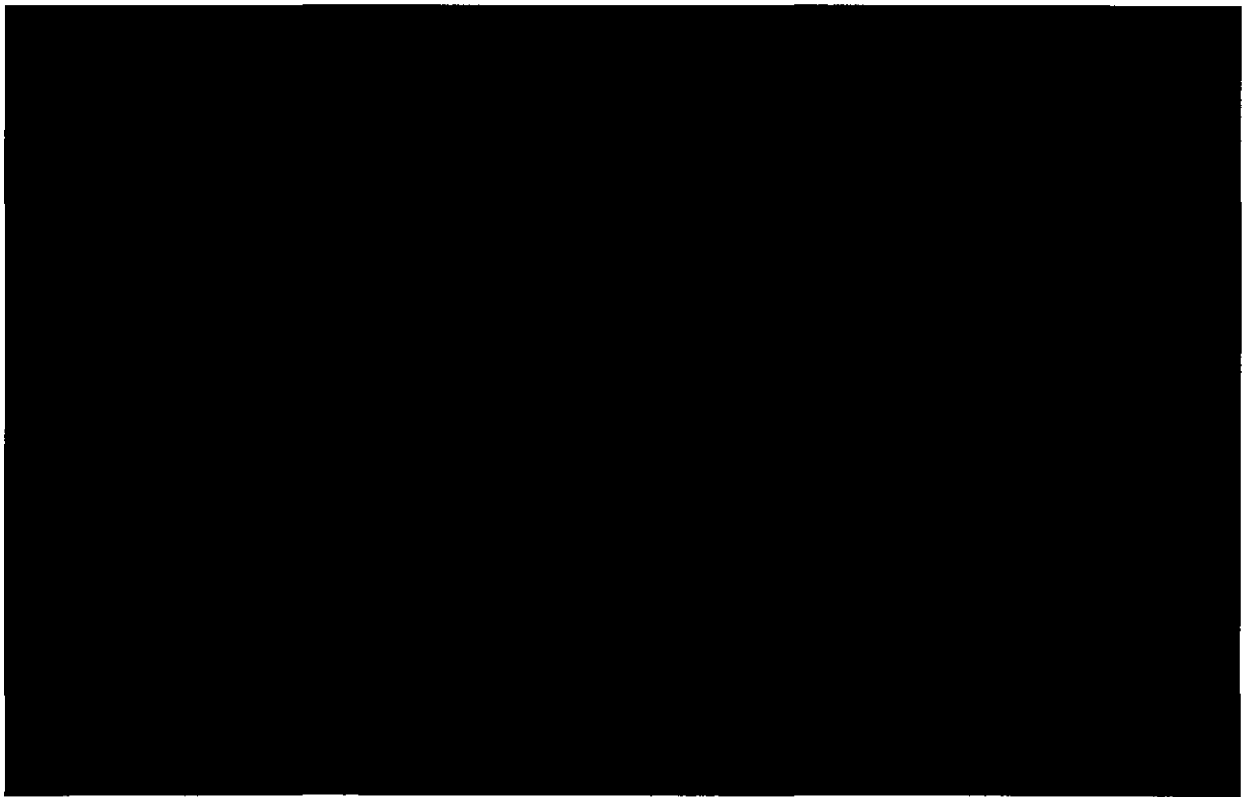


2 判決要旨（国敗訴）

(1) 〈原告が罹患した精神障害〉



(2) 〈原告の適応障害の業務起因性〉



3 国の主張と判決の主な相違点

		国主張	判決
1	本件事故による心理的負荷の強度		

4 敗訴要因

		敗訴した要因として考えられる事項
1	本件事故による心理的負荷の強度の評価	

○〔精神障害〕平成■■年■月■日 東京高裁判決 国逆転敗訴（確定）

[REDACTED]

キーワード：労災請求の約 12 年前に発病した精神障害、[REDACTED]

1 事件の概要

[REDACTED]

2 控訴審判決要旨（国逆転敗訴）

(1) <判断枠組み>

[REDACTED]

(2) <発病時期>

[REDACTED]

(3) <本件疾病の業務起因性>

[REDACTED]



3 国の主張と判決の主な相違点

		国主張（一審判決）	控訴審判決
1	融資金の回収に係る出来事の心理的負荷の強度		

4 敗訴要因

		敗訴した要因として考えられる事項
1	寛解（治ゆ）・再発の検討	
2	発病前6か月間の出来事の調査	

○〔その他2〕平成■■年■■月■■日 静岡地裁判決 国勝訴（控訴審係争中）

キーワード：社員旅行の業務遂行性

1. 事件の概要

2. 判決要旨

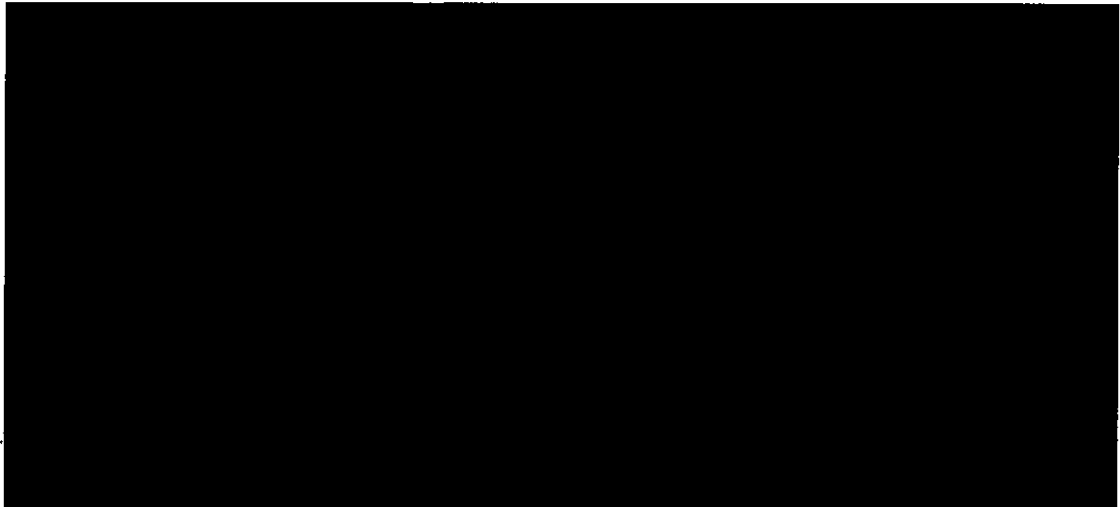
(1) 〈判断枠組み〉

(2) 〈業務の質的過重性について〉

(3) 〈業務の量的過重性について〉



(4) 〈社員旅行の業務遂行性について〉



(5) 〈相当因果関係〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	業務の過重性	

- [脳心1] 平成■■年■■月■■日、東京高裁判決 国逆転勝訴 (原告上告受理申立中)
(平成■■年■■月■■日、東京地裁判決 国敗訴 国控訴)

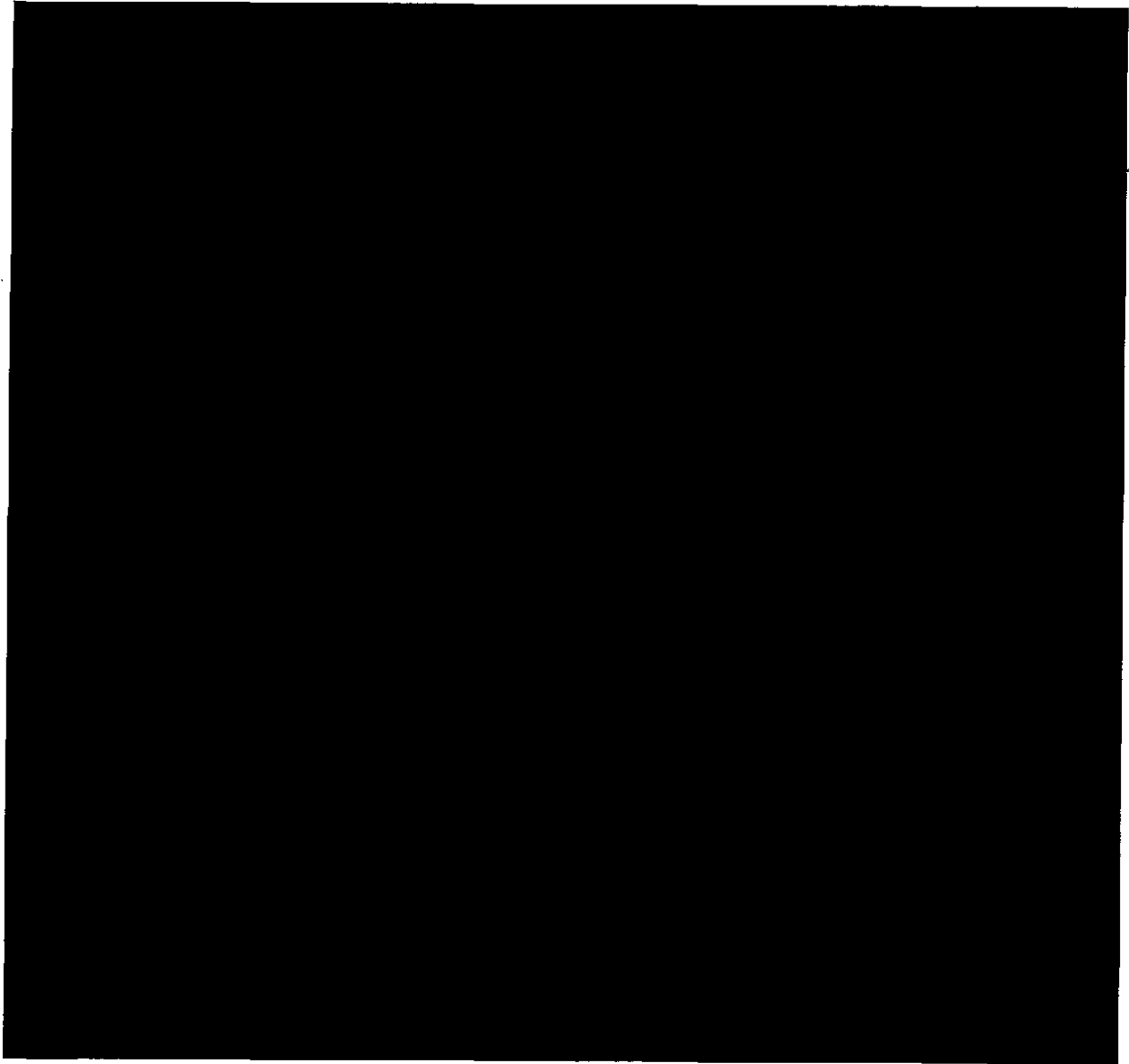
キーワード：発症前6か月より前の過重性の評価、蓄積された疲労の解消、逆転勝訴

1 事件の概要

2 判決要旨

(1) 一審判決 (国敗訴)

(2) 控訴審判決 (国逆転勝訴)



3 勝訴要因

一審敗訴要旨	国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1 本件くも膜下出血の原因は「脳動静脈奇形」の破綻ではなく、「脳動脈瘤」の破裂とするのが相当	
2 発症前6か月より前の過重性を評価、疲労の解消により「脳動脈瘤」は改善しない	

○ [脳心3] 平成 年 月 日 神戸地裁判決 国勝訴 (確定)

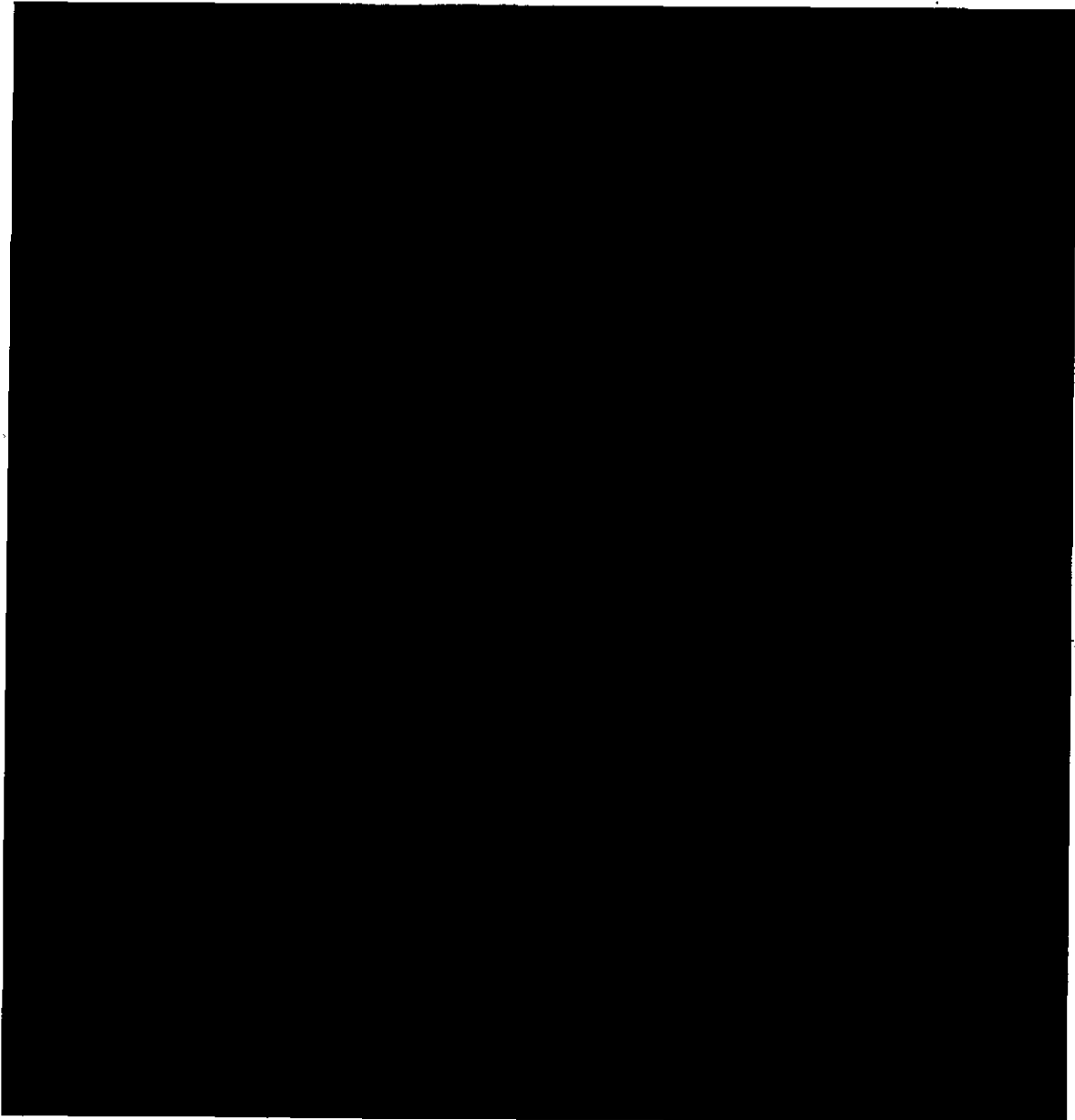
キーワード：発症前6か月より前の長時間労働、疲労の回復

1 事件の概要

2 判決要旨 (国勝訴)

(1) 〈判断枠組み〉

(2) 〈業務起因性〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	勤務時間管理の状況	
2	発症前6か月間より前の長時間労働の評価	

○ [脳心2] 平成 年 月 日 東京地裁判決 国勝訴 (控訴審係争中)

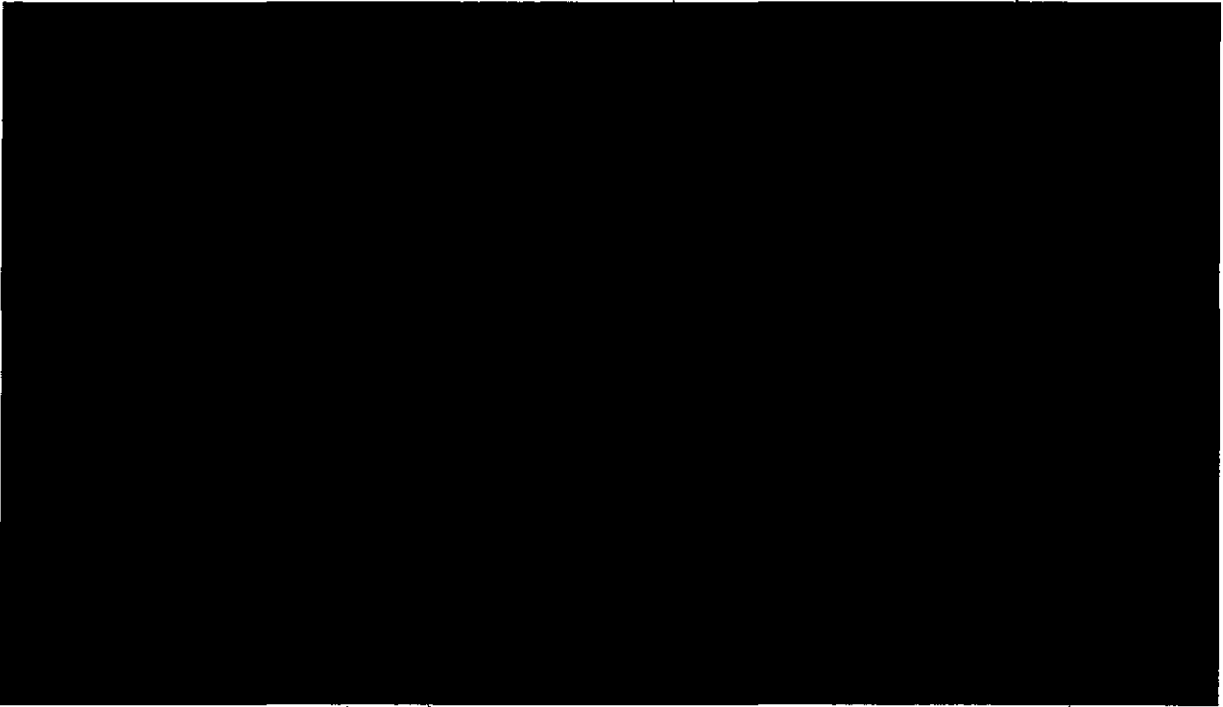
キーワード：多数回の出張、リスクファクター

1 事件の概要

2 判決要旨 (国勝訴)

(1) <判断枠組み>

(2) <業務の過重性>



(3) 〈虚血性心疾患のリスク因子〉



(4) 〈結論〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	時間外労働時間数の認定	
2	出張形態	
3	リスクファクター	

○〔熱中症〕平成■■年■■月■■日 福岡地裁判決 国勝訴（控訴審係争中）



キーワード：熱中症、狭心症

1 事件の概要

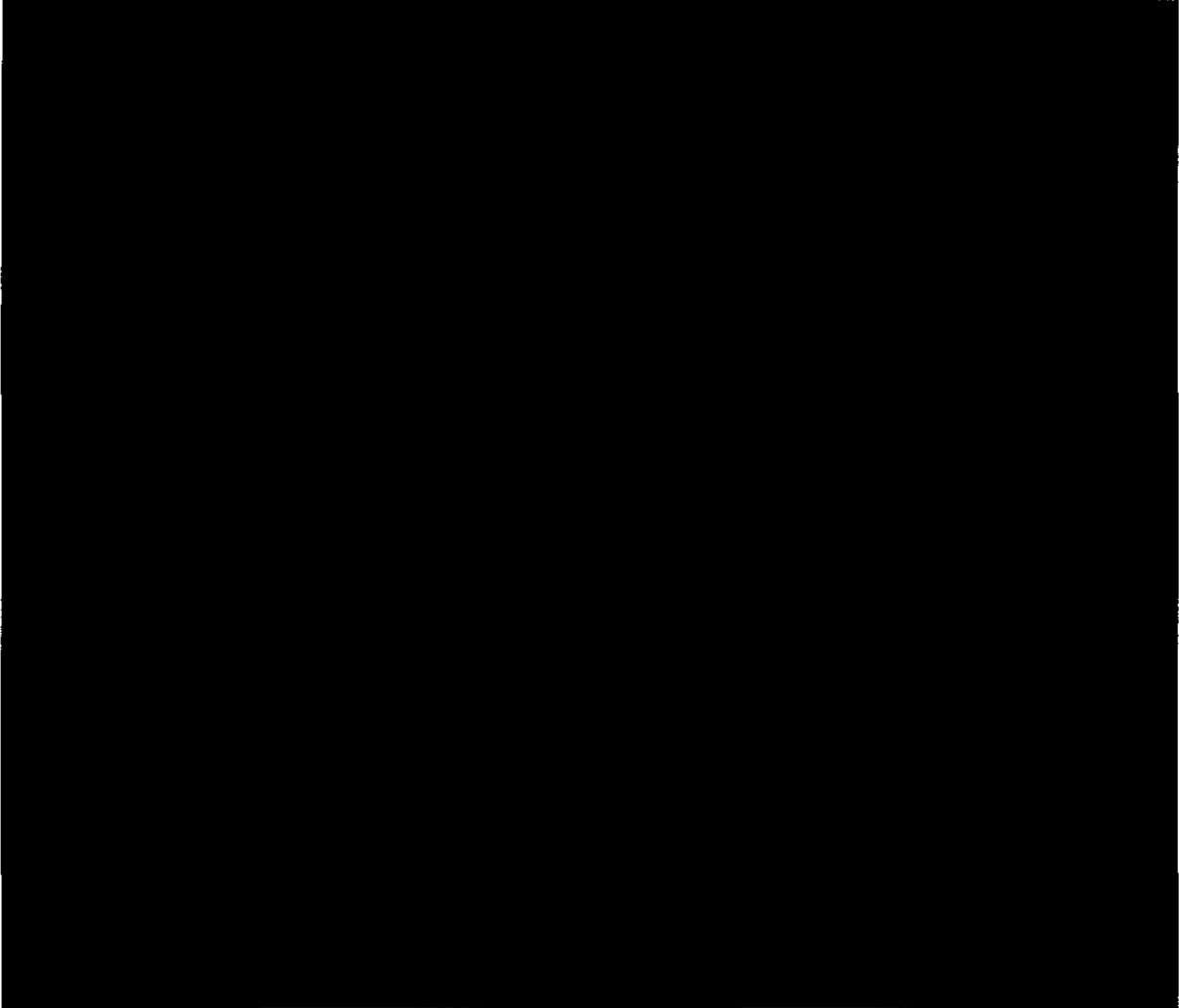


2 判決要旨

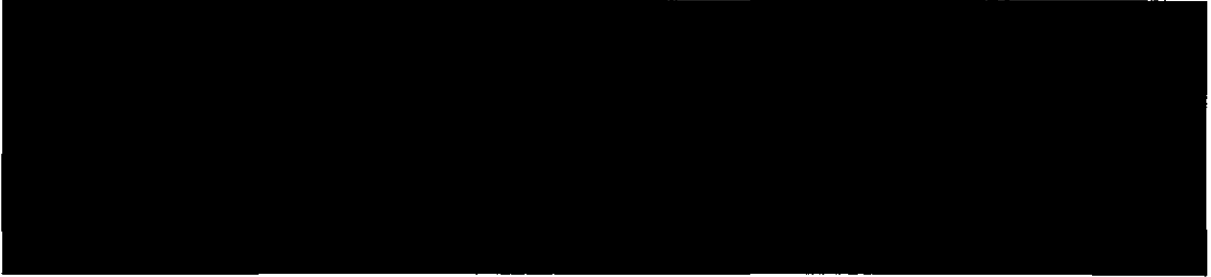
(1) 〈判断枠組み〉



(2) 〈熱中症発症の有無〉



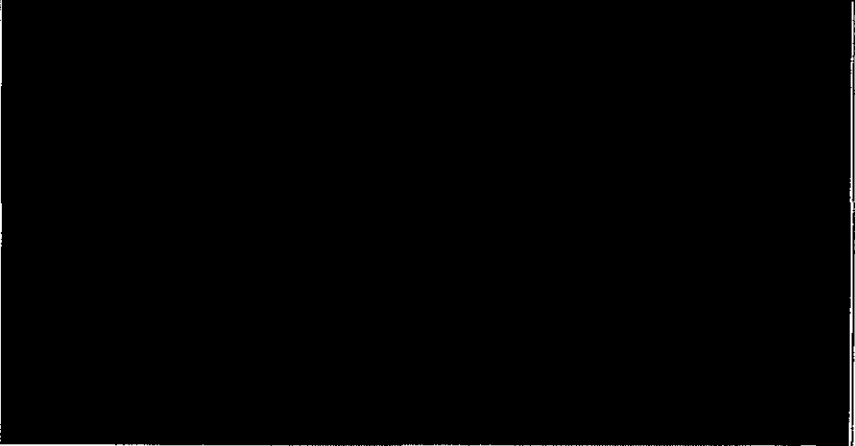
(3) (業務の過重性の有無)



(4) (まとめ)



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	医師の証人尋問	

○〔脳心2〕 平成■■年■■月■■日 東京地裁判決 国敗訴（一審確定）

[Redacted]

キーワード：時間外労働時間数80時間以内、精神的緊張

1 事件の概要

[Redacted]

2 判決要旨（国敗訴）

(1) 〈判断枠組み〉

[Redacted]

(2) 〈業務の過重性〉

[Redacted]

(3) 〈業務起因性〉

[Redacted]

3 国の主張と判決の主な相違点

		国主張	判決
1	労働時間の事実認定	[Redacted]	[Redacted]

2	精神的緊張		

4 敗訴要因

		敗訴した要因として考えられる事項
1	精神的緊張の評価	
2	出血病巣の特定及びリスクファクター等	

○ [脳心3] 平成 年 月 日 東京地裁判決 国敗訴（一審確定）

キーワード：心房細動、上腸間膜動脈閉塞、不整脈による血栓の形成

1 事件の概要

2 判決要旨（国敗訴）

(1) 〈判断枠組み〉

(2) 〈業務起因性〉

3 国の主張と判決の主な相違点

		国主張	判決
1	本件における上腸間膜動脈虚血の原因と考えられる疾病 ①上腸間膜		

	動脈塞栓症		
2	同 ②上腸間膜 動脈血栓症		
3	同 ③慢性腸間 膜虚血		

4 敗訴要因

		敗訴した要因として考えられる事項
1	被災者の業務内容に係る主張	
2	本件疾病の発症原因	

○ [その他6] 平成 年 月 日 千葉地裁判決 国勝訴 (一審確定)

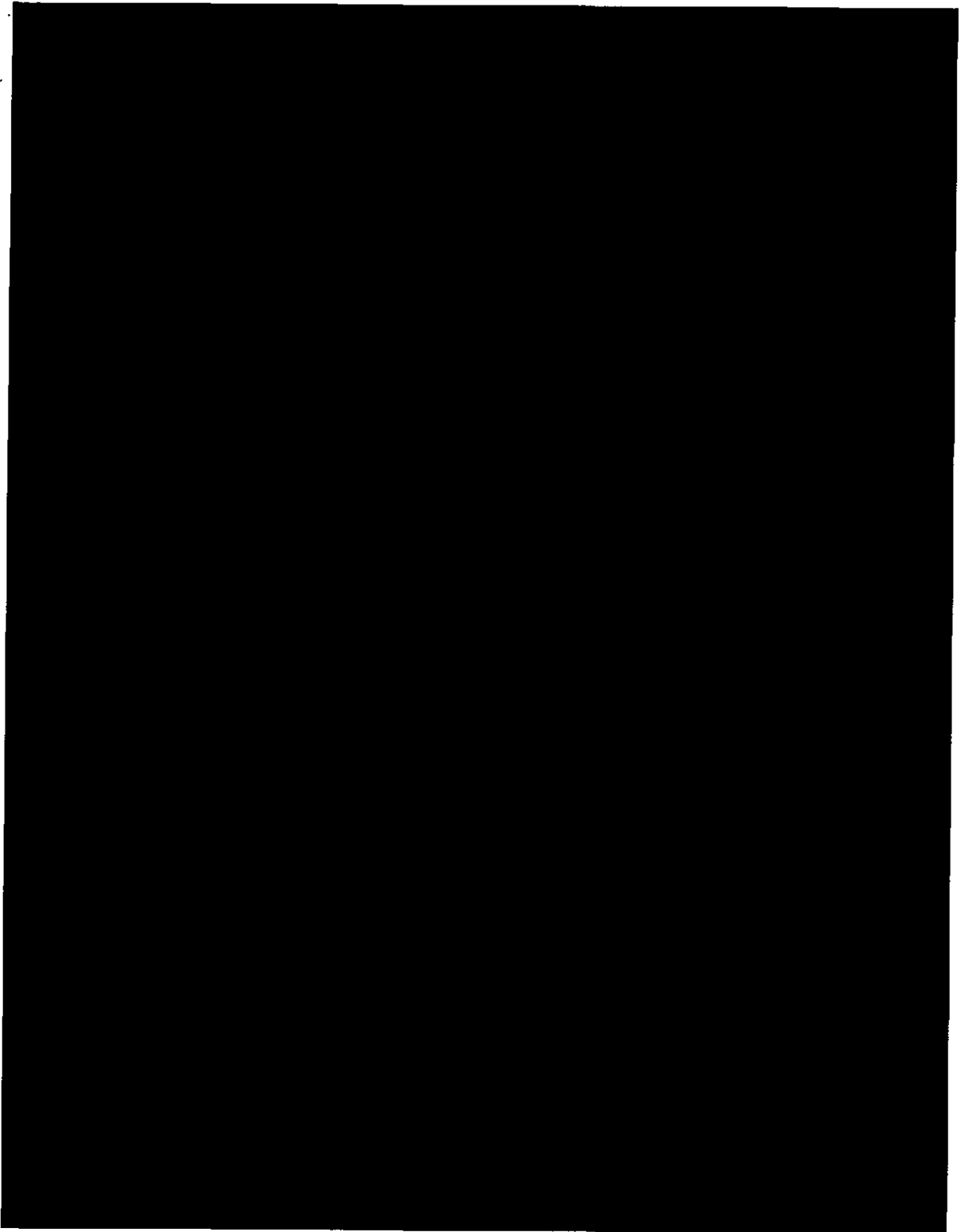
キーワード: 石綿びまん性胸膜肥厚による肺機能障害、%肺活量の値と動脈血酸素分圧の値との不整合

1 事件の概要

2 判決要旨

(1) <判断枠組み: 認定基準自体は争点となっていない>

(2) <本件著しい肺機能障害と認められるか>



3 勝訴要因

	国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	各種検査データから肺機能が良好であったことを主張したこと

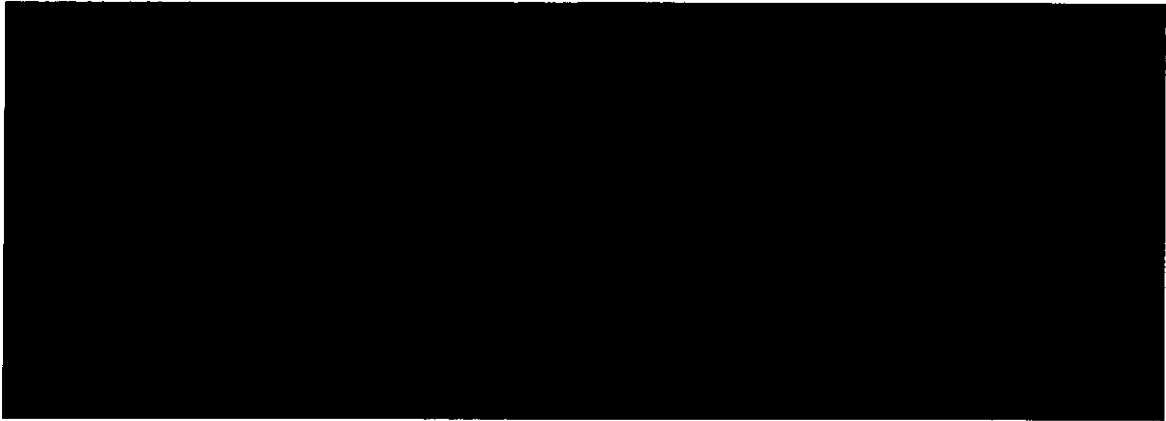
○ [石綿1] 平成■■年■■月■■日 宮崎地裁判決 国勝訴 (控訴審係争中)

キーワード：石綿肺、顕微鏡的多発血管炎

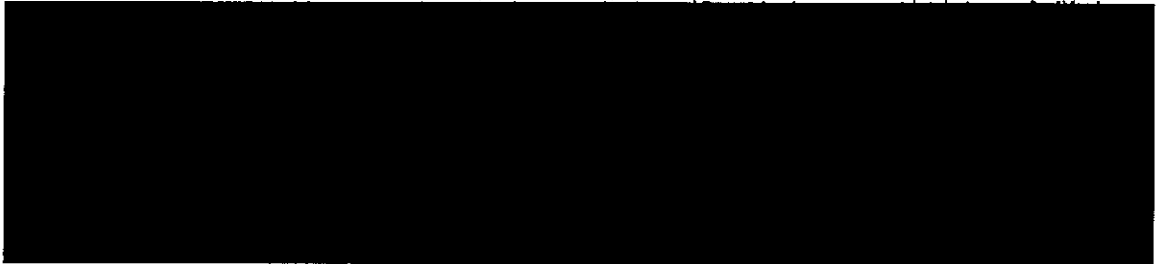
1 事件の概要

2 判決要旨 (国勝訴)

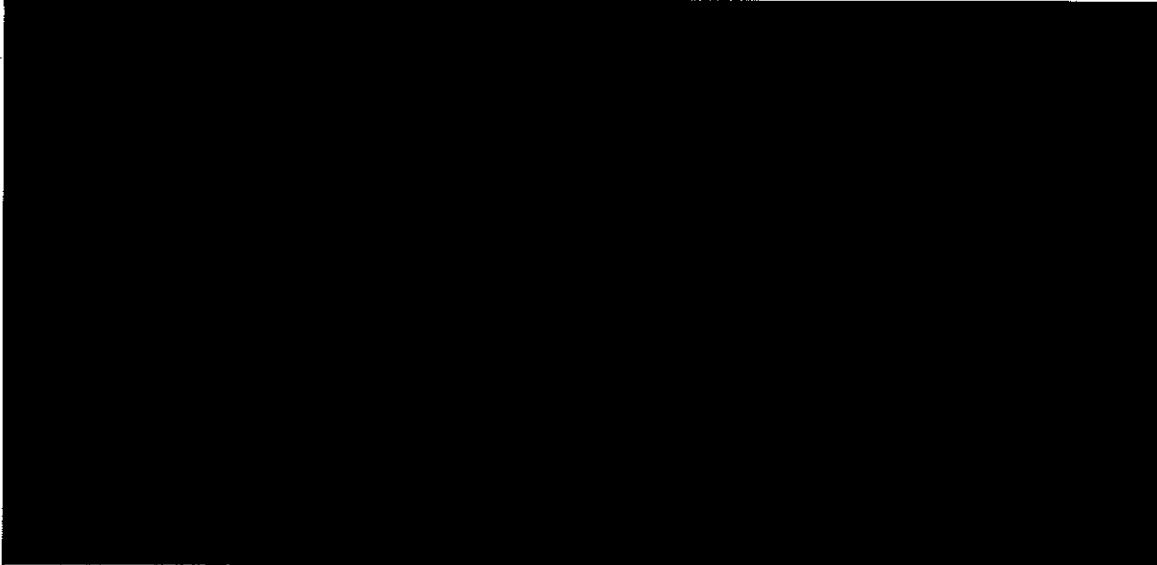
(1) 〈石綿肺の検討〉



(2) 〈認定基準への当てはめ〉



(3) 〈業務起因性〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	石綿への職業ばく露の程度	
2	石綿肺の否定	

○ [石綿2] 平成■■年■■月■■日 大分地裁判決 国勝訴 (控訴審係争中)

キーワード：石綿肺、間質性肺炎

1. 事件の概要

2. 判決要旨 (国勝訴)

(1) 〈石綿ばく露の程度〉

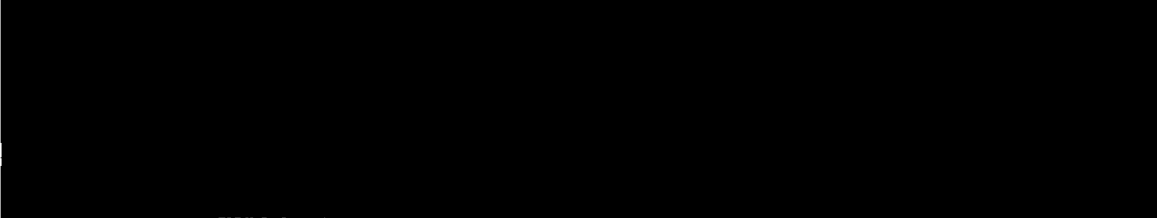
(2) 〈石綿肺の有無〉



(3) 〈業務起因性〉



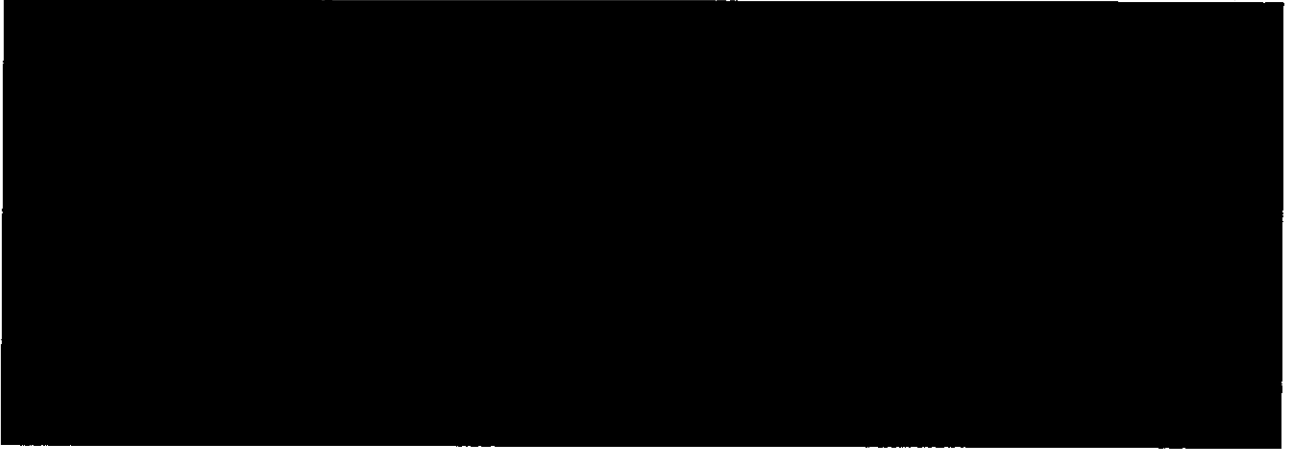
(4) 〈訴訟における主張の範囲〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント(主張、証拠)
1	石綿ばく露の濃度	
2	石綿肺の否定	

エ〈胸膜プラークが存在する高度の蓋然性を基礎付ける事情の有無〉



オ〈まとめ〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	業務起因性 (平成18年基準)	A large black rectangular redaction covering the content of item 1.
2	被告からの鑑定申立（胸膜プラーク所見）	A large black rectangular redaction covering the content of item 2.

○ [石綿1] 平成 年 月 日 静岡地裁判決 国敗訴 (一審確定)

キーワード：確定診断のない中皮腫

1 事件の概要

2 判決要旨 (国敗訴)

(1) 〈判断枠組み〉

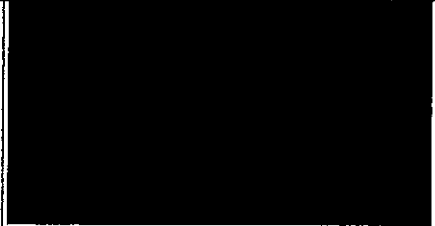
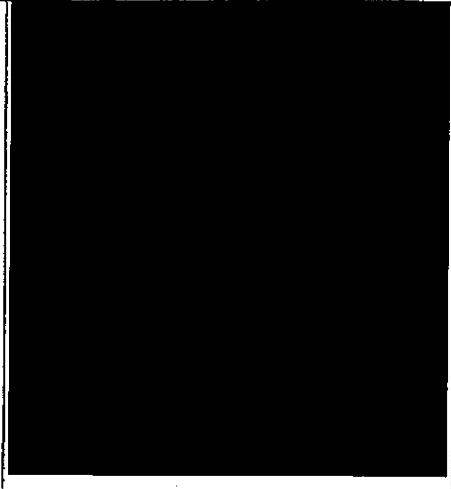
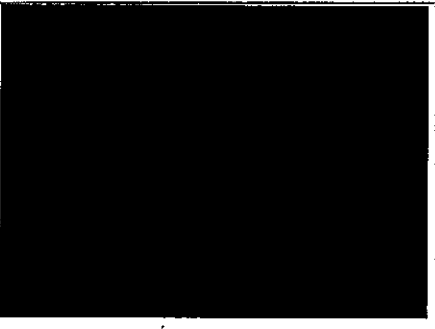

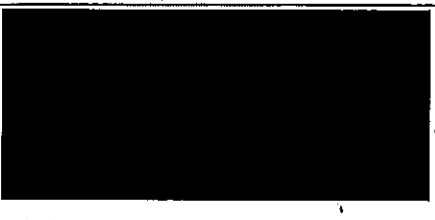

(2) 〈中皮腫と臨床所見等との整合性・他疾患との鑑別〉

(3) 〈業務起因性〉



3 国の主張と判決の主な相違点

		国主張	判決
1	症状		

【平成25年度敗訴判決】

2	CT画像		
3	胸水細胞診		
4	胸水中ヒアルロン酸値		

4 敗訴要因

		敗訴した要因として考えられる事項
1	医学的な判断についての裁判官の心証形成	
2	確定診断のない事案	

○【その他3】平成 年 月 日 東京地裁判決 国敗訴（一審確定）

キーワード：石綿肺がん、同僚に胸膜プラークが認められた事例

1 事件の概要

2 判決要旨（国敗訴）

（1）〈判断枠組み〉

（2）〈業務起因性〉

3 国側主張と判決との相違点

		国側主張	判決
1	亡夫の検査画像所見上、胸膜プラーク所見の記載がないことについて		
2	同僚の胸膜プラークの所見について		

4 敗訴の要因分析

		敗訴した要因として考えられる事項
1	胸膜プラークの有無の確認	
2	石綿ばく露の状況	

○〔その他5〕平成 年 月 日 宮崎地裁判決 国敗訴（一審確定）

[Redacted]

キーワード : ブレーキライニング交換作業、石綿肺

1 事件の概要

[Redacted]

2 判決要旨（国敗訴）

(1) 〈判断枠組み〉

[Redacted]

(2) 〈業務起因性〉

[Redacted]

3 国の主張と判決の主な相違点

	国主張	判決
1 石綿ばく露状況	[Redacted]	[Redacted]

2	じん肺法による胸部X線の像		
3	肺機能障害		
4	石綿肺		

4 敗訴要因

		敗訴した要因として考えられる事項
1	石綿ばく露状況	
2	原告主張への反論	

○〔石綿2〕平成■■年■■月■■日 東京高裁判決 国敗訴（二審確定）
（平成■■年■■月■■日 東京地裁判決 国敗訴 国控訴）



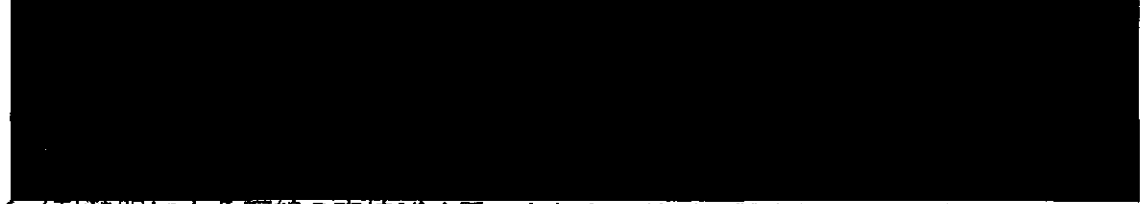
キーワード：石綿肺がん、クリソタイルの長期ばく露

1 事件の概要

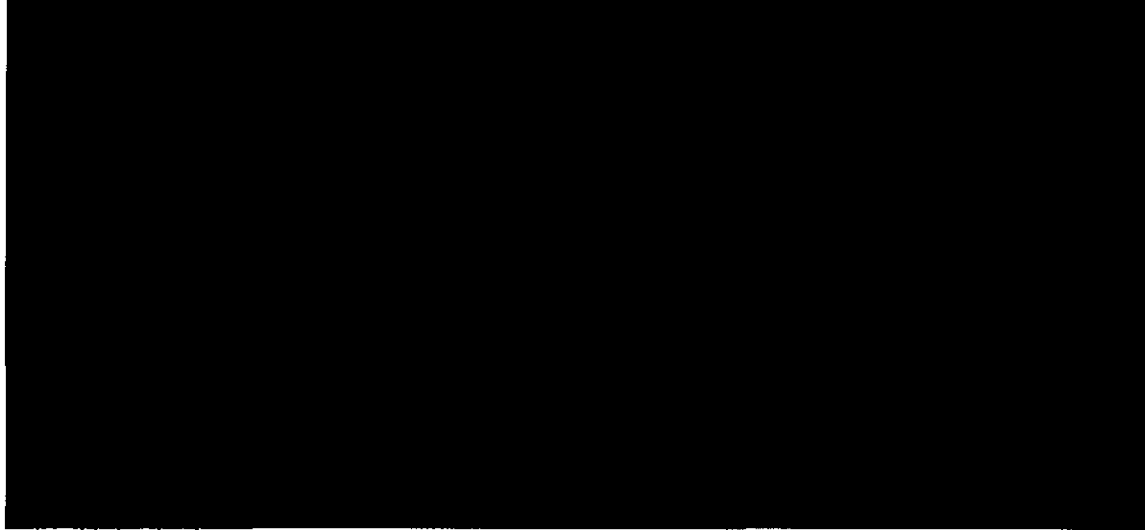


2 判決要旨（控訴審）（国敗訴・確定）

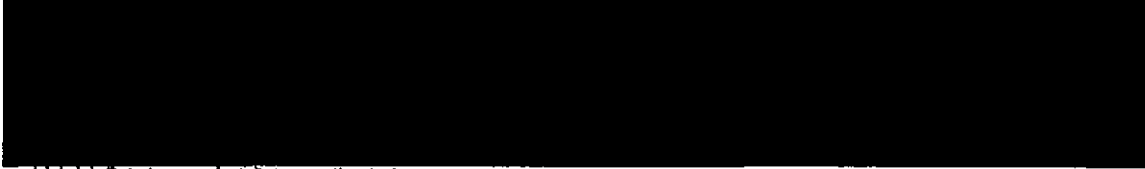
ア〈平成18年認定基準と平成19年補償課長通知〉



イ〈耐熱服による石綿の直接ばく露の有無と石綿ばく露作業従事期間〉



ウ〈石綿と肺がんの因果関係〉



エ〈被控訴人の肺がんの業務起因性〉



オ〈業務起因性に関する補充判断〉

3 国の主張と判決の主な相違点

		国主張	判決
1	業務起因性の判断基準		
2	石綿ばく露状況		

4 敗訴原因

5 クリソタイルの長期ばく露に係る訴訟上の留意事項

○〔脳機能障害1〕平成 年 月 日 東京高裁判決 国勝訴（上告受理申立中）
（平成 年 月 日 東京地裁判決 国勝訴 原告控訴）

キーワード：高次脳機能障害、MTBI

1 事件の概要

2 判決要旨（第一審及び控訴審）（国勝訴）

(1) 〈事故の態様〉

(2) 〈疾病と事故との因果関係〉

(3) 〈症状の存在〉

(4) 〈控訴人の自覚症状〉

(5) 〈受傷機転との関係〉

(6) 〈WHO基準との関係〉

(7) 〈結論〉

3. 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	事故の態様から、控訴人がMTBIを発症したとは言えないこと	[Redacted]
2	自賠償報告書の提出	
3	本件事故後の症状経過から、控訴人がMTBIを発症したとは言えないこと	

○〔脳機能障害3〕平成■■年■■月■■日 東京高裁判決 国勝訴(上告受理申立中)
(平成■■年■■月■■日 東京地裁判決 国勝訴 原告控訴)

キーワード：高次脳機能障害、MTBI

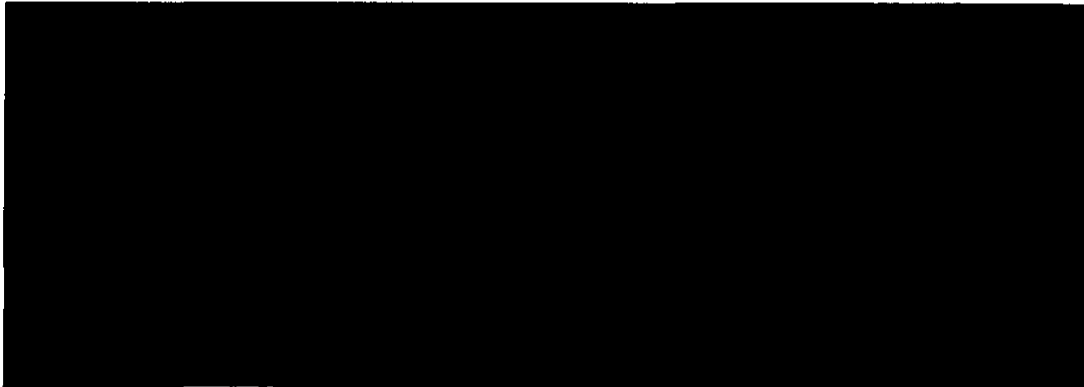
1 事件の概要

2 判決要旨

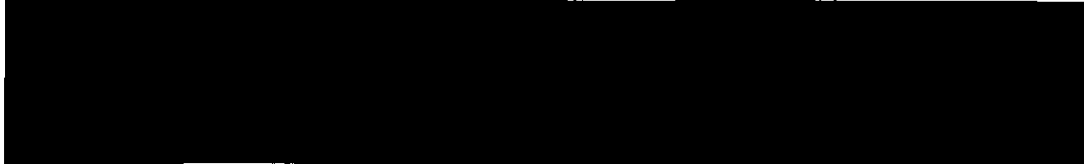
(1) 一審判決(国勝訴)

ア〈原告の症状〉

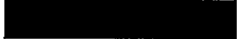
イ〈本件事故と原告の症状との因果関係〉



ウ〈結論〉



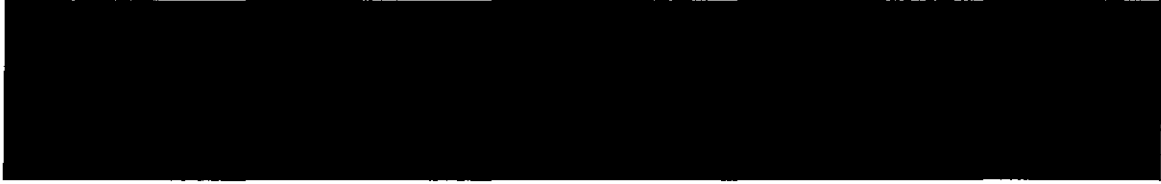
(2) 控訴審判決（国勝訴）



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	交通事故の程度	
2	意識障害の有無	
3	症状の経過	

- 〔脳機能障害1〕平成■■年■■月■■日 東京高裁判決 国勝訴（二審確定）
（平成■■年■■月■■日 東京地裁判決 国勝訴 原告控訴）



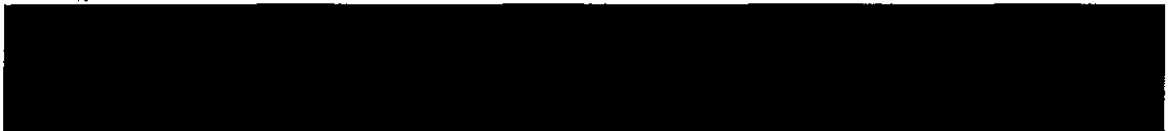
キーワード：高次脳機能障害

1 事件の概要

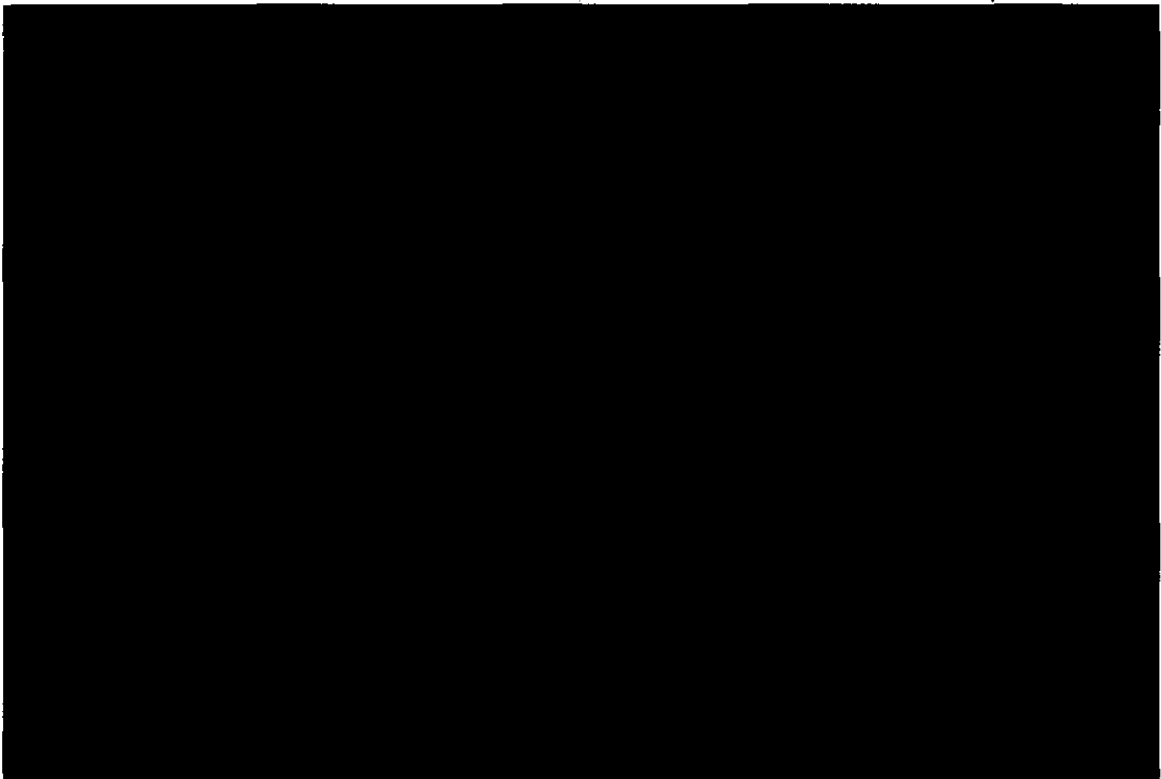


2 判決要旨（控訴審（一審判決の引用を含む））（国勝訴）

(1) 〈高次脳機能障害の判断基準〉

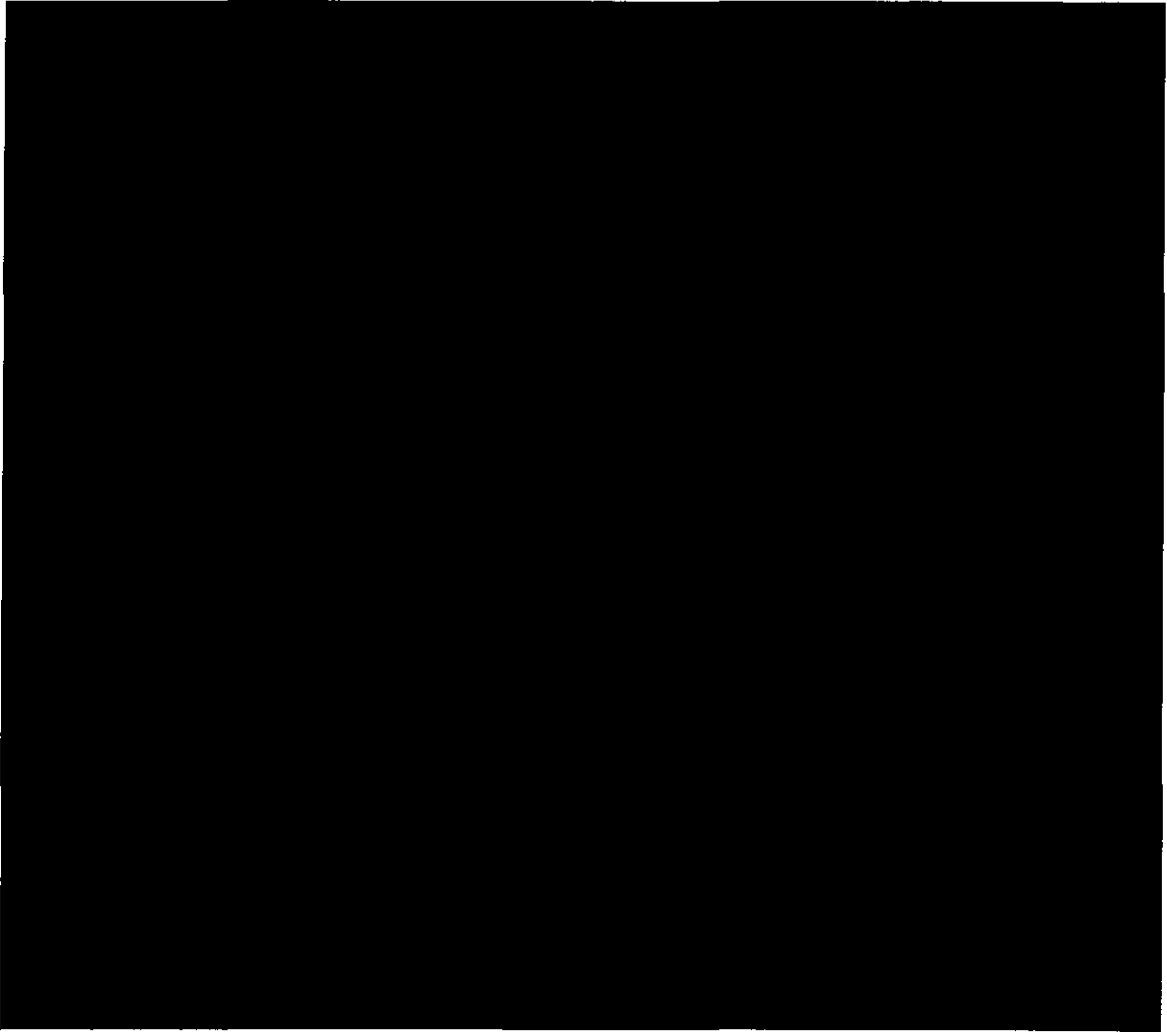


(2) 〈業務起因性の主張〉



(3) 〈業務起因性〉





3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	本件事故と控訴人の症状との因果関係は認められないこと	
2	高次脳機能障害の判断基準として、「支援の手引き」の診断基準を示したこと	

○〔その他1〕平成■■年■■月■■日 広島高裁岡山支部判決 国勝訴（二審確定）
（平成■■年■■月■■日 岡山地裁判決 国勝訴 原告控訴）



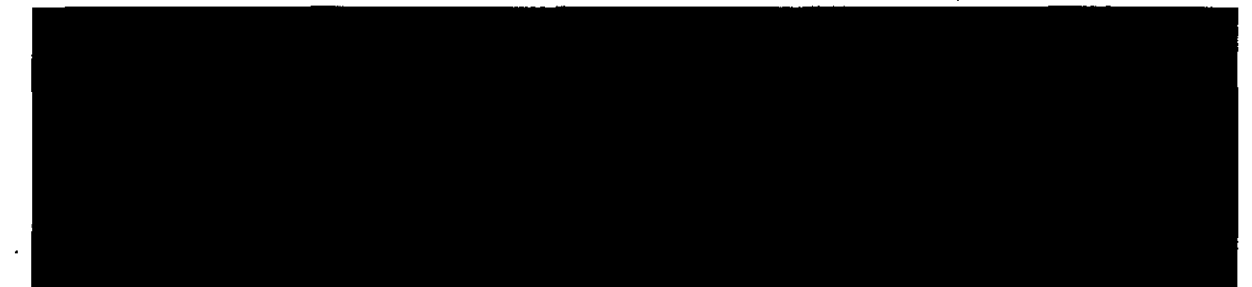
キーワード : 脳脊髄液減少症

1 事件の概要

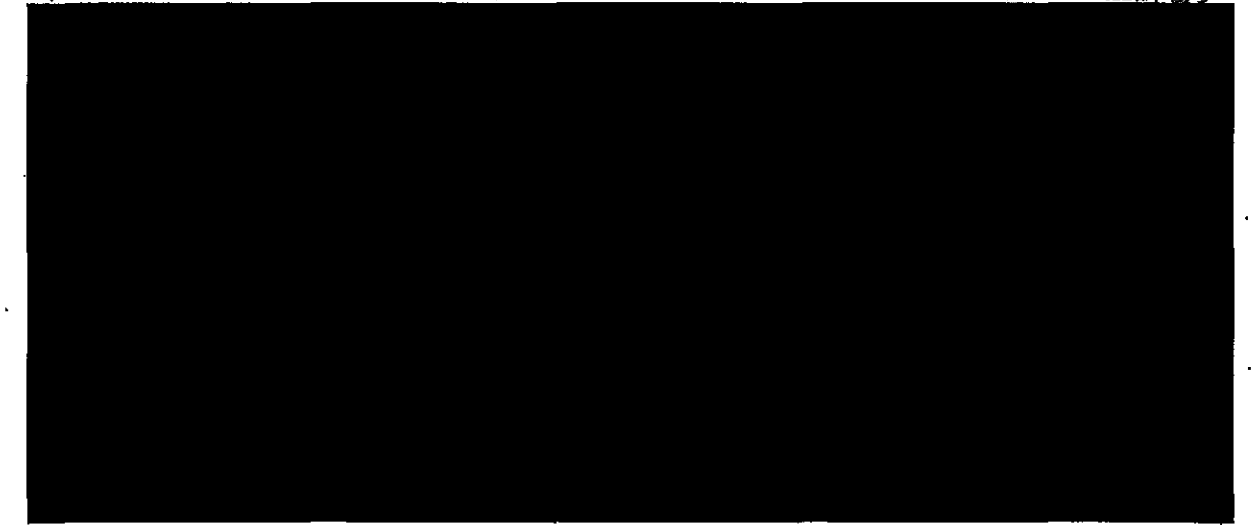


2 判決要旨（国勝訴）

(1) 〈判断枠組み〉〔原審、控訴審〕



(2) 脳脊髄液減少症についての一般的医学知見〔ア及びイ原審、控訴審、ウ主に控訴審〕



[Redacted]

(3) 療養上の相当性〔原審、控訴審〕

[Redacted]

(4) 脳脊髄液減少症罹患の有無〔控訴審〕

[Redacted]

(5) 平成■■年■■月■■日以後の療養の必要性〔原審、控訴審〕

3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	医学意見書	[Redacted]
2	事故による衝撃	[Redacted]

○ [漏出症1] 平成■■年■■月■■日 和歌山地裁判決 国敗訴 (控訴審係争中)

キーワード：脳脊髄液漏出症、四肢麻痺

1 事件の概要

2 判決要旨 (国敗訴)

(1) 〈脳脊髄液漏出症の発症の有無〉

(2) 〈原告の症状と本件災害との間の因果関係〉

(3) 〈結論〉

3 国の主張と判決の主な相違点

		国主張	判決
1	脳脊髄液漏出症の発症の有無		
2	原告の症状と本件災害との間の因果関係		
3	原告の障害等級		

4 敗訴要因

	敗訴した要因として考えられる事項
1	脳脊髄液漏出症及び原告の症状に関する主張

○〔化学物質過敏症1〕平成 年 月 日 東京地裁判決 国勝訴（一審確定）

キーワード：受動喫煙症、平均的労働者

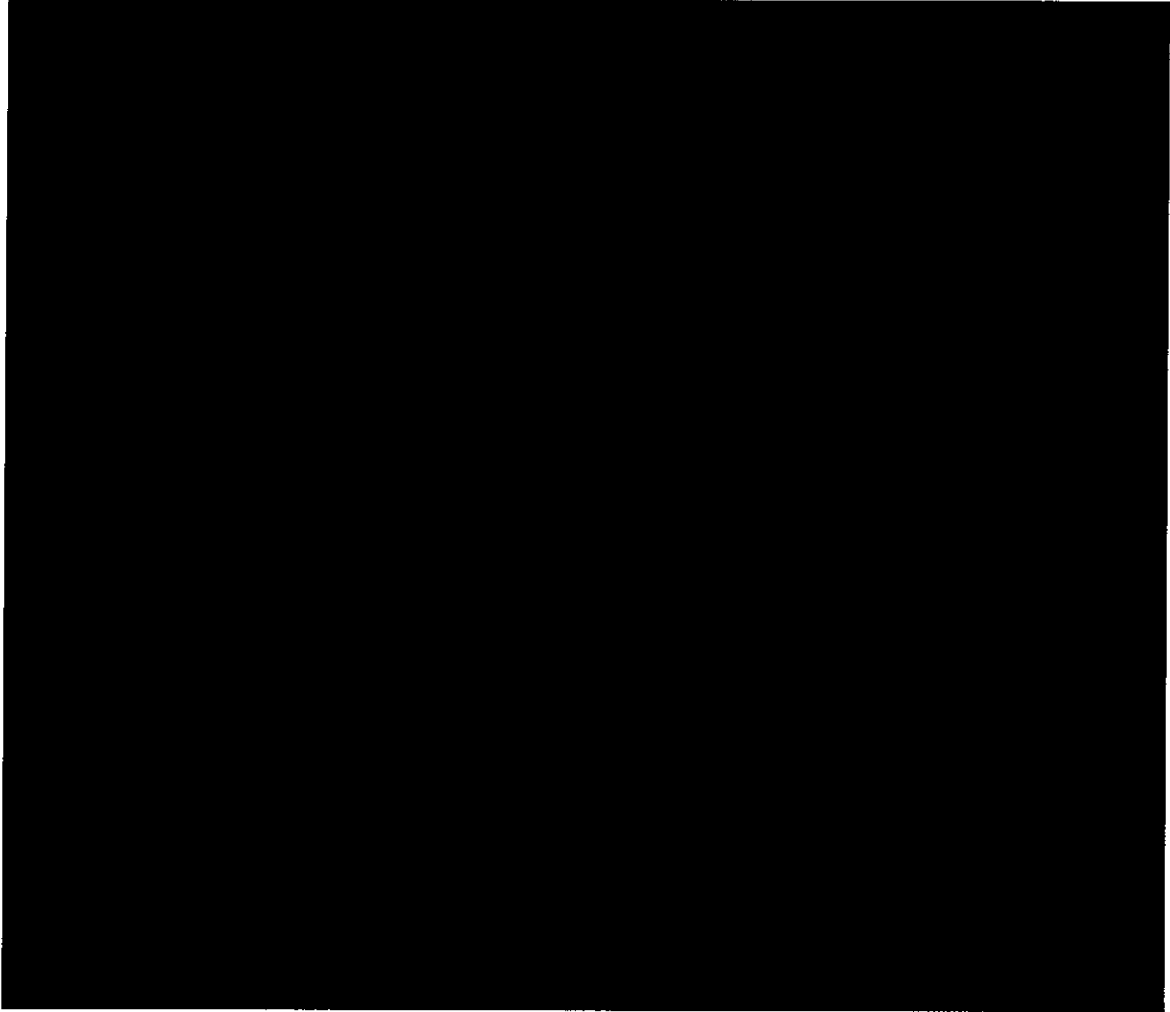
1 事件の概要

2 判決要旨（国勝訴）

（1）〈判断枠組み〉

（2）〈受動喫煙症診断基準〉

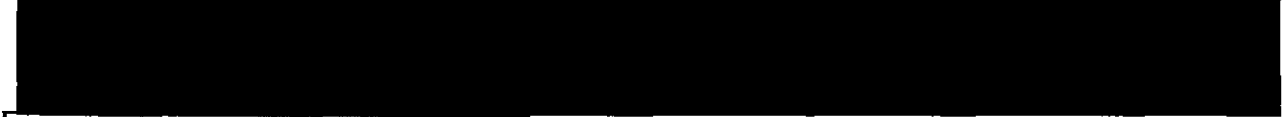
(3) 〈業務起因性〉



3 勝訴要因

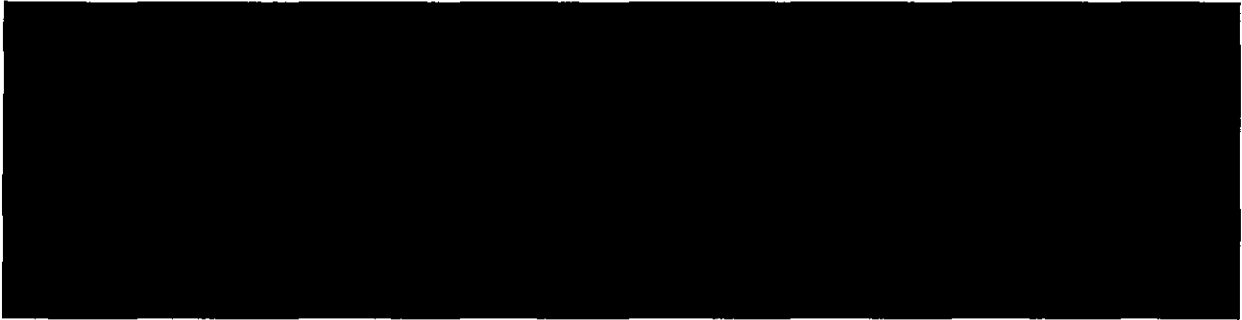
		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	受動喫煙症 診断基準が 確立した知 見でないこ と	
2	平均的労働 者からみて 症状発症の 危険性があ ったとはい えないこと	

○〔受動喫煙〕平成■■年■■月■■日 東京地裁判決 国勝訴（ ）



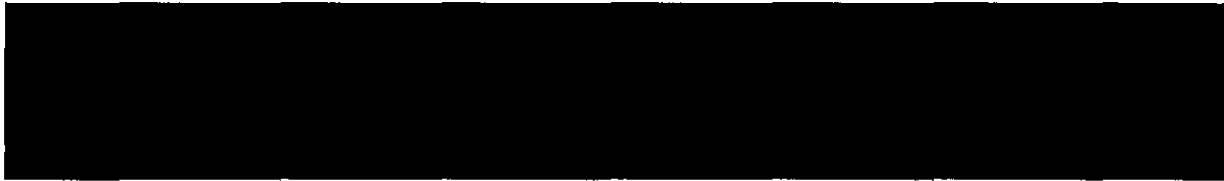
キーワード：受動喫煙、肺がん

1 事件の概要

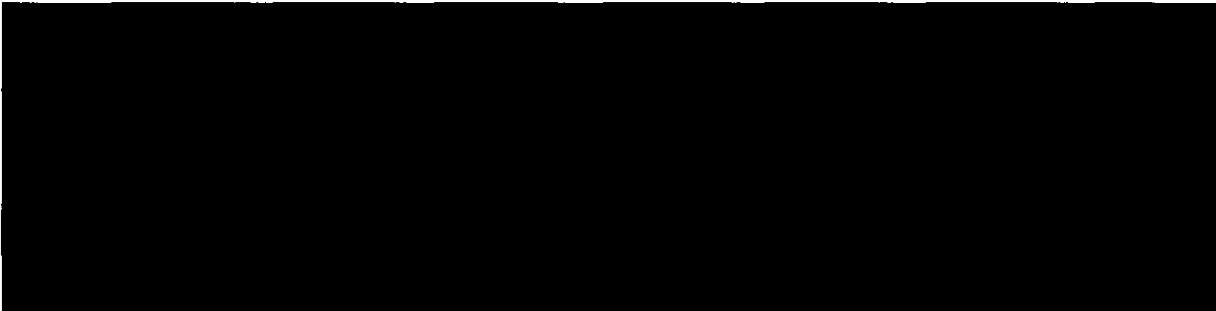


2 判決要旨

(1) <判断枠組み>

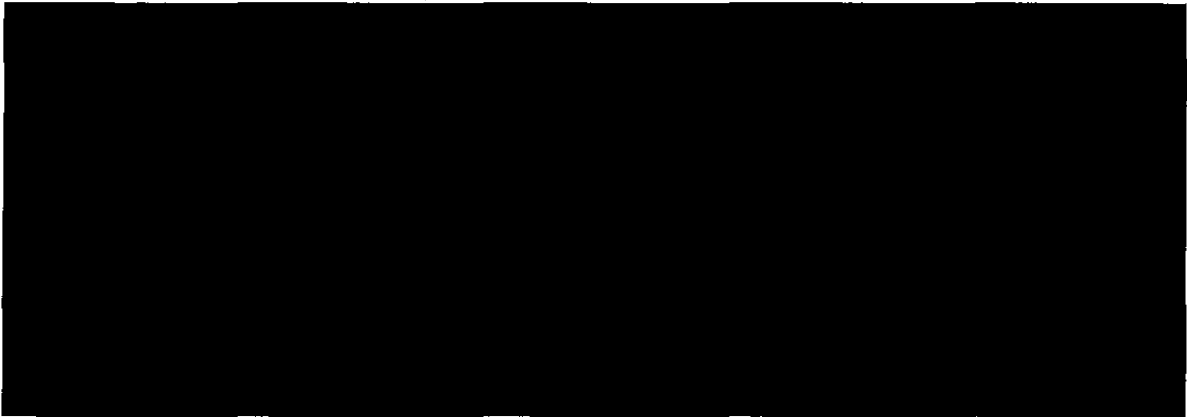


(2) <受動喫煙の程度>

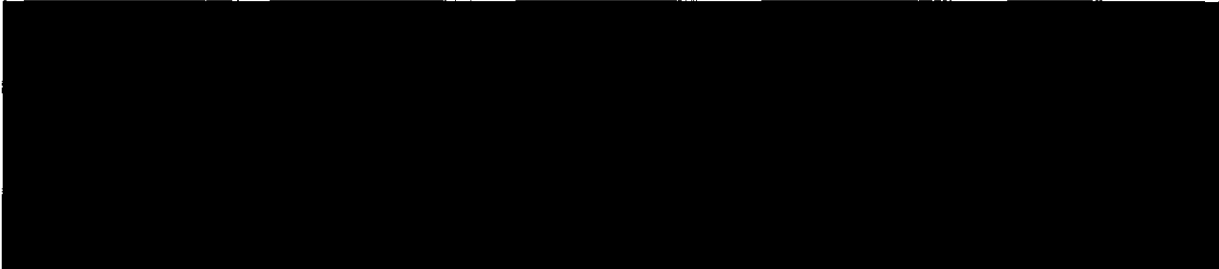


(3) <受動喫煙と本件疾病発症との因果関係>

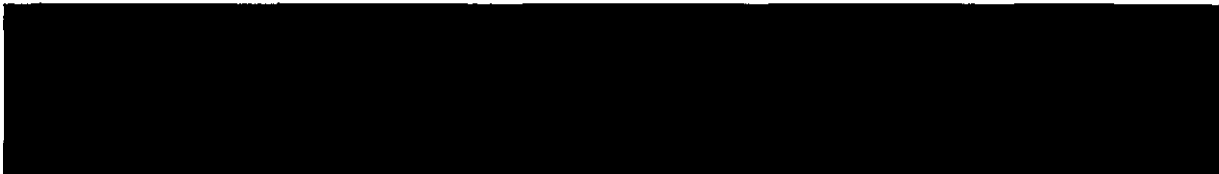




(4) <カーボンインクの気化物質と本件疾病発症との因果関係>



(5) <まとめ>



3 勝訴要因

1	受動喫煙による肺がんの発症リスクに係る医学的知見は確立されていないこと	
2	遺伝要因による肺がん発症の可能性があったこと	

○〔化学物質過敏症2〕平成 年 月 日 大阪高裁判決 国勝訴（確定）
（平成 年 月 日 大阪地裁判決 国勝訴 原告控訴）



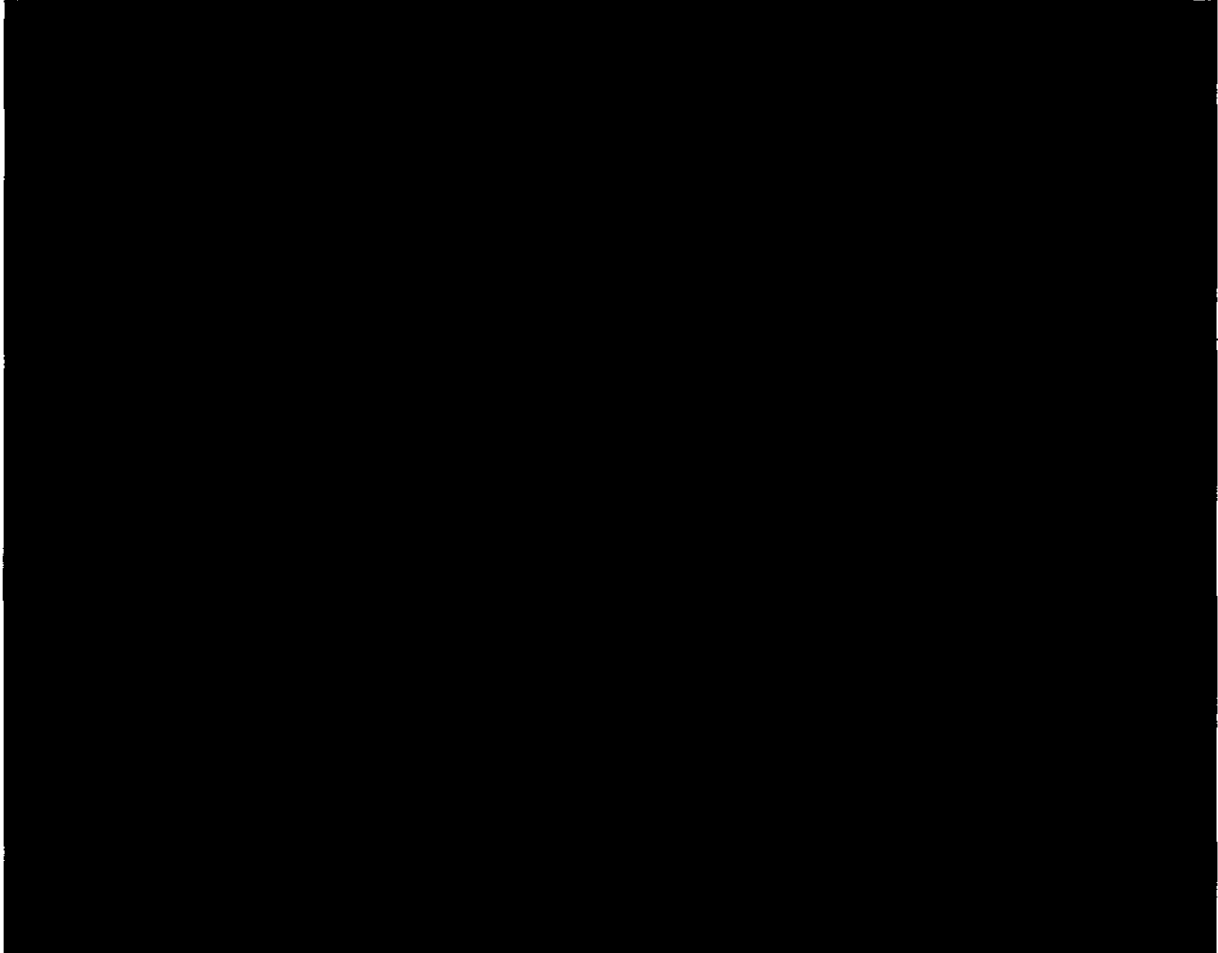
キーワード：トルエン、化学物質過敏症

1 事件の概要



2 判決要旨

- (1) 一審判決（国勝訴）
 - ア〈原告らが化学物質過敏症を発症したか否か〉



イ くトルエン暴露と原告らの疾病との間に相当因果関係が認められるか否か

(2) 控訴審判決（国勝訴）

ア く化学物質過敏症発症の有無及び控訴人らの疾病とトルエン暴露との因果関係

イ く控訴審における控訴人らの補充主張に対する判断

3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	室内濃度指針値	

○〔その他4〕平成■■年■■月■■日 東京地裁判決 国勝訴（一審確定）

キーワード： 頸肩腕症候群、パソコン作業

1 事件の概要

[Redacted content]

2 判決要旨（国勝訴）

(1) 〈判断枠組み〉

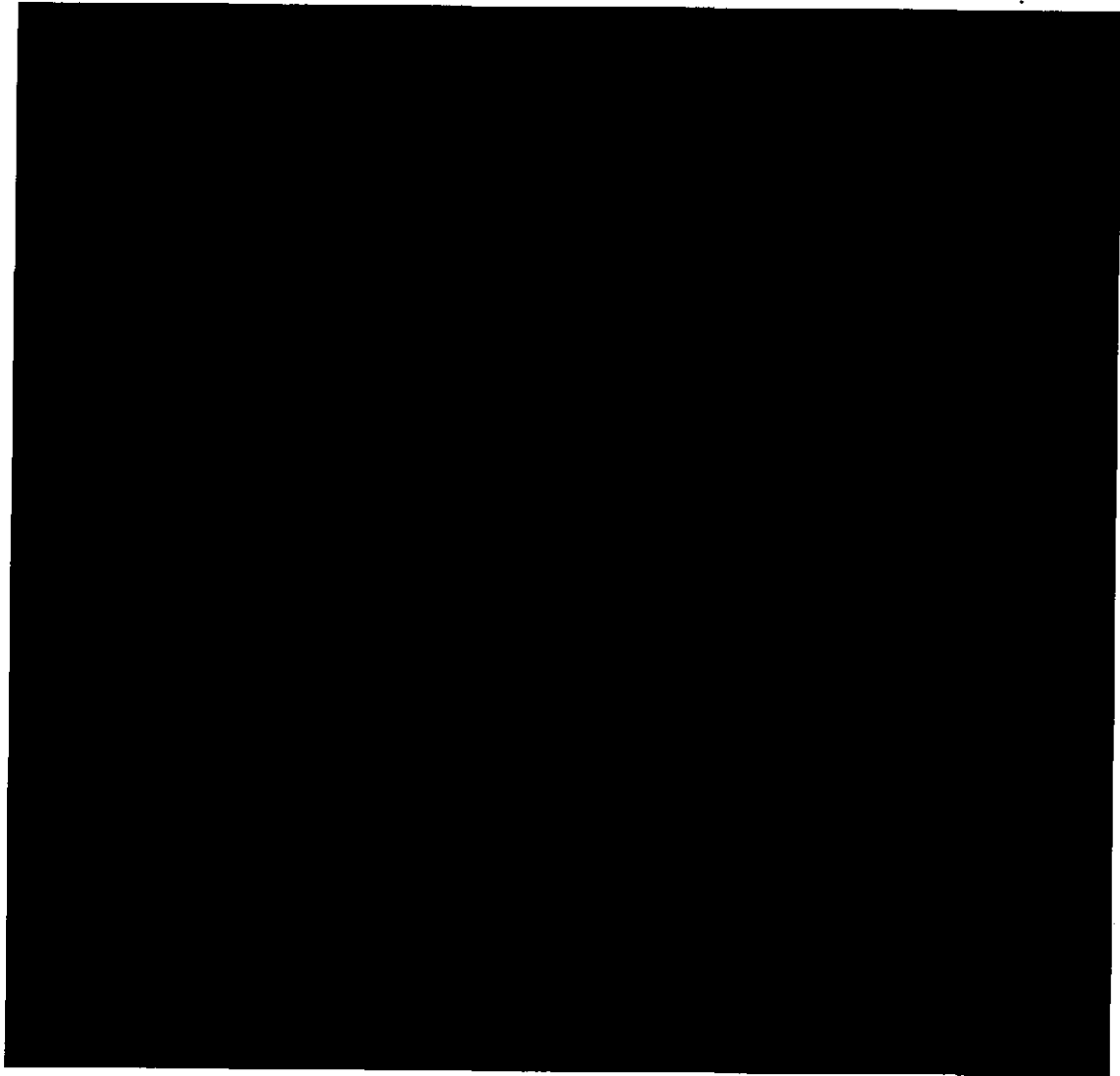
[Redacted content]

(2) 〈頸肩腕症候群の発症〉

[Redacted content]

(3) 〈業務起因性〉

[Redacted content]



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	上肢等に負担のかかる作業を主とする業務に従事したも のとはいえないこと	
2	原告側の医師の意見が原告の状況を踏まえたものではなく具体的に根拠を欠くこと	

○ [その他3] 平成 年 月 日 東京地裁判決 国敗訴 (一審確定)

キーワード: 上肢障害 (頸椎症性脊髄症)、腰痛、鉄製工具の形状と作業態様による負荷

1 事件の概要

2 判決要旨 (国敗訴)

(1) <判断枠組み>

(2) <業務起因性>

3 国の主張と判決の主な相違点

		国主張	判決
1	上肢障害に関する過重性の事実認定		

2	腰痛に関する過重性		

4 敗訴要因

敗訴した要因として考えられる事項	
1	鉄製工具の形状による重量負荷・作業態様による負荷の事実認定

○〔上肢障害1〕平成■■年■■月■■日 東京地裁判決 国敗訴（一審確定）

キーワード：■■■■■■■■■■ 頸肩腕障害、上肢等への負担

1 事件の概要

2 判決要旨（国敗訴）

(1) 〈判断枠組み〉

(2) 〈発症時期〉

(3) 〈業務起因性〉

3 国の主張と判決の主な相違点

		国主張	判決
1	上肢等に負担のかかる作業	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■

2	発症時期	

4 敗訴要因

		敗訴した要因として考えられる事項
1	上肢等に負担のかかる作業	
2	傷病名の特定と発症時期	

○〔再発1〕平成■■年■■月■■日 千葉地裁判決 国敗訴（一審確定）



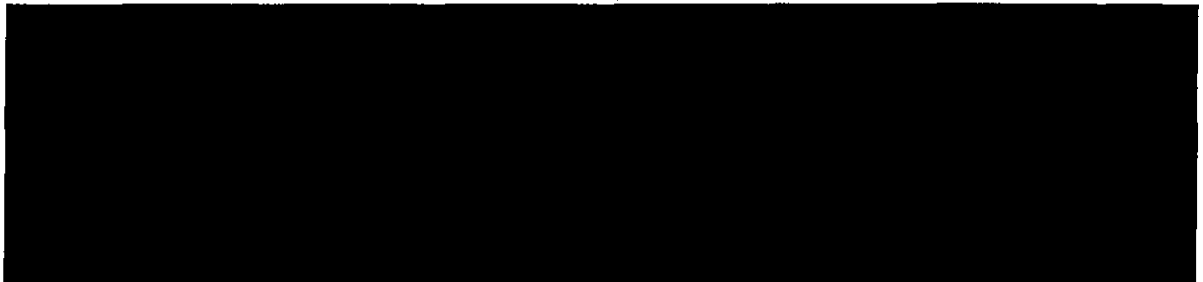
キーワード： 腱板断裂、リハビリの効果

1 事件の概要

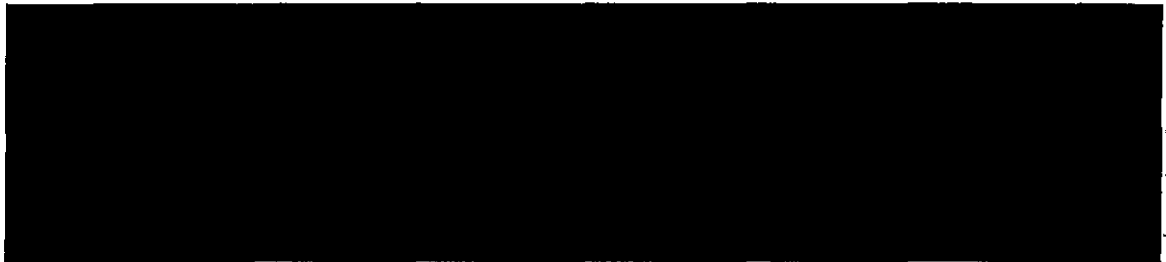


2 判決要旨（国敗訴・確定）

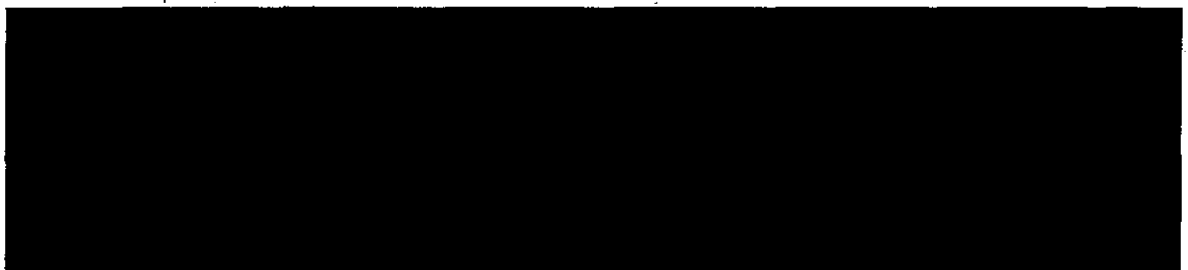
(1) <判断枠組み>



(2) <治療経過（事実認定）>



(3) <リハビリ治療の改善可能性>



3 国の主張と判決の主な相違点

	国主張	判決
1	リハビリ治療の効果	

4 敗訴要因

1	局医等意見の未徴収	
2	応訴方針の検討不足 (私病の調査)	

- 〔腰痛1〕平成■■年■■月■■日 大阪高裁判決 国勝訴（上告受理申立中）
（平成■■年■■月■■日 大阪地裁判決 国勝訴 原告控訴）

キーワード：身体障害を有する労働者、平均的労働者基準

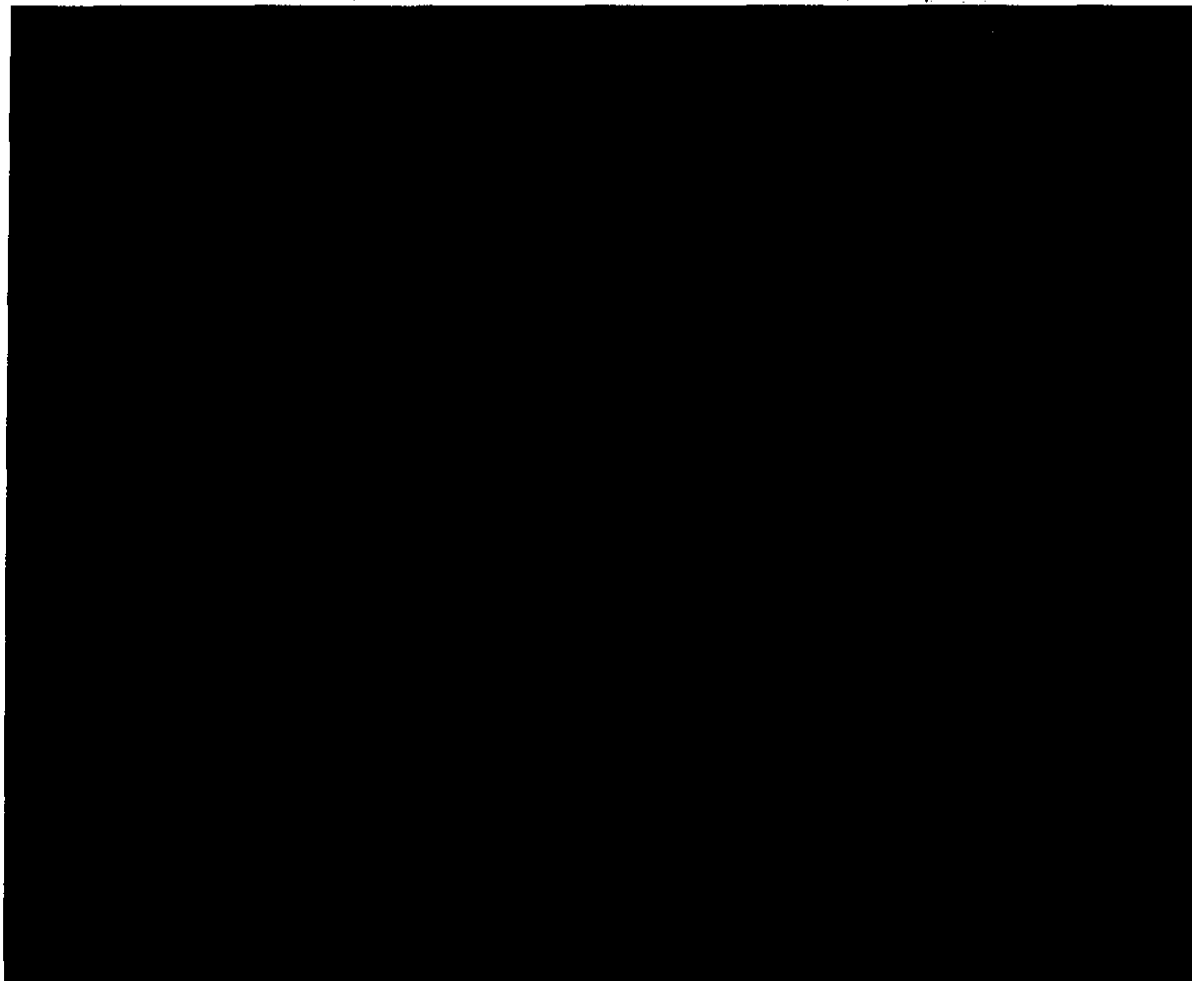
1 事件の概要

2 控訴審判決要旨（国勝訴）

(1) 〈一審判決からの引用〉



(2) 〈控訴審における控訴人の主張に対する判断〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
I	控訴人の身体障害の程度	

【平成24年度敗訴判決】

○〔その他2〕平成 年 月 日 高知地裁判決 国敗訴（一審確定）

キーワード：振動障害、皮膚温の中等度異常の評価

1 事件の概要

[Redacted]

2 判決要旨（国敗訴）

(1)

[Redacted]

(2) 〈末梢循環障害について〉

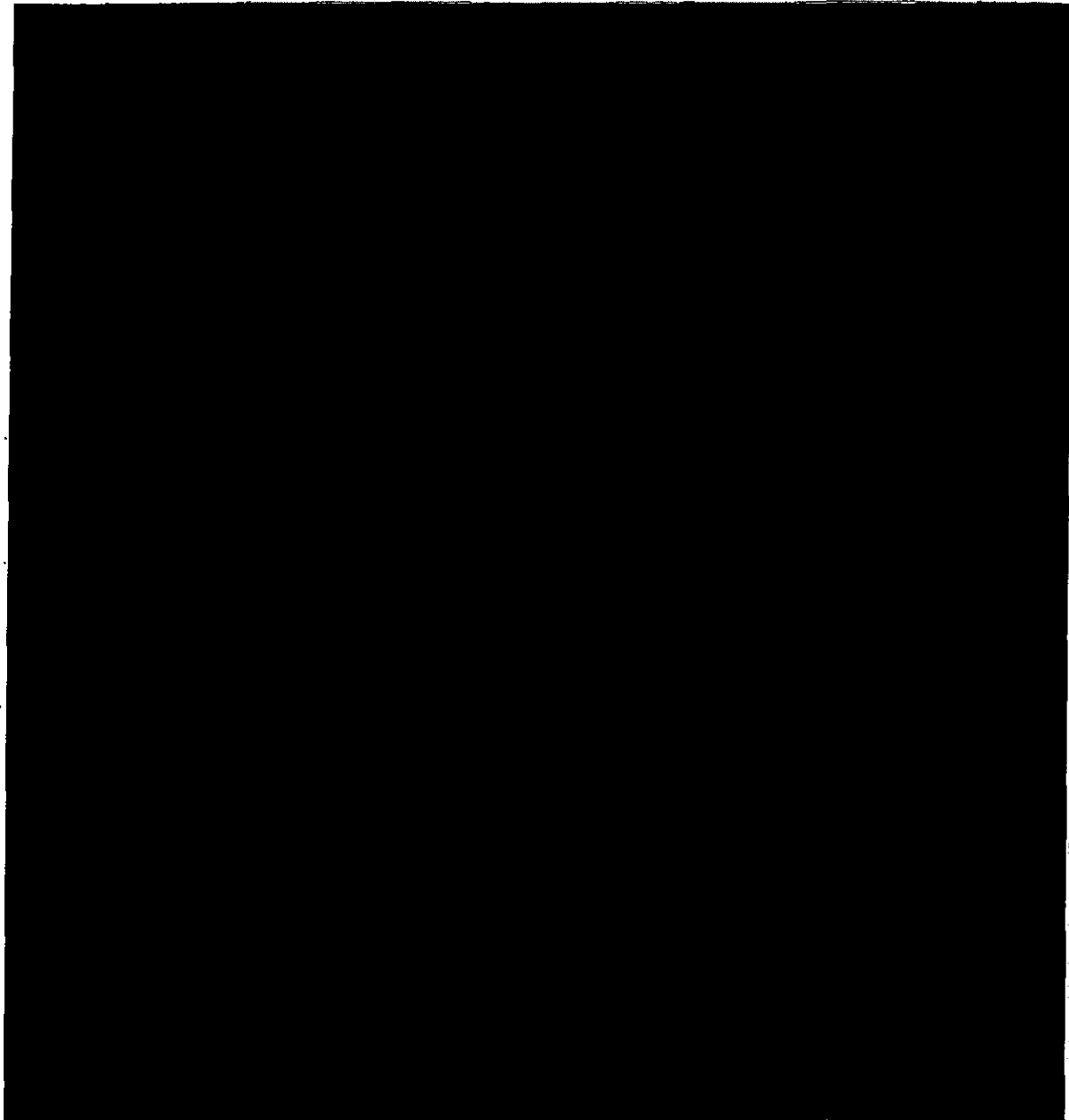
[Redacted]

(3)

[Redacted]

3 国側主張と判決との相違点

[Redacted]



4 敗訴の要因分析

	敗訴した要因として考えられる事項
1 末梢循環機能の検査結果についての評価	
2 頸椎疾患の検証	

- 〔労働者性1〕平成■■年■■月■■日 福岡高裁判決 国勝訴（二審確定）
（平成■■年■■月■■日 福岡地裁判決 国勝訴（原告控訴））



キーワード：労働者性、■■■■ 業務執行権

1 事件の概要



2 判決要旨（控訴審判決）

（1）労働者性の判断



（2）控訴人の主張に対する判断





3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	業務執行権の有無に関する主張	

()

()

【平成24年度敗訴判決】

○〔その他1〕平成■■年■■月■■日 福岡地裁判決 国敗訴 (一審確定)

キーワード : 本社課長の管理監督者性

1 事件の概要

2 判決要旨

(1) 〈判断枠組〉

(2) 〈亡夫の管理監督者性〉

(3) 〈結論〉

3 国側主張と判決との相違点

	国側主張	判決
1 経営者との一体性		
2 労働時間の裁量性		
3 待遇の相当性		

4 敗訴の要因分析

	敗訴した要因と考えられる事項
本社課長の権限	

○〔認定基準外1〕平成 年 月 日 東京高裁判決 国勝訴（上告受理申立中）
（平成 年 月 日 東京地裁判決 国勝訴 原告控訴）

キーワード：著しい長時間労働、慢性骨髄性白血病、高度の蓋然性の証明

1 事件の概要

2 控訴審判決要旨

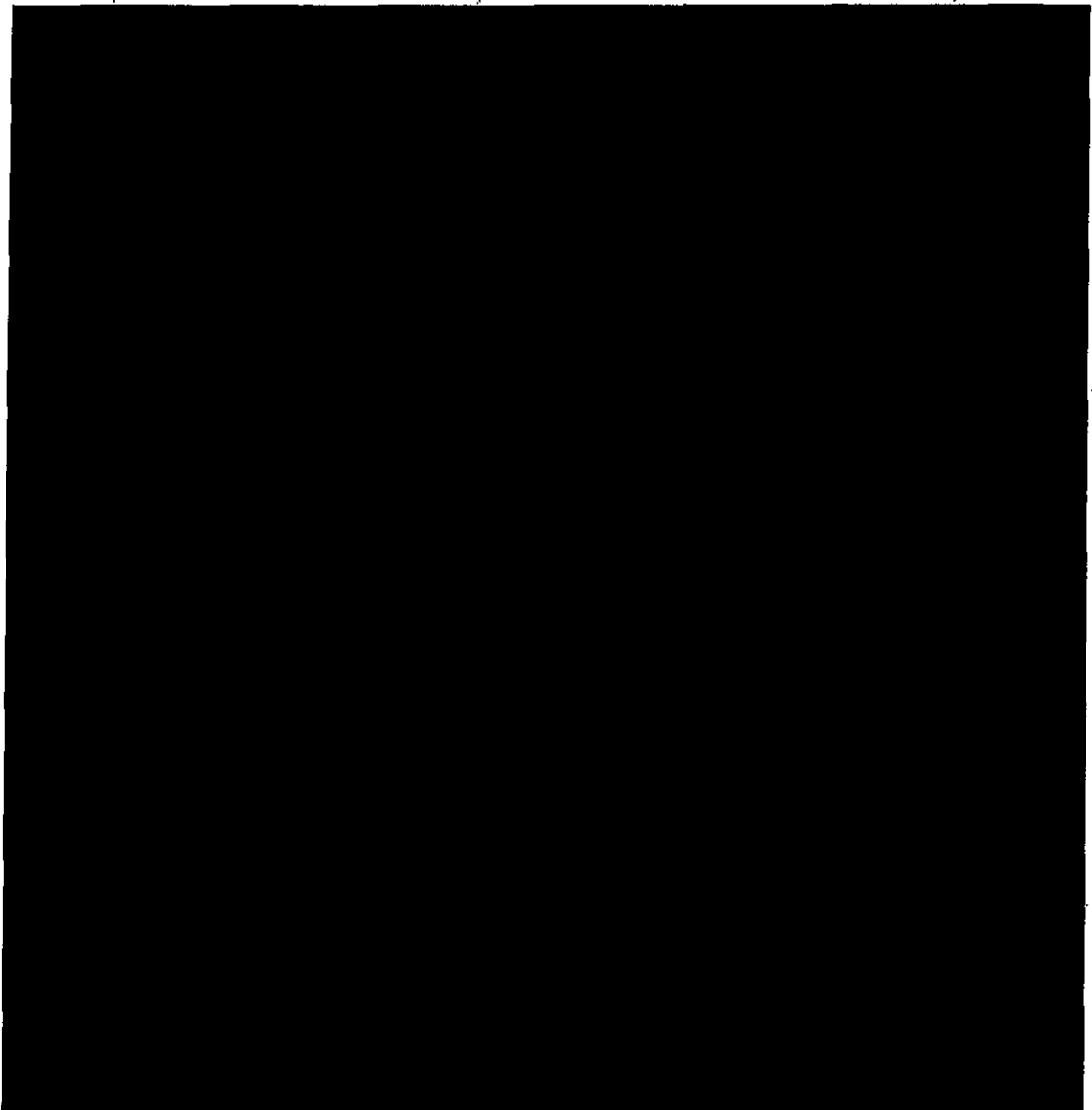
＜一審判決を以下のとおり引用＞

ア＜業務の過重性＞

イ＜因果関係の立証＞

ウ＜医学的知見の有無＞

エ＜高度の蓋然性の範囲内の事実的因果関係の立証の可能性＞



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	CMLの発症・増悪に対する過重労働等のストレスの影響	
2	認定基準がない疾病は、一般原則により業務起因性を判断すべきこと	

○〔認定基準外2〕平成 年 月 日 東京高裁判決 国勝訴（上告受理申立て中）
（平成 年 月 日 東京地裁判決 国勝訴 原告控訴）

キーワード：原発性肝がん、海外出張

1. 事件の概要

2. 控訴審判決要旨

<一審判決を以下のとおり引用>

ア <症状経過>

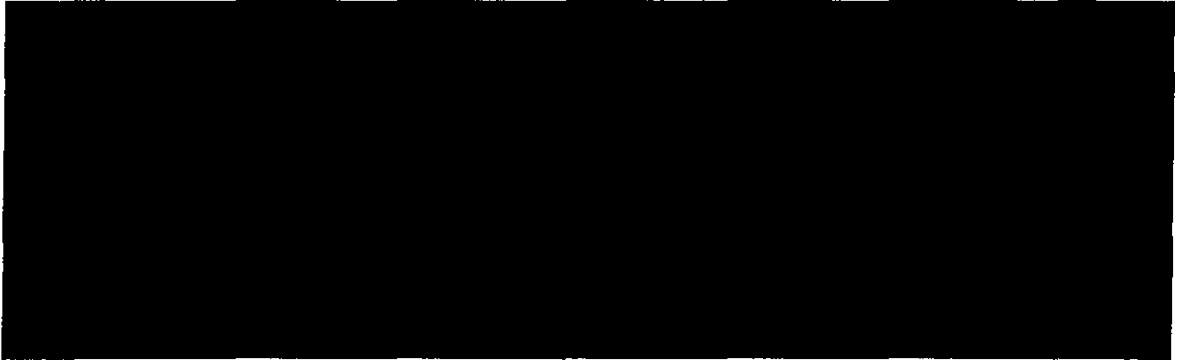
イ <業務起因性>

ウ <中国への出張>

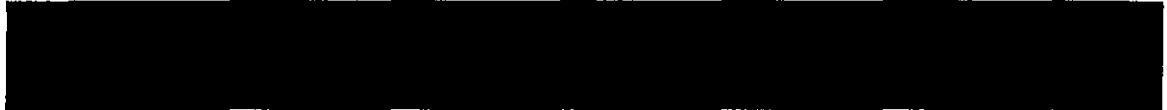
エ <A医師作成の医学意見書>



オ〈原告の日記、供述内容〉



カ〈まとめ〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	中国への出張業務の過重性	[Redacted]
2	亡夫の死亡原因	

【平成24年度勝訴判決】

○【その他5】平成■■年■■月■■日 大阪地裁判決 国勝訴（控訴審係争中）

キーワード：化学物質（ジアニシジン等）、口腔がん

1 事件の概要

[Redacted content]

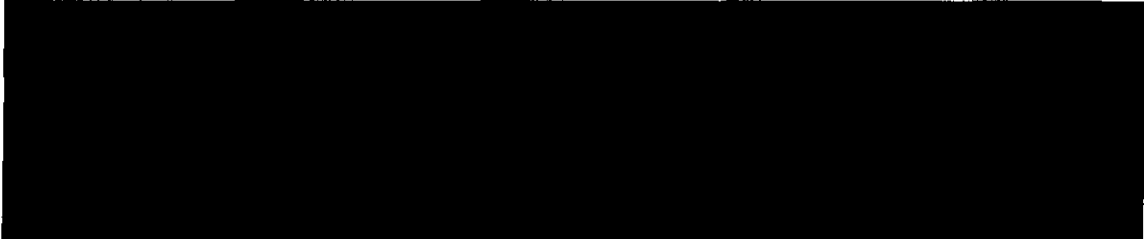
2 判決要旨（国勝訴）

(1) 〈ジアニシジンと本件疾病との因果関係〉

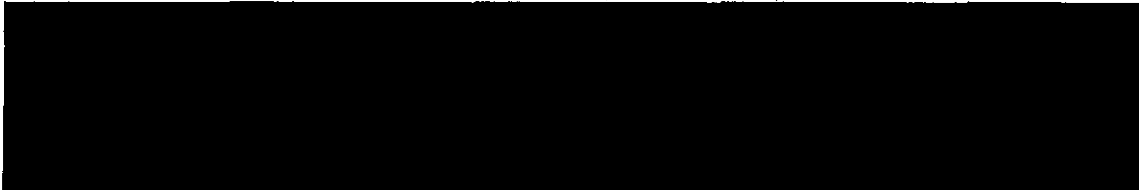
[Redacted content]



(2) 〈ビスクロロメチルエーテル（以下「ビスクロ」という。）と本件疾病との因果関係〉



(3) 〈芳香族アミン、多環芳香族炭化水素、変異原化学物質〉



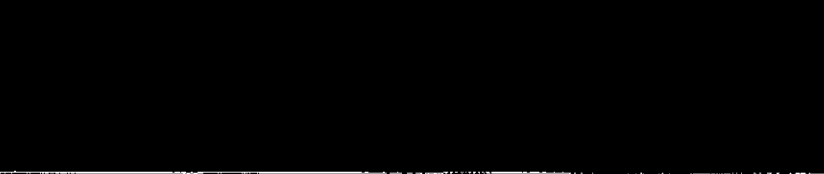
(4) 〈本件疾病発症の他原因〉



(5) 〈結論〉



3 勝訴要因

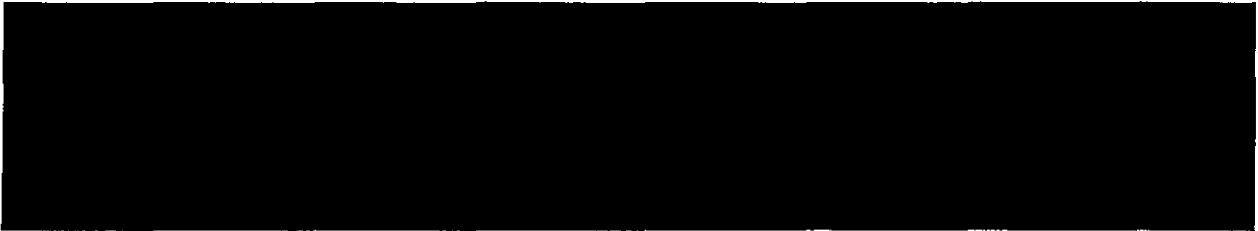
		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	化学物質の曝露と本件疾病の因果関係	

○〔その他〕平成■■年■■月■■日 大阪地裁判決 国勝訴（控訴審係争中）



キーワード：糖尿病、長時間労働

1 事件の概要



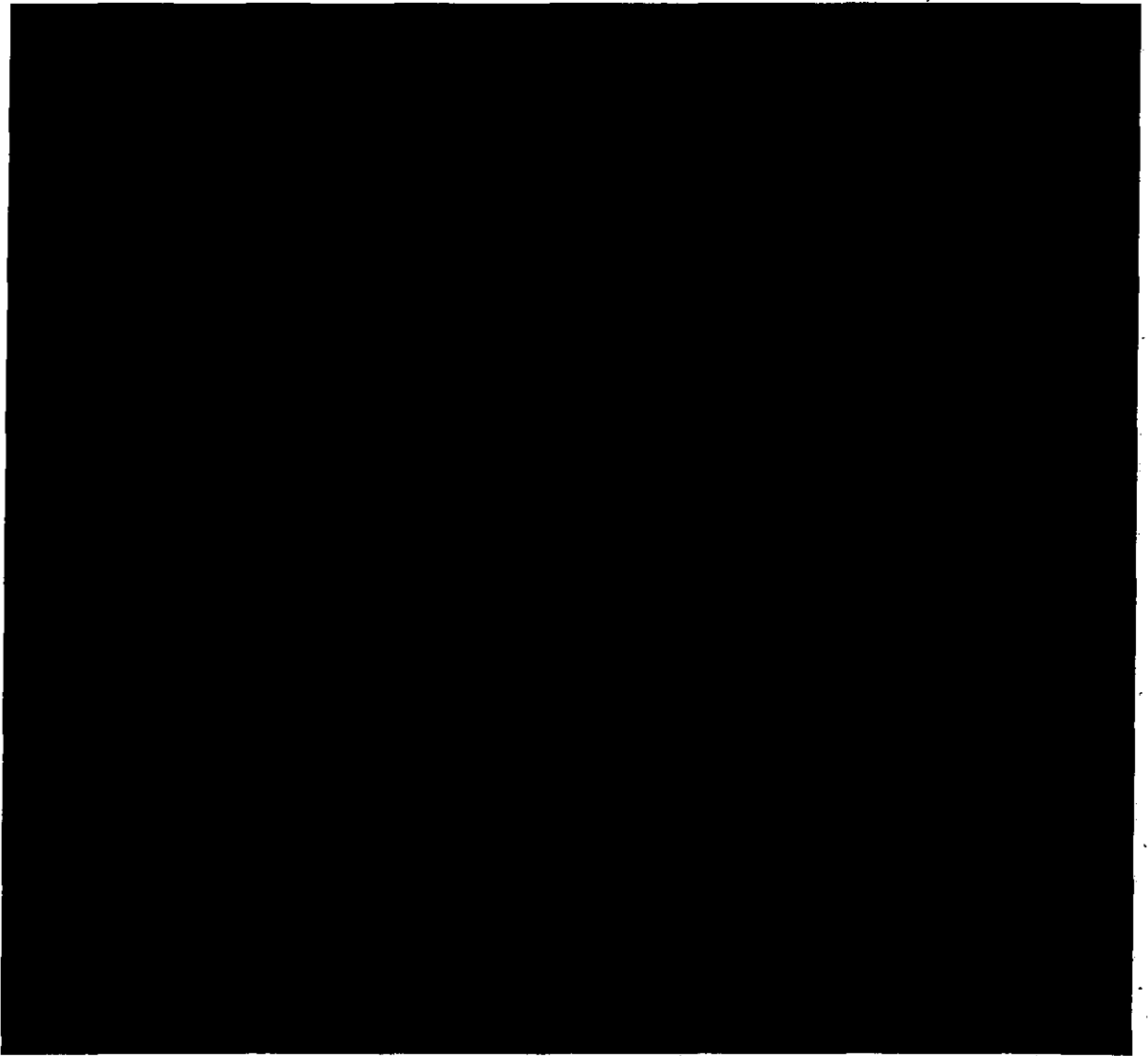
2 判決要旨（国勝訴）

(1) 〈判断枠組み〉



(2) 〈業務起因性〉





3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	本件疾病発症の相対的に有力な原因	

○【その他5】平成■■年■■月■■日 東京高裁判決 国勝訴（最高裁上告受理申立中）
（平成■■年■■月■■日 東京地裁判決 国勝訴）

キーワード：二重就労、平均賃金（給付基礎日額）の合算

1 事件の概要

[Redacted]

2 判決要旨

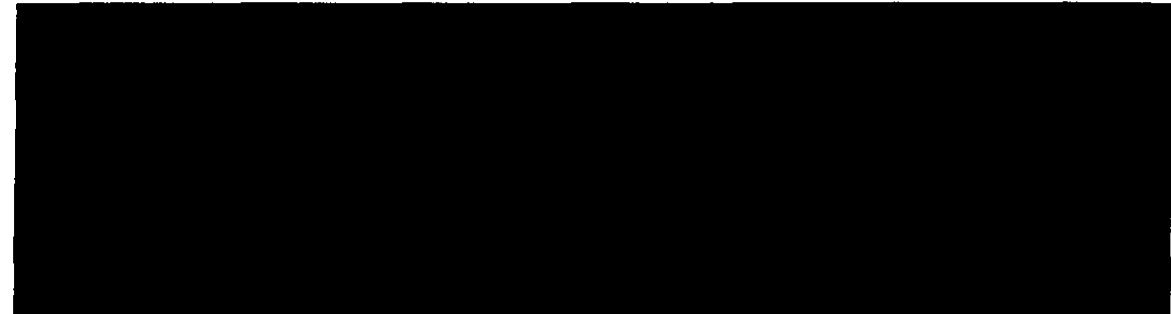
(1) 東京地裁〔平成■■年■■月■■日（国勝訴）〕

ア〈判断枠組み〉

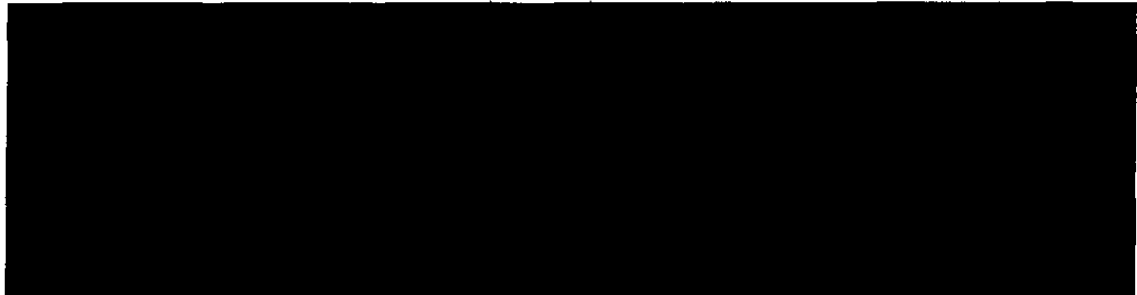
[Redacted]

イ〈業務に内在する危険性及び労働時間合算の根拠〉

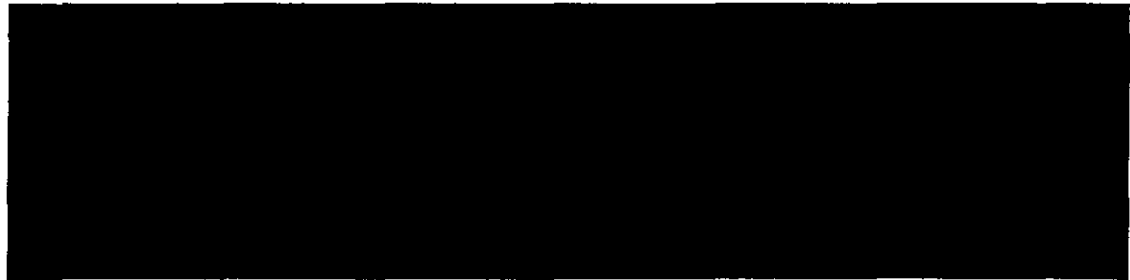
[Redacted]



(2) 東京高裁【平成 年 月 日（国勝訴）】
ア・判断枠組み（労災保険制度の趣旨）



イ・〈本件災害における被災者の過重労働等〉



ウ・〈平均賃金の算定〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	これまでの判決例に基づく労災保険制度と個別使用者責任の関係の主張	
2	自殺の原因がA社の社長の叱責であることの主張	

○【二重就労1】平成■■年■■月■■日 東京高裁判決 国勝訴（上告受理申立中）
（平成■■年■■月■■日 東京地裁判決 国勝訴 原告控訴）



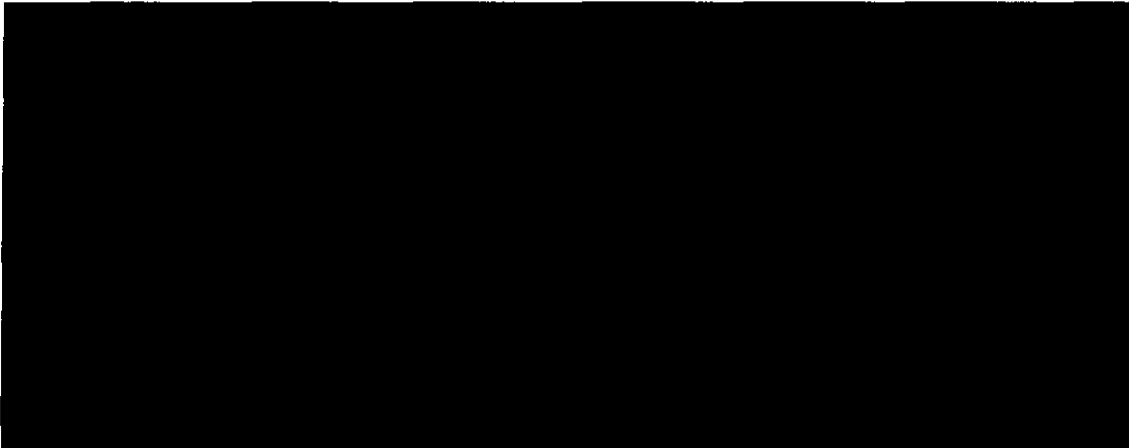
キーワード：二重雇用、労働時間の合算

1 事件の概要



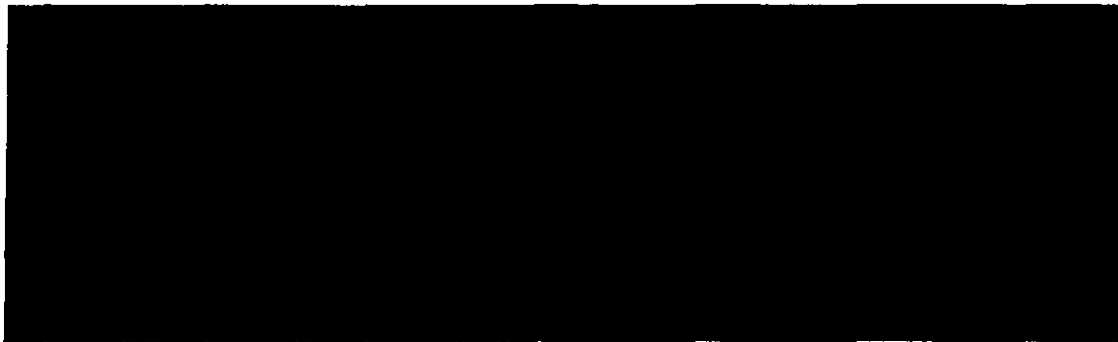
2 判決要旨

(1) 〈労災保険制度の趣旨等〉

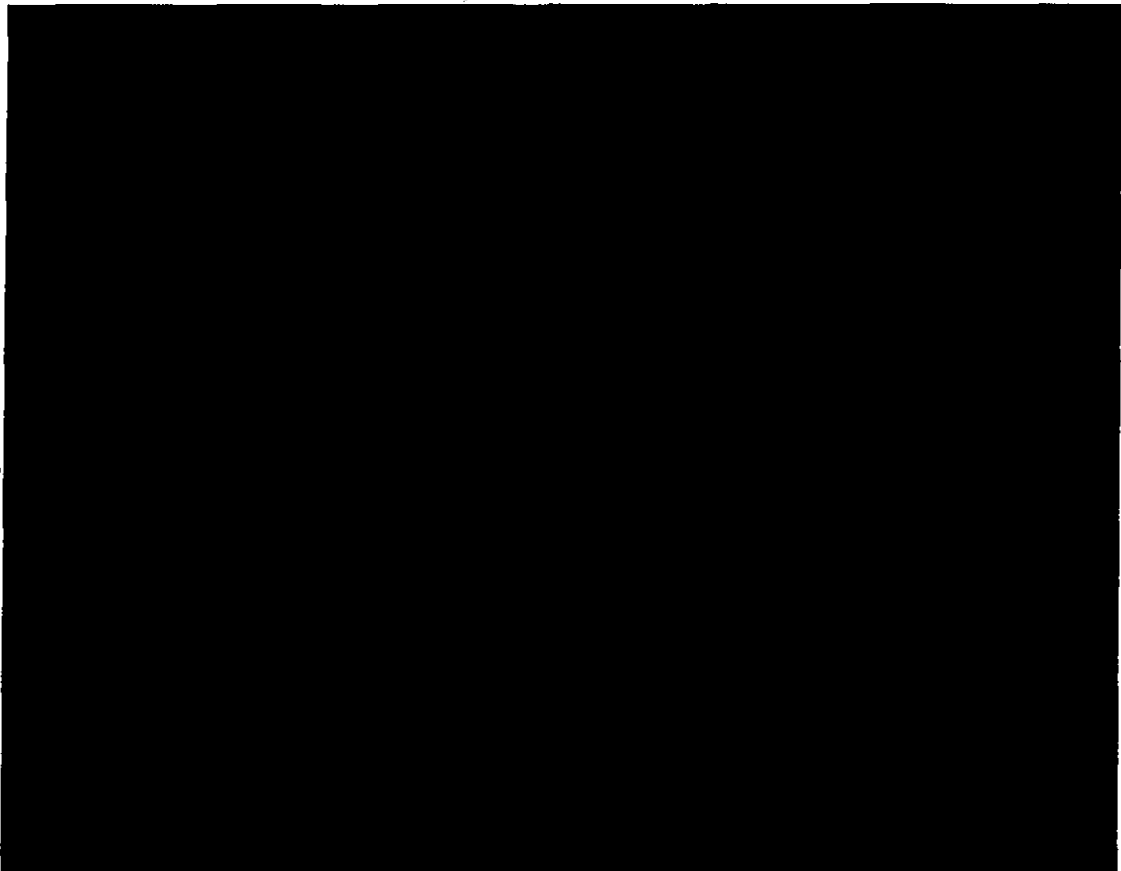


(2) 〈業務起因性の評価手法〉





(3) 〈本件災害における業務起因性〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	複数の事業場に勤務している労働者に対する災害補償責任の所在	

○〔その他1〕 平成■■年■■月■■日 東京地裁判決 国勝訴（控訴審係争中）

キーワード：じん肺症と急性心筋梗塞、治療機会の喪失

1 事件の概要

2 判決要旨（国勝訴）

(1) 〈判断枠組み〉

(2) 〈致死性不整脈〉

(3) 〈心筋梗塞〉

(4) 〈死亡の機序〉

[Redacted]

(5) 〈じん肺が急性心筋梗塞の発症に与えた影響〉

[Redacted]

(6) 〈心臓カテーテル検査と治療機会の喪失〉

[Redacted]

(7) 〈総合判断〉

3 勝訴要因

3 勝訴要因		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	じん肺と心筋梗塞の発症との因果関係	[Redacted]
2	心臓カテーテル検査のリスク	[Redacted]

【平成24年度勝訴判決】

○【その他3】平成■■年■■月■■日 大阪高裁判決 国逆転勝訴（上告受理申立中）
（平成■■年■■月■■日 大阪地裁判決 国敗訴・国控訴）

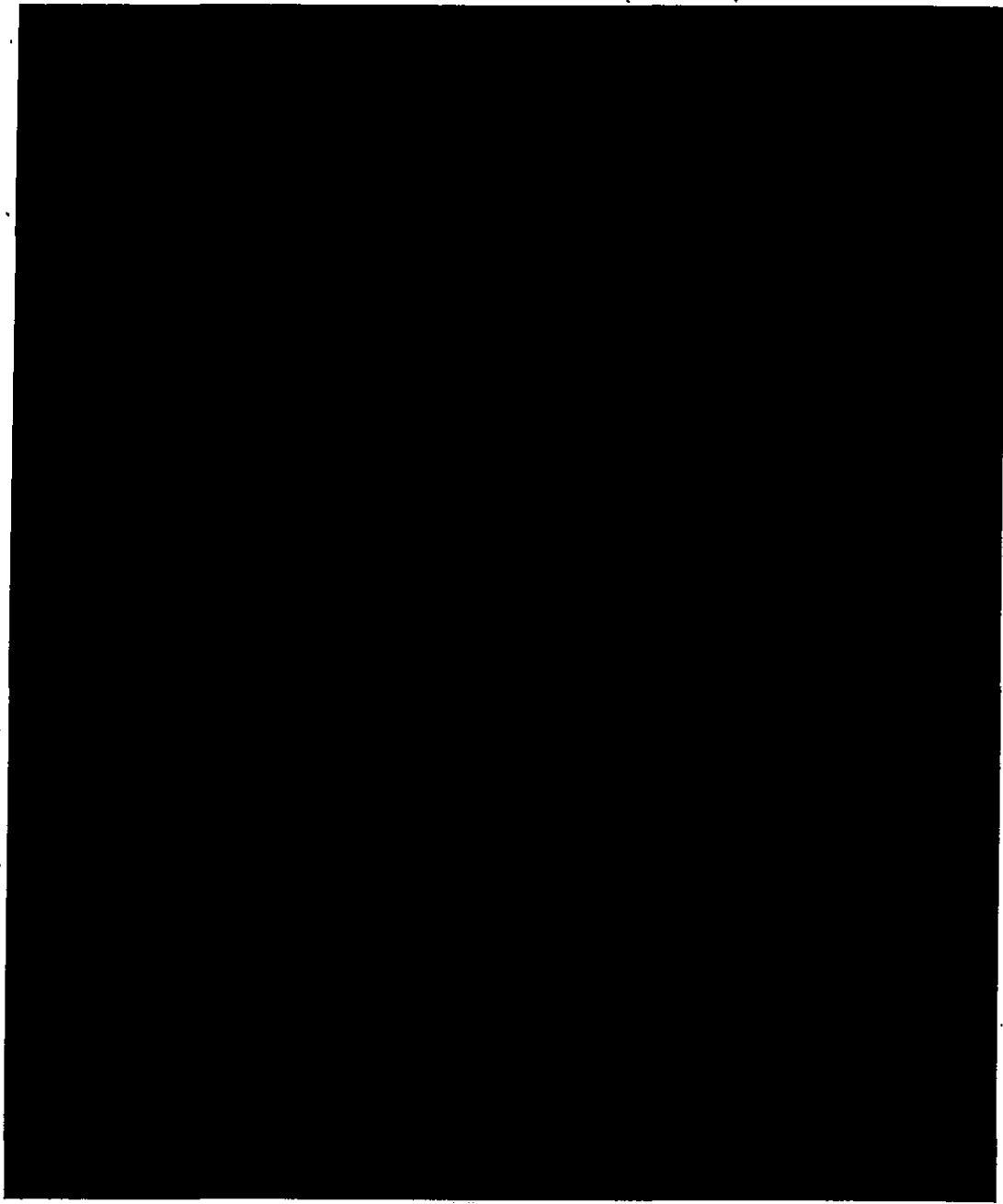
キーワード： 脳・心疾患労災認定事業場名、情報公開法、不開示情報、逆転勝訴

1 事件の概要

2 判決要旨

(1) 第一審判決（国敗訴）

(2) 控訴審判決（国逆転勝訴）



3 勝訴要因

	一審敗訴要旨	国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	労災補償給付支給決定の事実自体は、当該事業場の社会的評価の低下に結びつかない。	

○〔障害等級〕平成■■年■■月■■日 横浜地裁判決 国勝訴



キーワード：RSD (CRPStype 1)、DVD映像

1 事件の概要



2 判決要旨

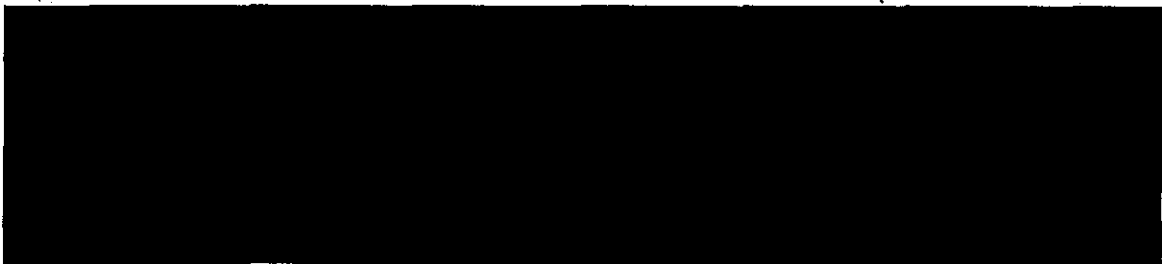
(1) <判断枠組み>

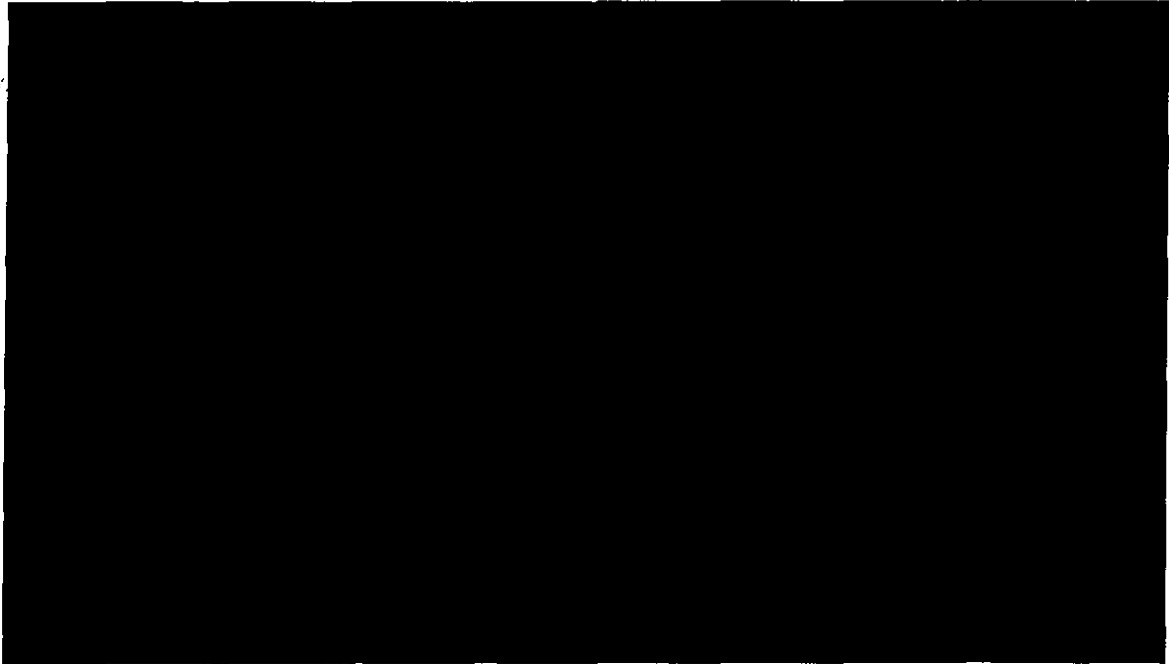


(2) <原告の疼痛等感覚障害について>

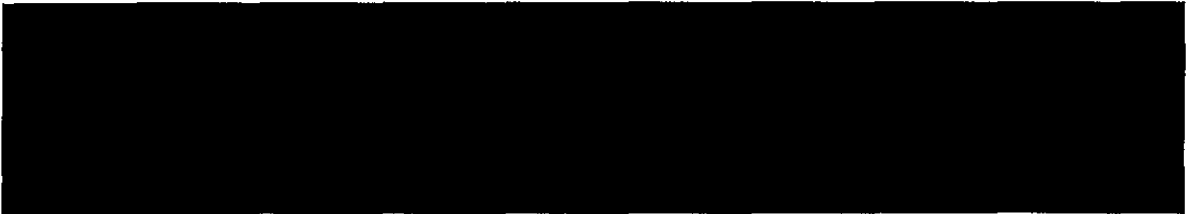


(3) <原告の上肢の機能障害について>





(4) <まとめ>



4 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	DVD映像の証拠提出	
2	原告が提出した医師の意見書が判断根拠とした検査が、信頼性が低いものであったこと	

○〔時効〕平成■■年■■月■■日 熊本地裁判決 国勝訴（控訴審係争中）



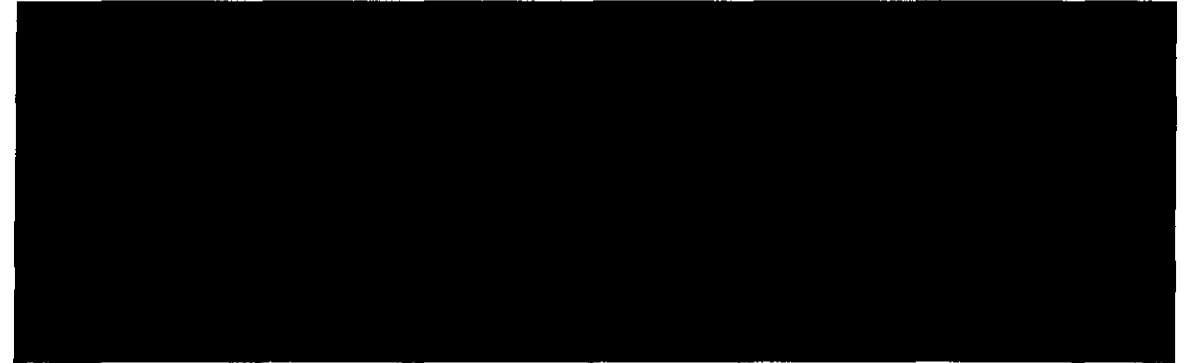
キーワード：騒音性難聴、時効の起算点

1 事件の概要

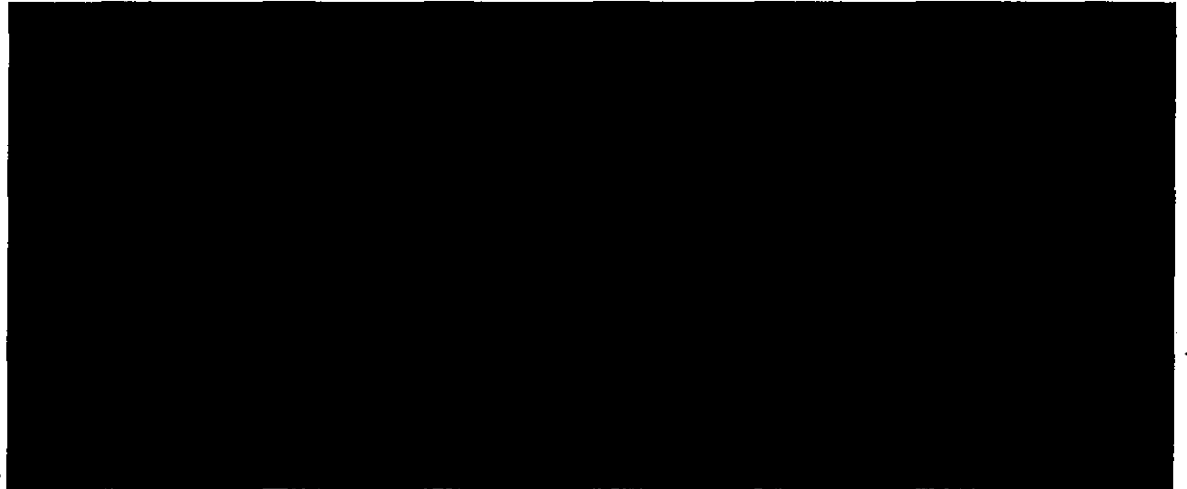


2 判決要旨（国勝訴）

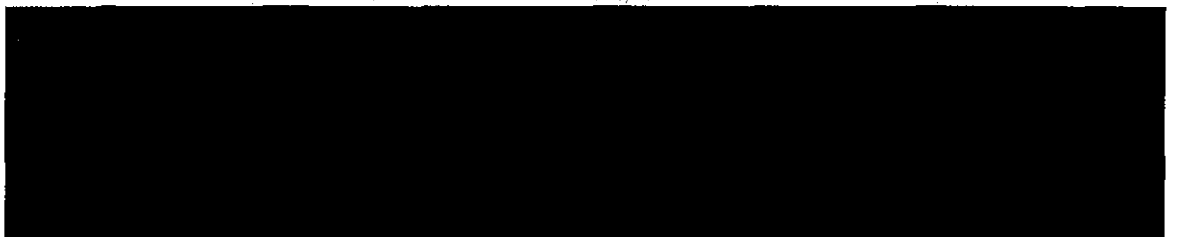
(1) 〈判断枠組み（消滅時効の起算点）〉



(2) 〈症状固定（上記(1)①の要件）〉



(3) 〈権利行使の期待可能性（上記(1)②の要件）〉

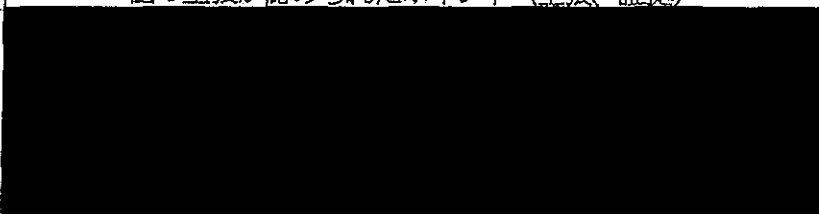




(4) 〈まとめ〉



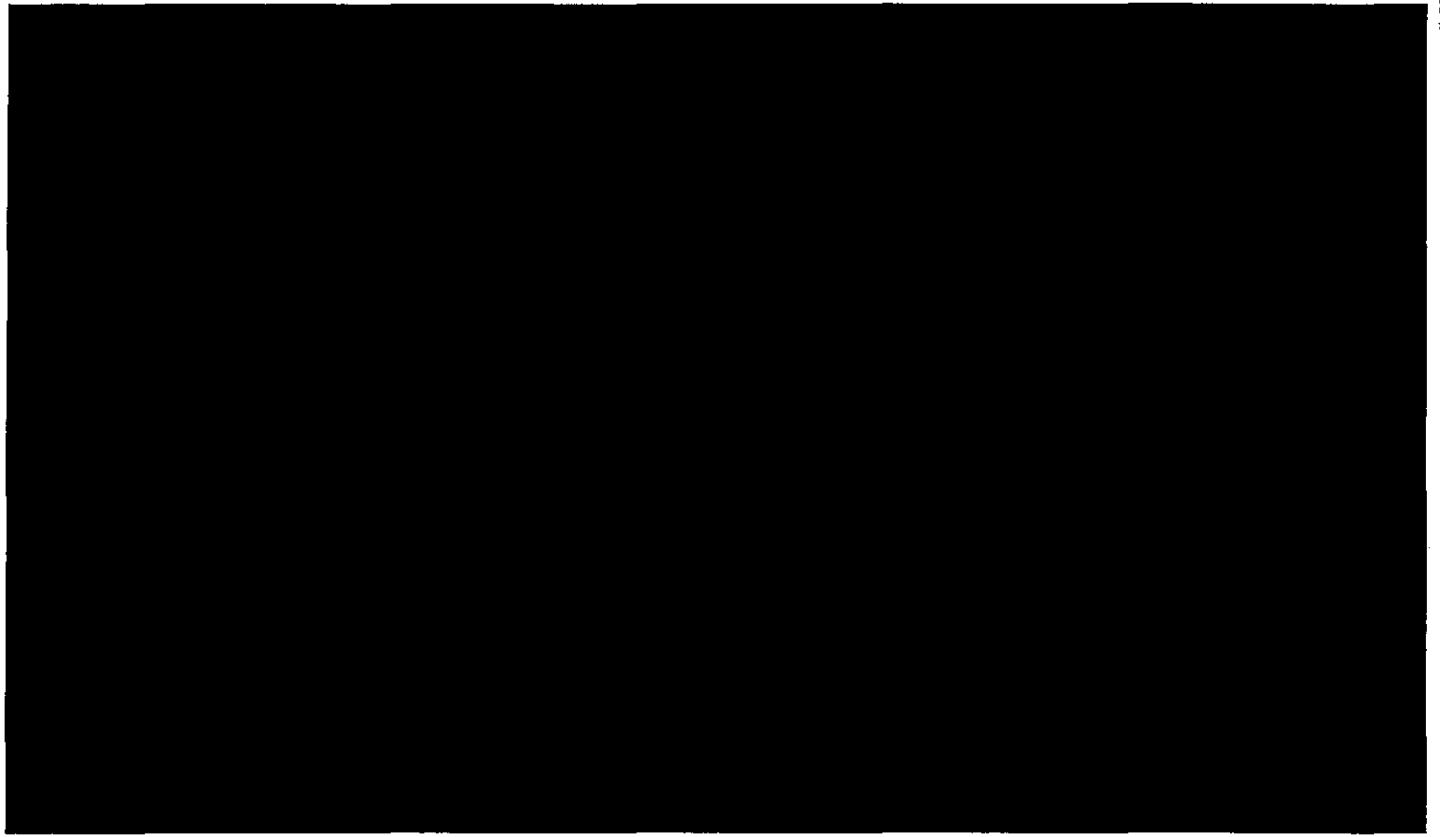
3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	判例等の分析	

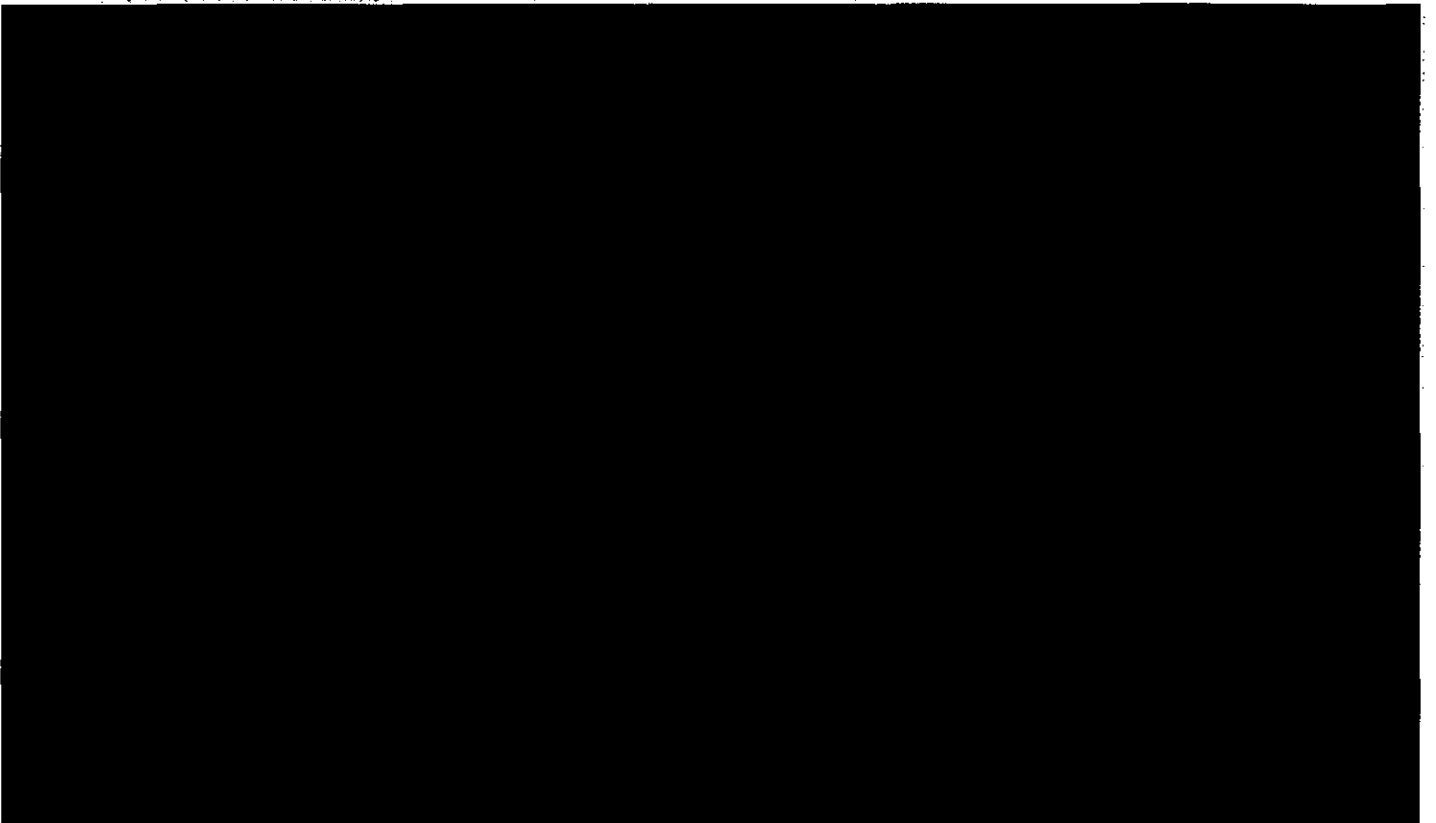
III 訴訟を意識した処分
訴訟を意識した処分の必要性

III 訴訟を意識した処分
訴訟を意識した処分の必要性

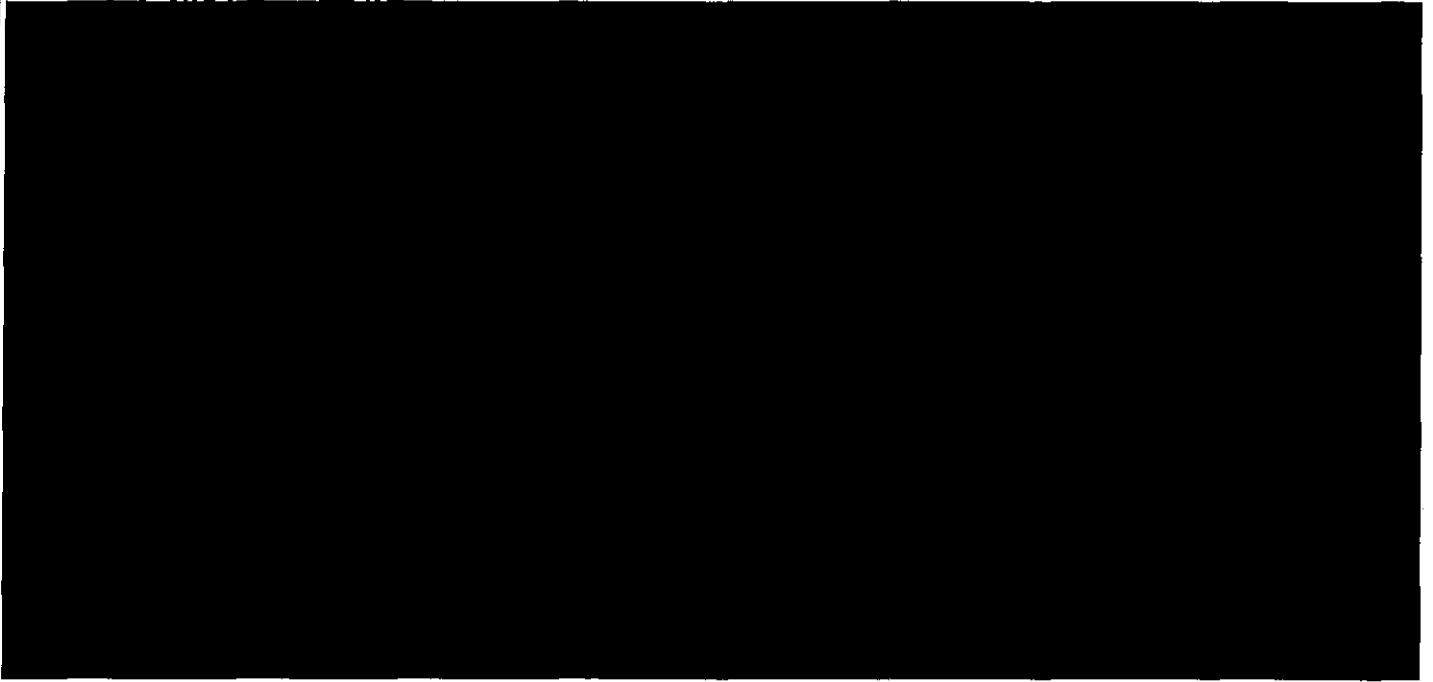
III 訴訟を意識した処分
事実認定の基礎



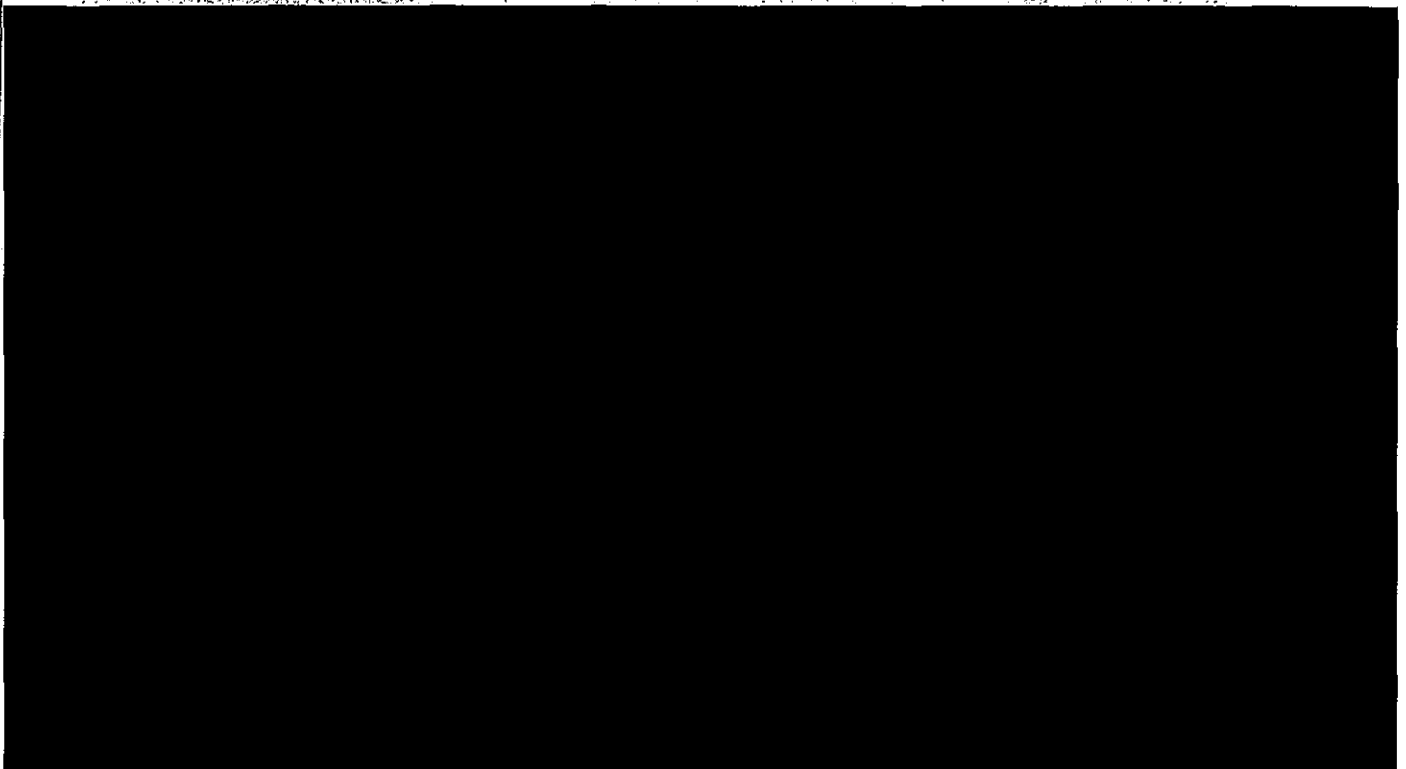
III 訴訟を意識した処分
事実認定の基礎



III 訴訟を意識した処分
事実認定の基礎



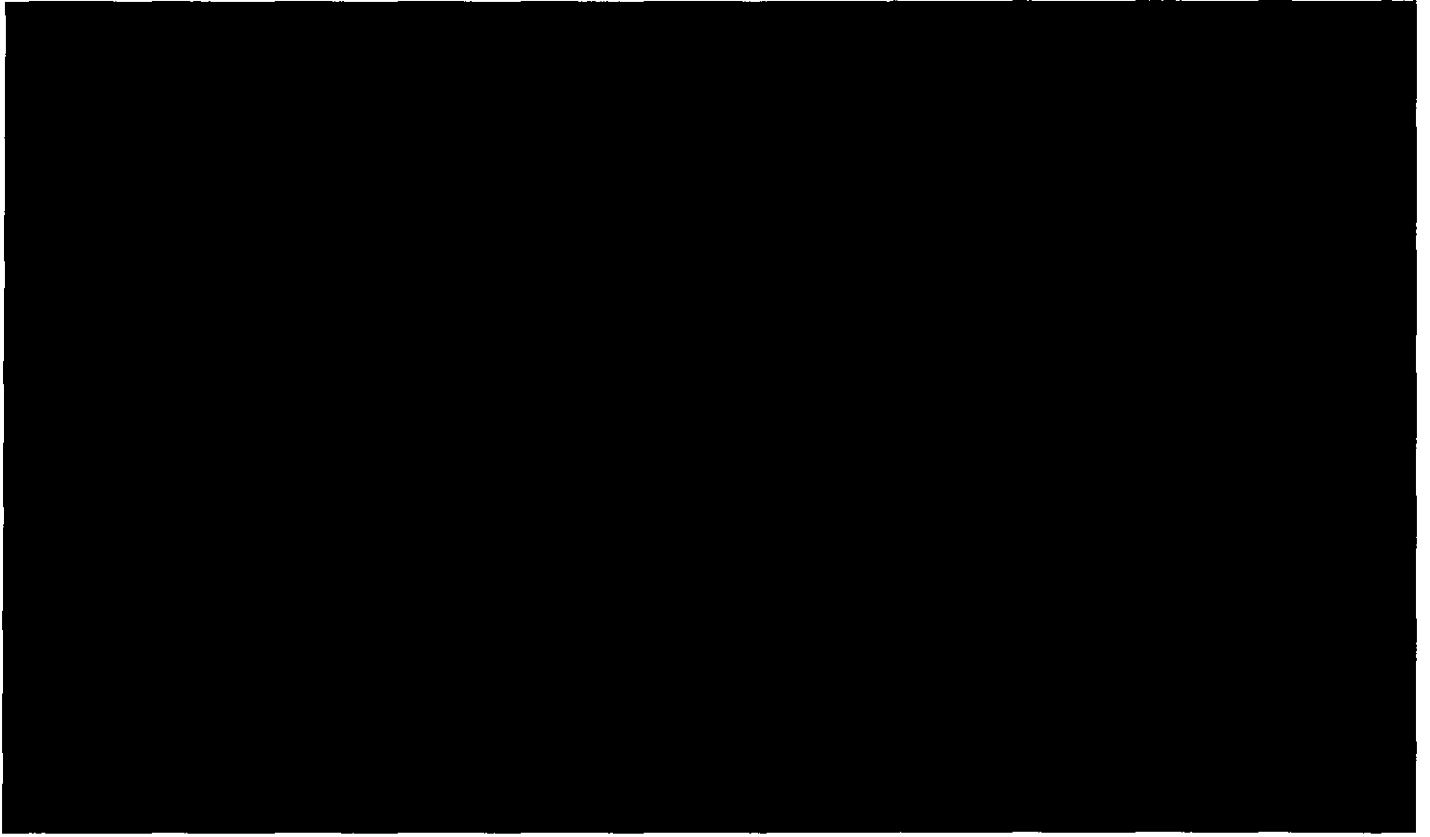
III 訴訟を意識した処分
事実認定の基礎



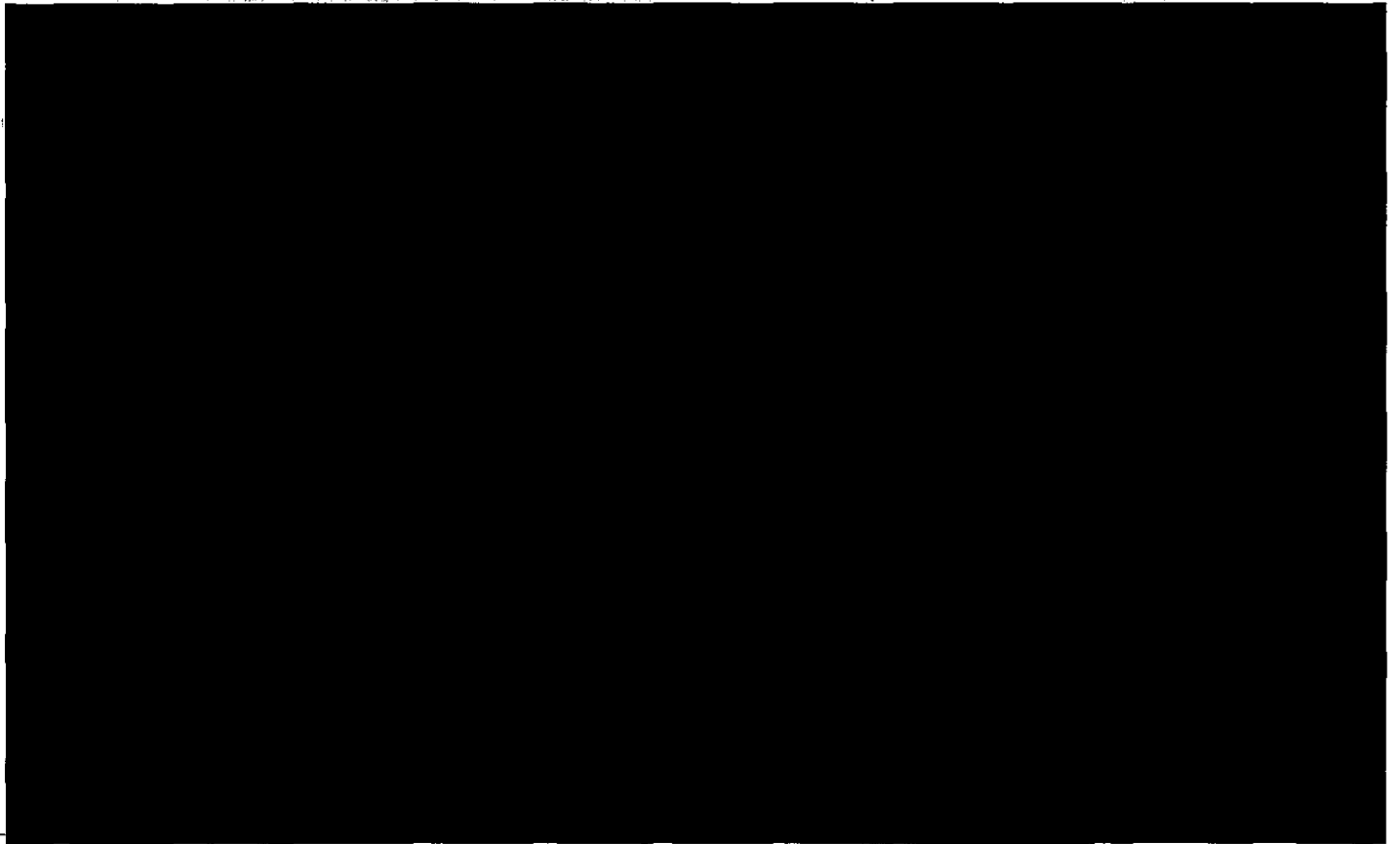
III 訴訟を意識した処分
事実認定の基礎

III 訴訟を意識した処分
事実認定の基礎

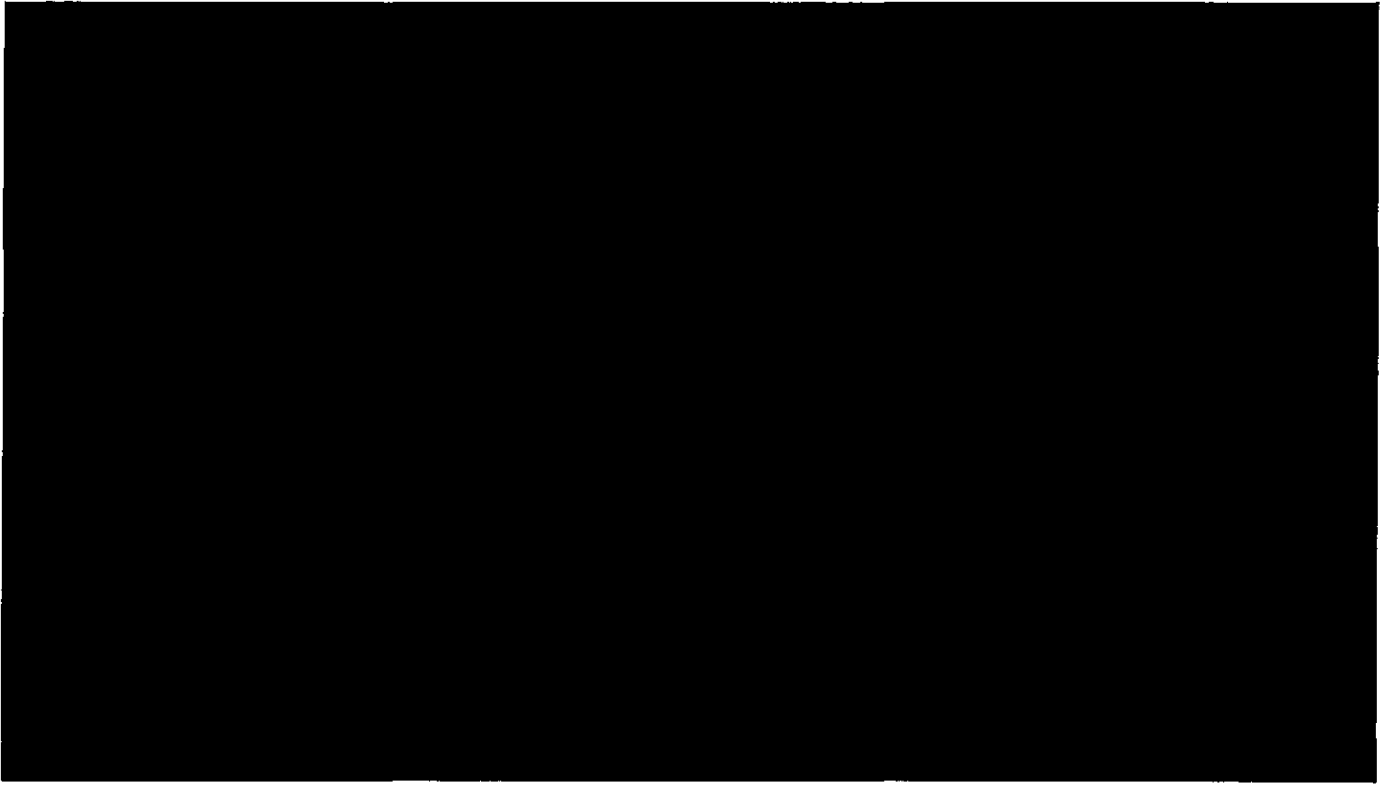
III 訴訟を意識した処分
事実認定の基礎



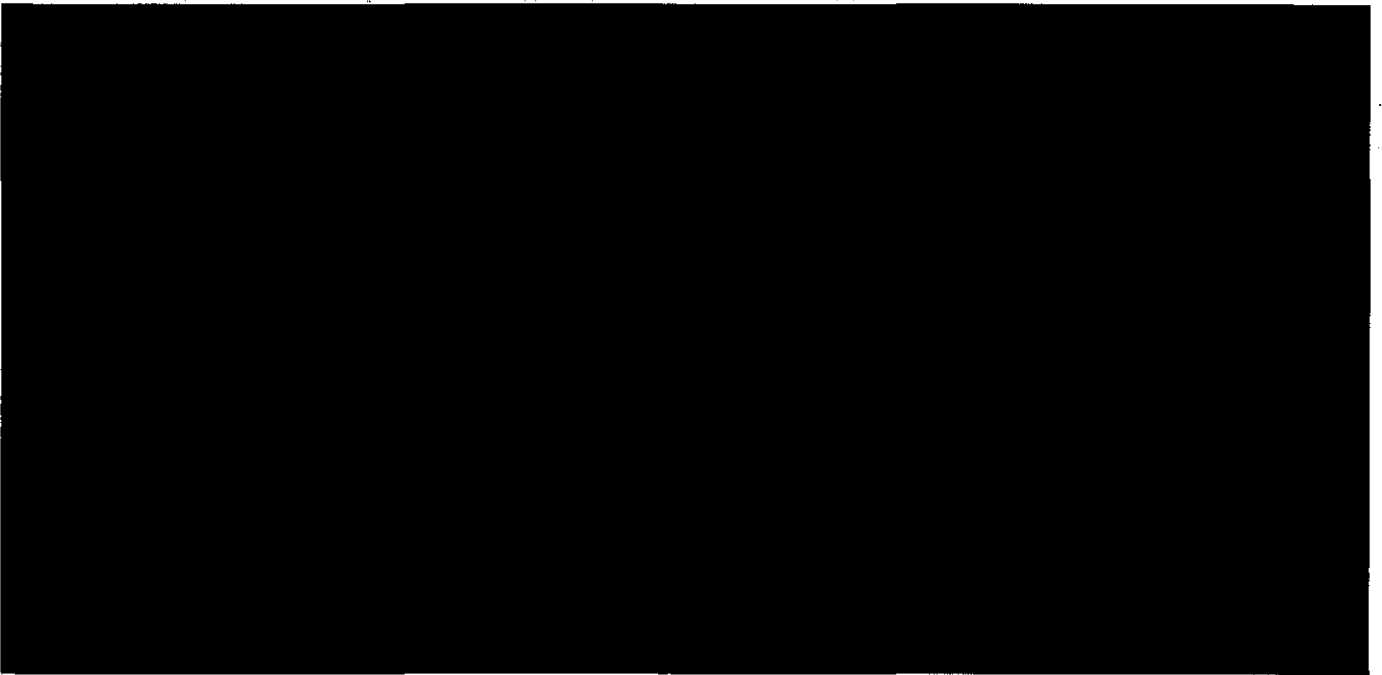
III 訴訟を意識した処分
証拠作成～訴訟対応の観点から



III 訴訟を意識した処分
証拠作成～訴訟対応の観点から




III 訴訟を意識した処分
証拠作成～訴訟対応の観点から



III 訴訟を意識した処分

証拠作成～訴訟対応の観点から

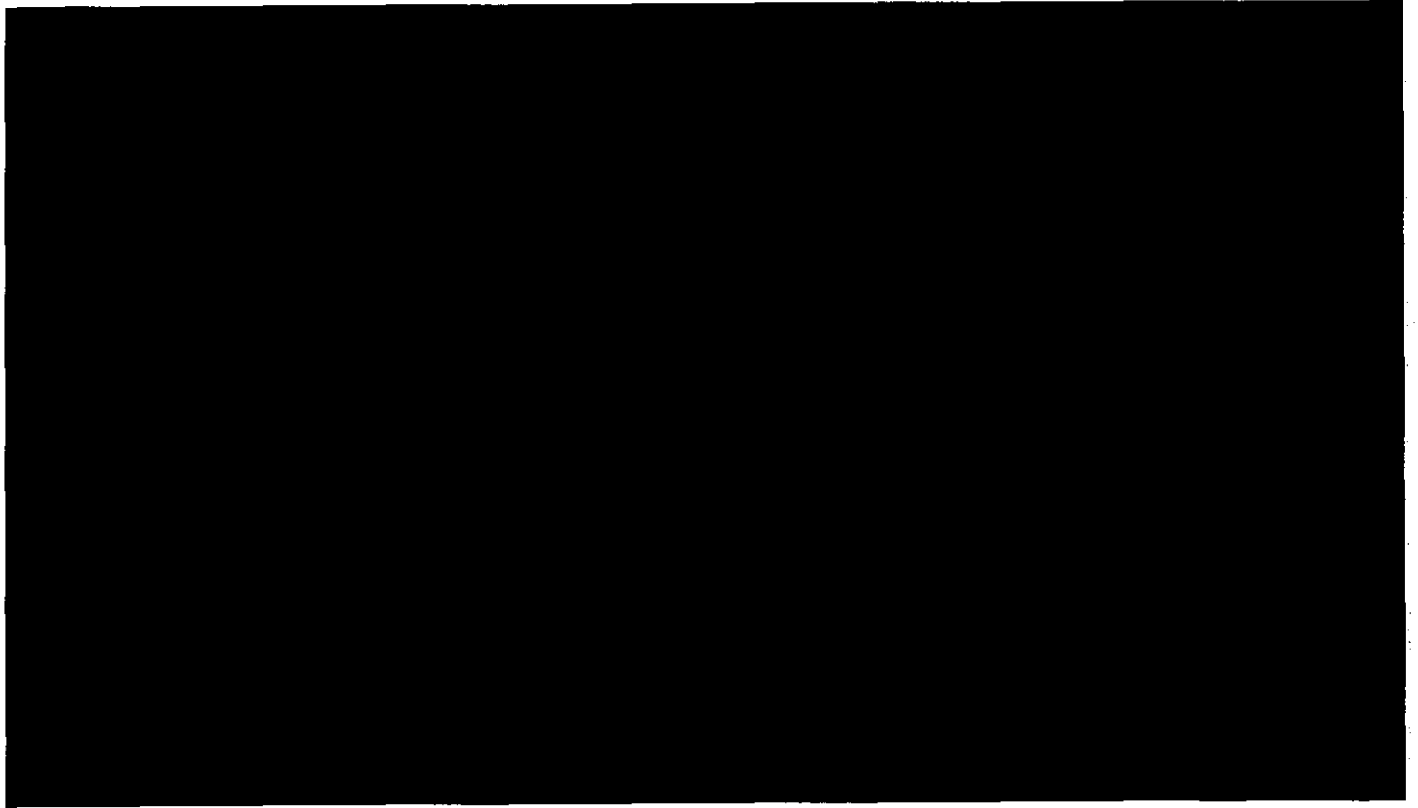


III 訴訟を意識した処分

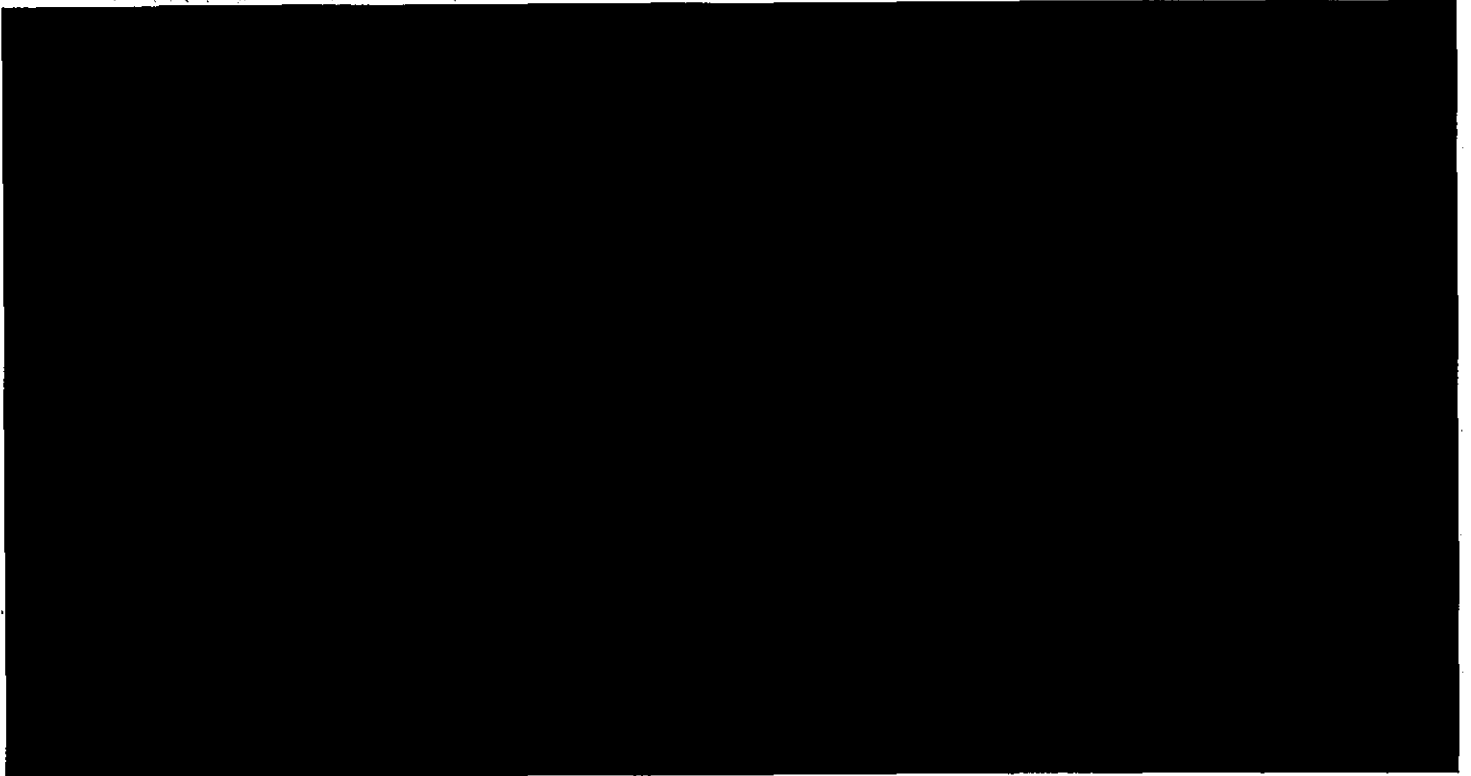
証拠作成～訴訟対応の観点から



III 訴訟を意識した処分
証拠作成～訴訟対応の観点から

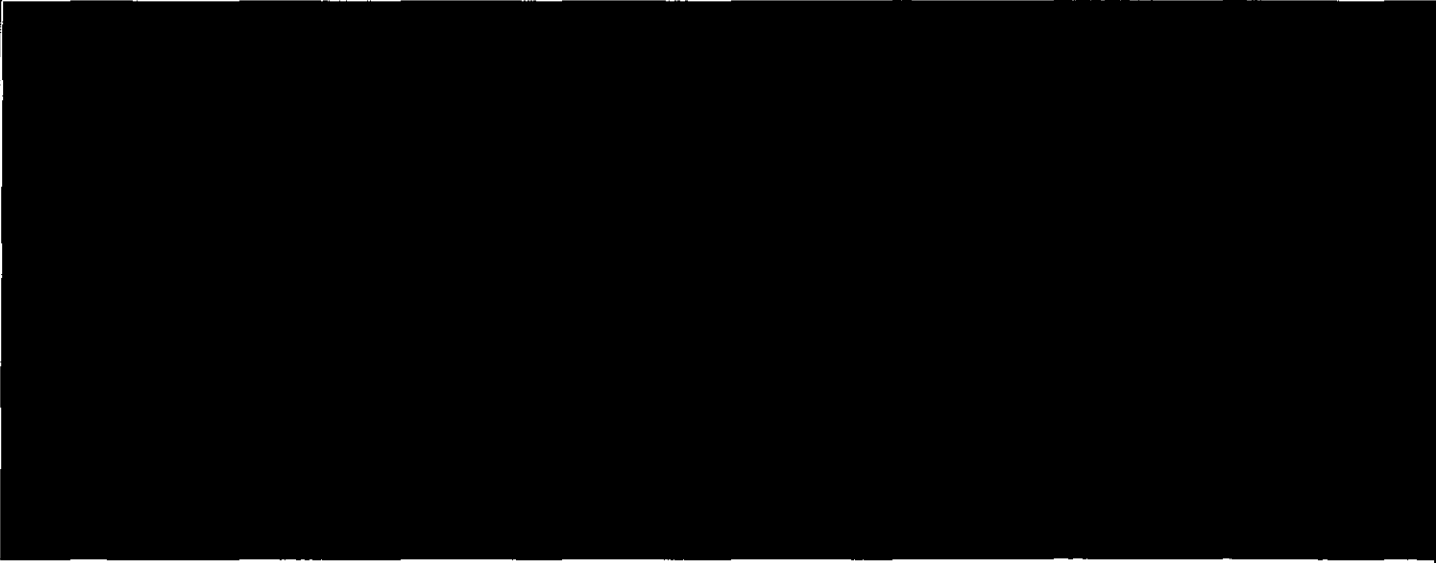


III 訴訟を意識した処分
証拠作成～訴訟対応の観点から



III 訴訟を意識した処分

証拠作成～訴訟対応の観点から

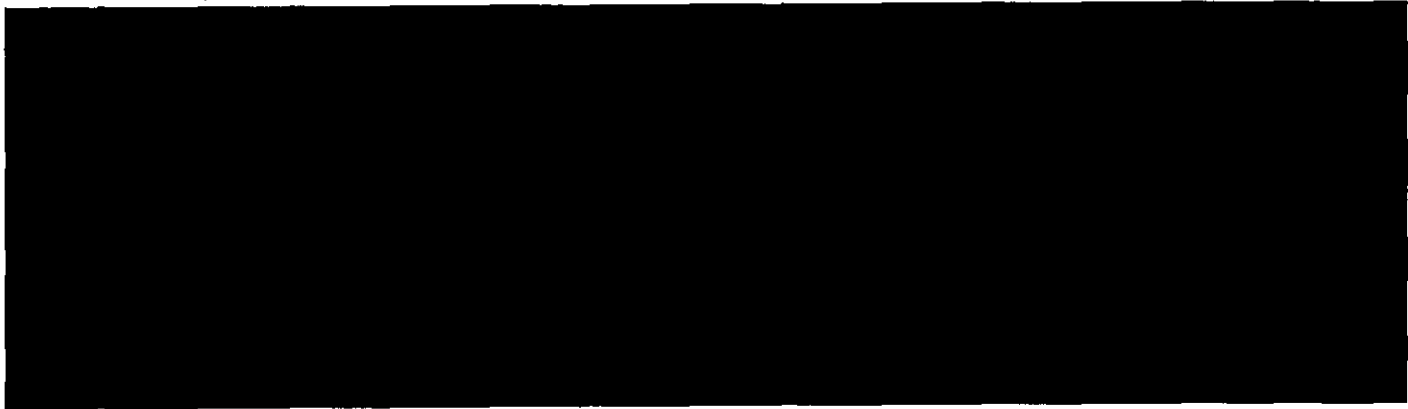


III 訴訟を意識した処分

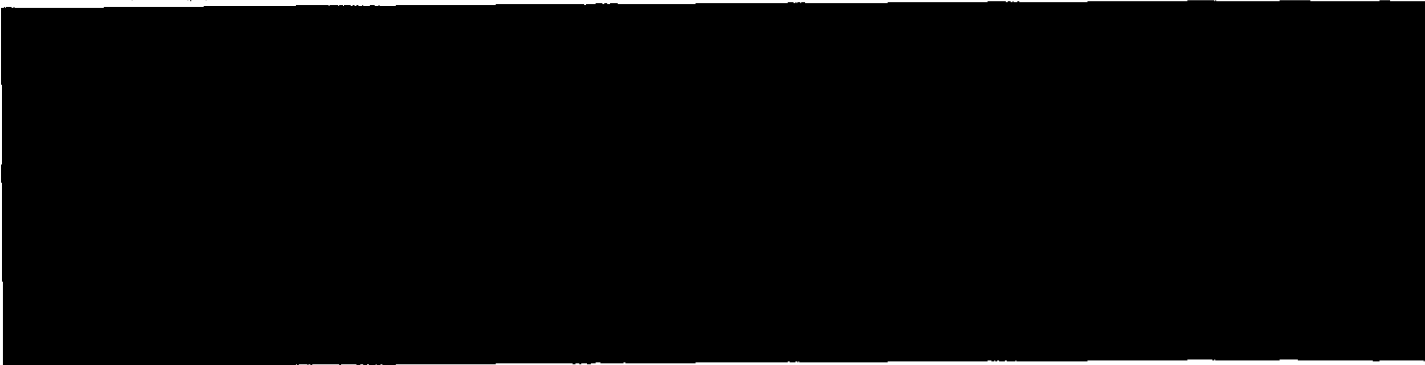
証拠作成～訴訟対応の観点から



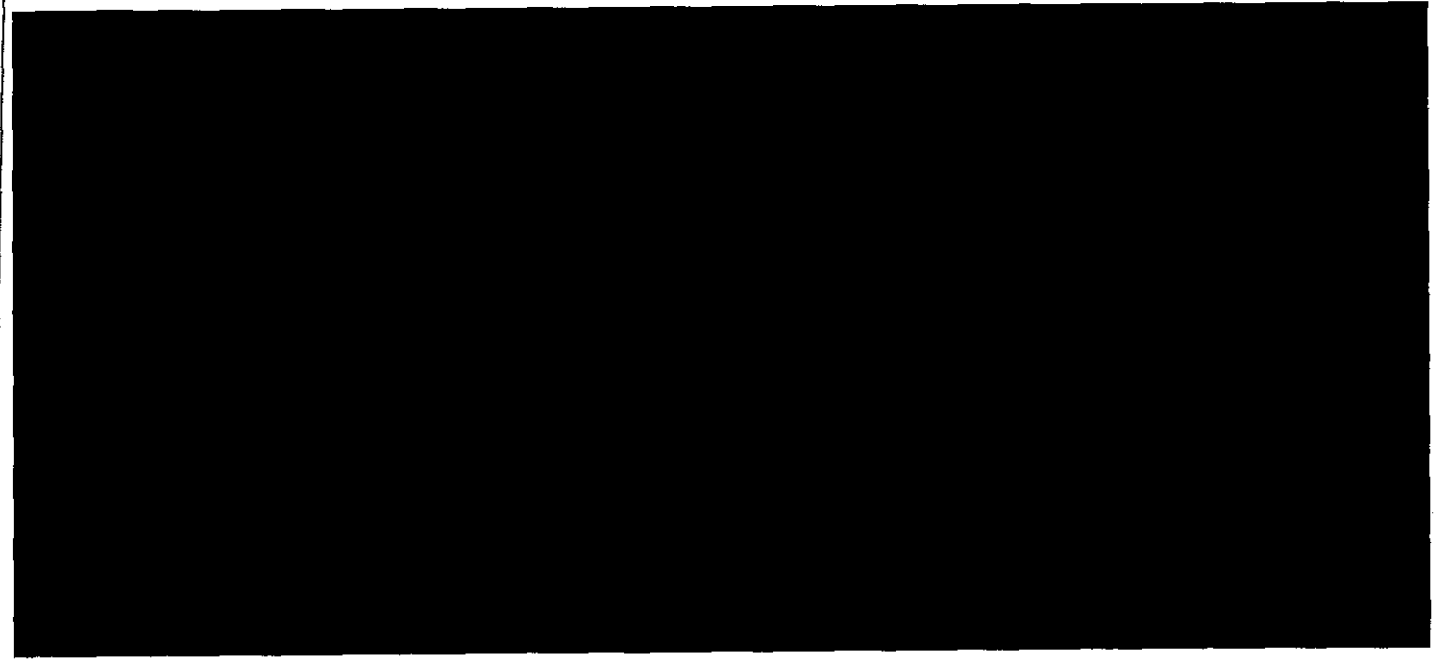
III 訴訟を意識した処分
証拠作成～訴訟対応の観点から



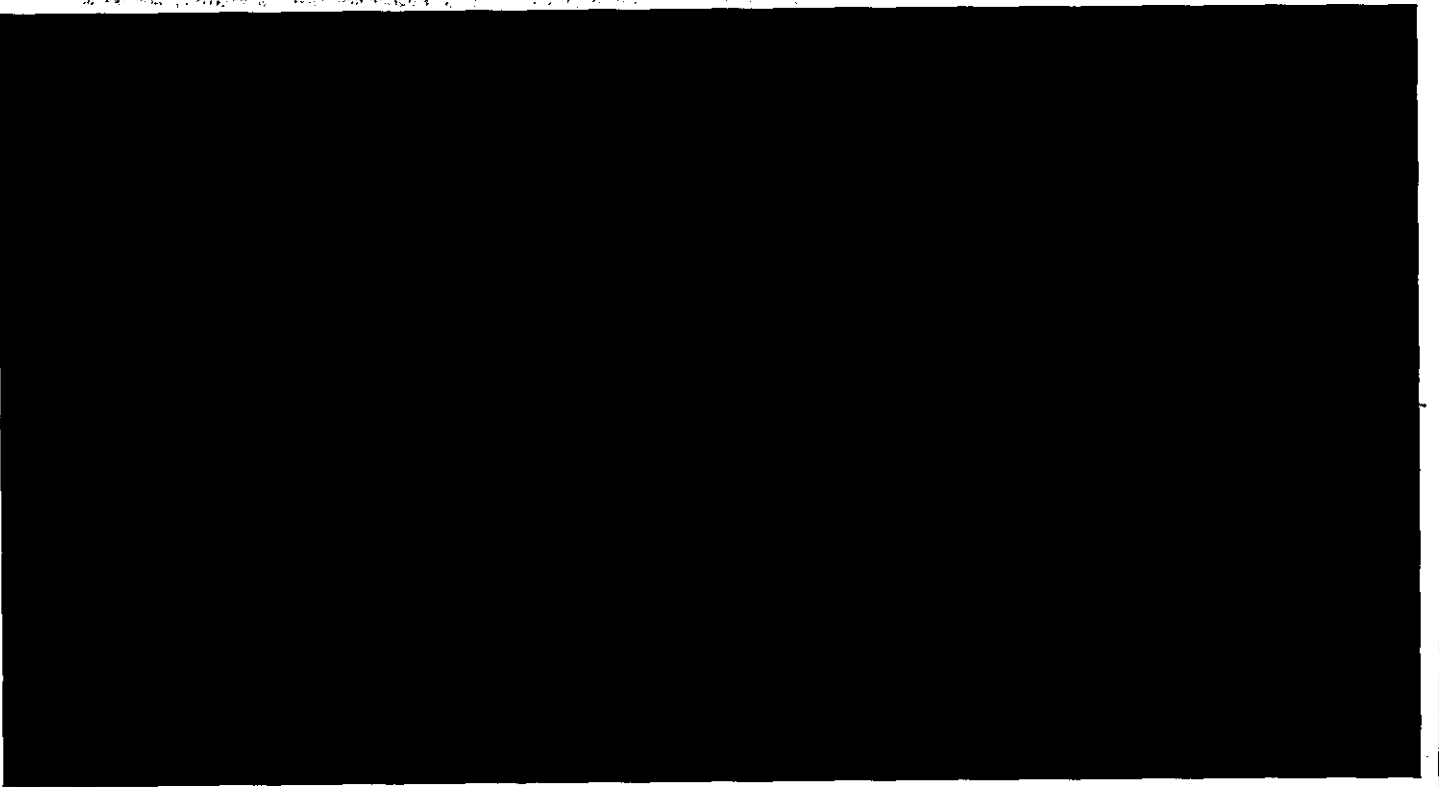
III 訴訟を意識した処分
証拠作成～訴訟対応の観点から



III 訴訟を意識した処分
証拠作成～訴訟対応の観点から



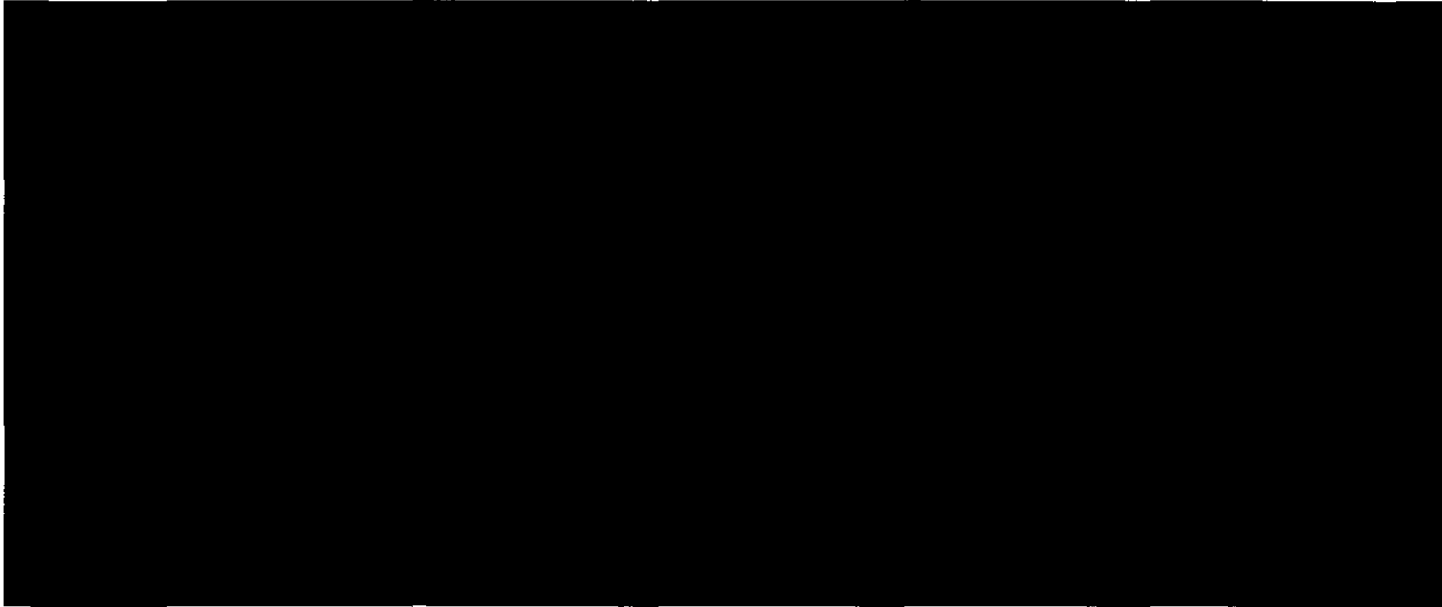
III 訴訟を意識した処分
証拠作成～訴訟対応の観点から



III 訴訟を意識した処分
証拠作成～訴訟対応の観点から



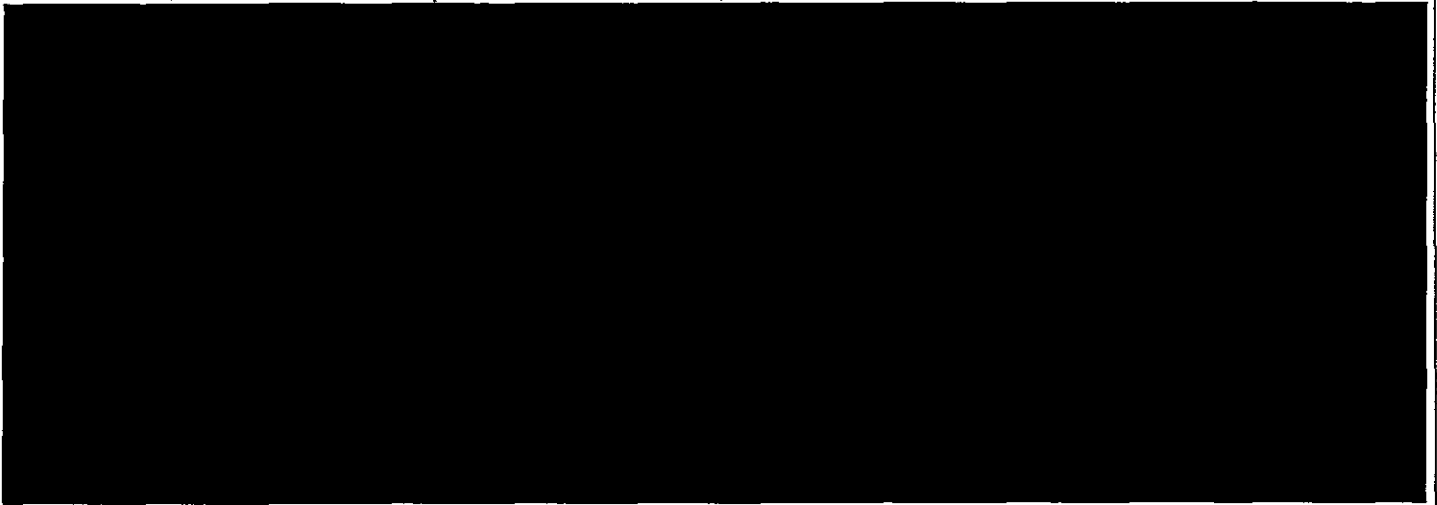
III 訴訟を意識した処分
証拠作成～訴訟対応の観点から



III 訴訟を意識した処分
処分の手続

III 訴訟を意識した処分
訴訟対応の観点から見た処分の留意点

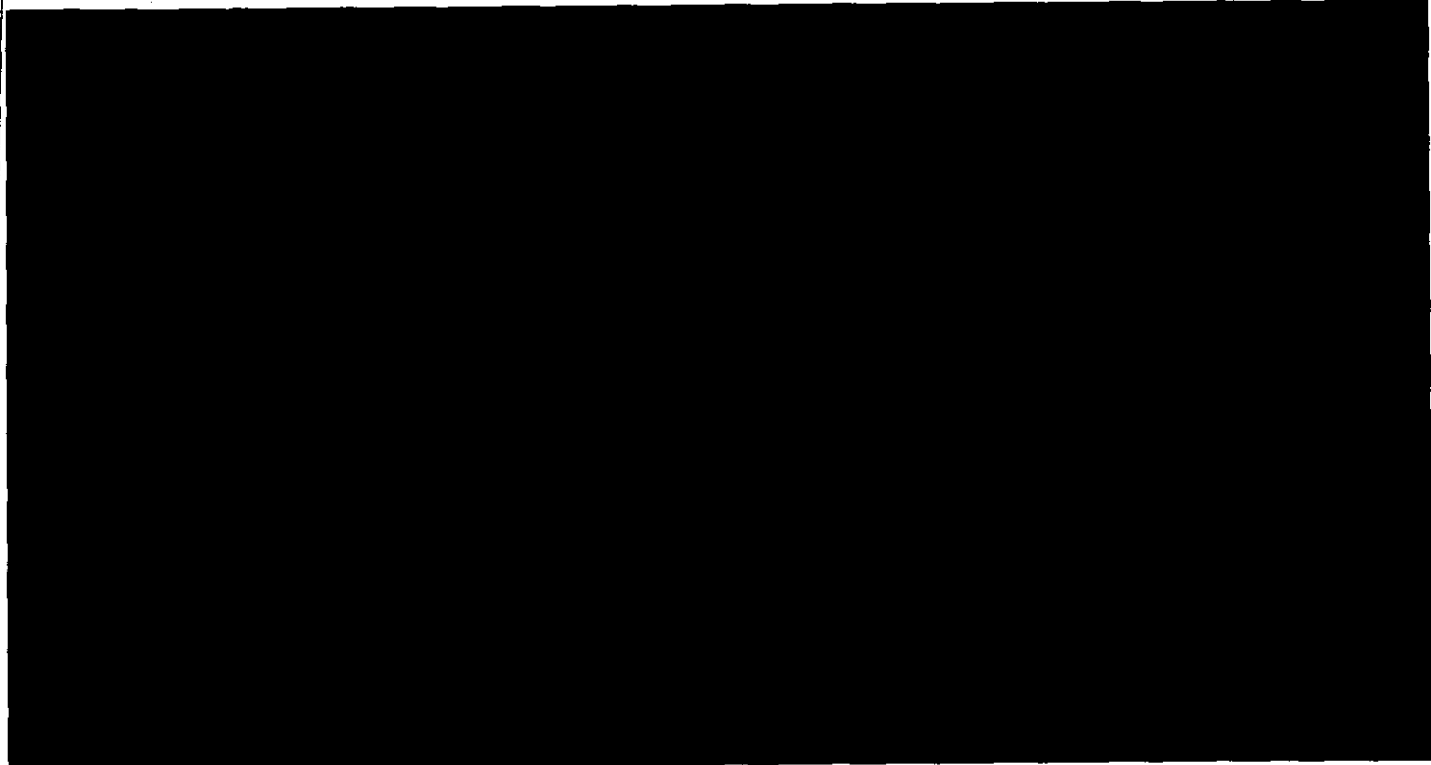
III 訴訟を意識した処分
訴訟対応の観点から見た処分の留意点



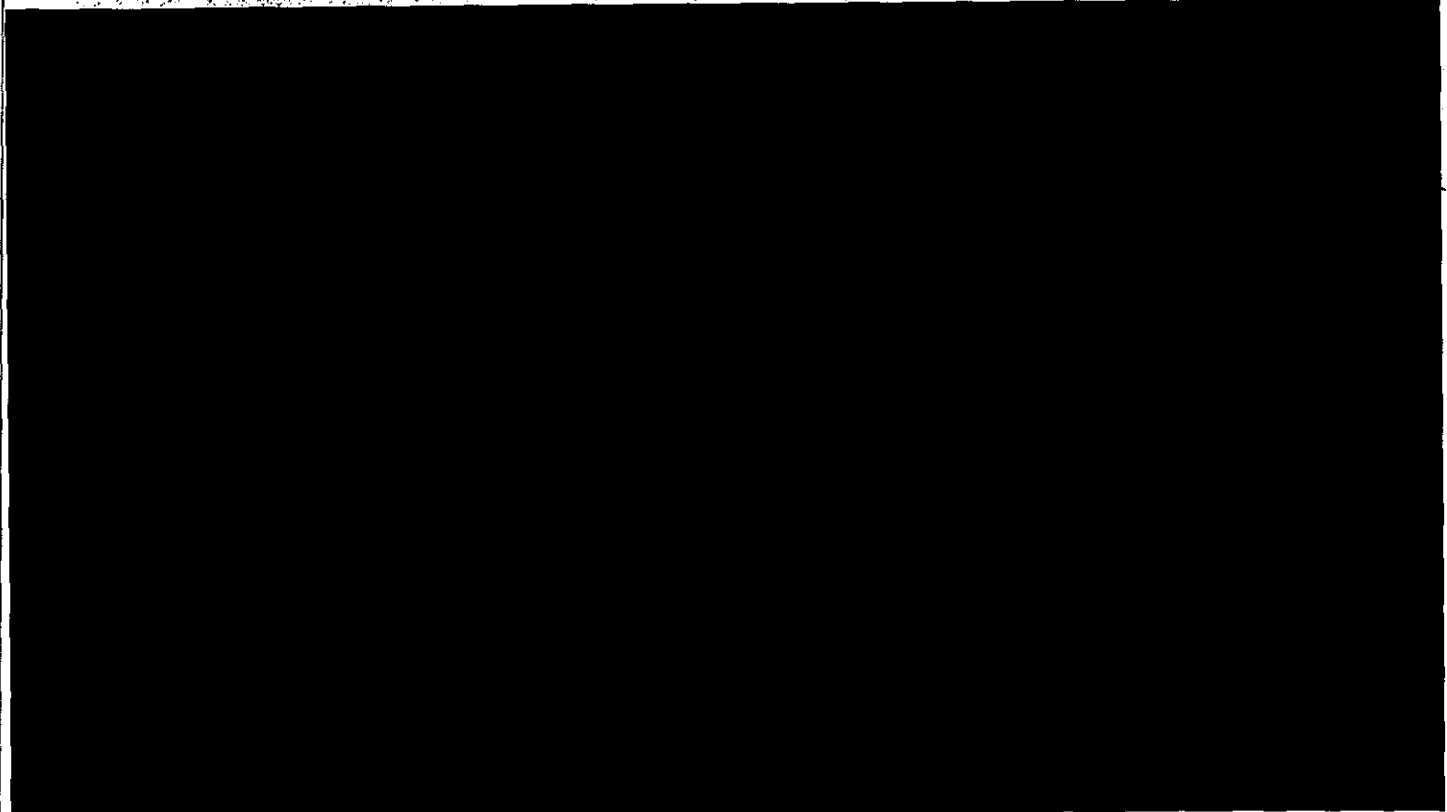
IV 訴訟に臨むに当たつての留意点
訴訟対応一般



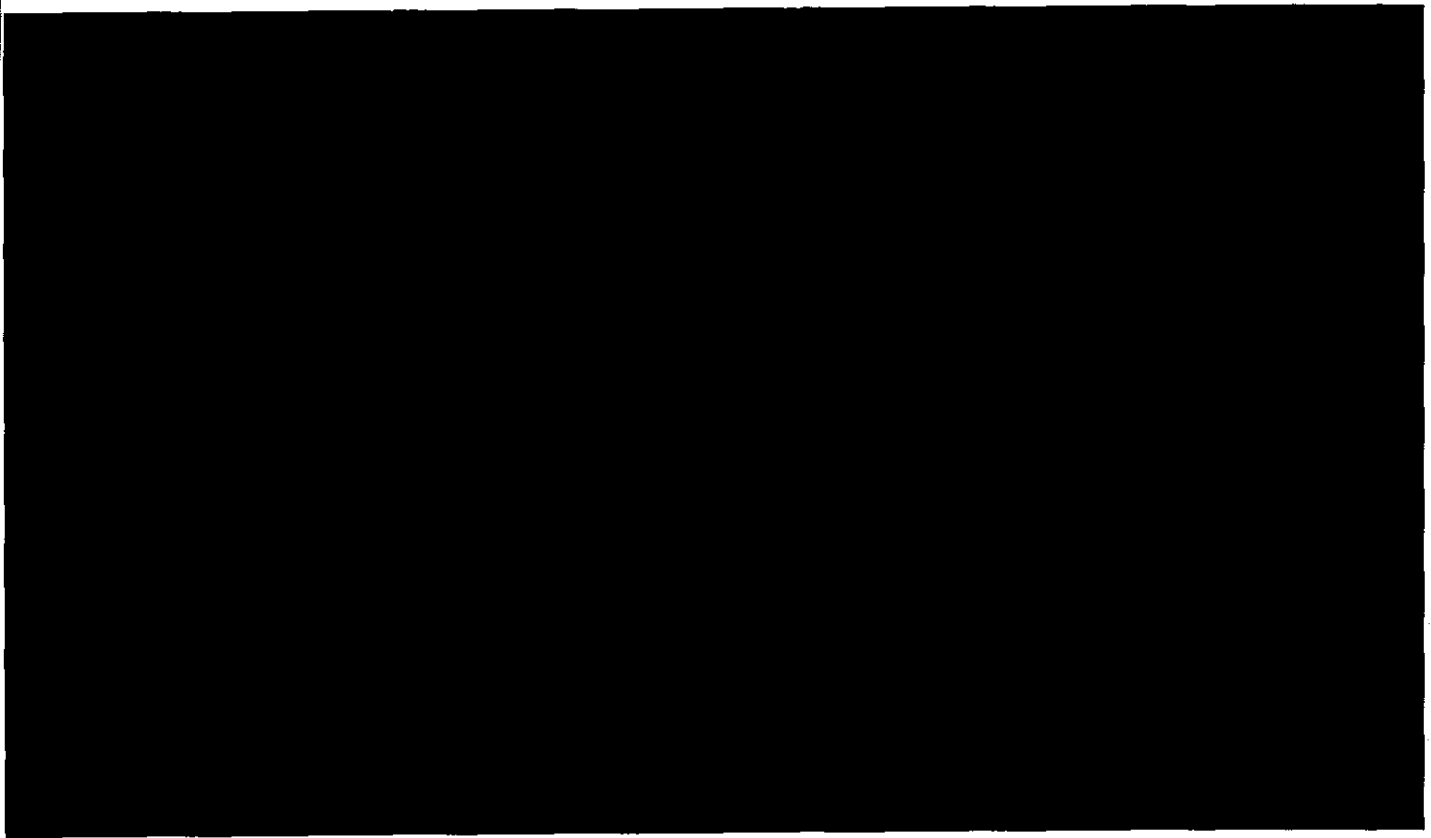
IV 訴訟に臨むに当たっての留意点
調査回報・答弁書の作成



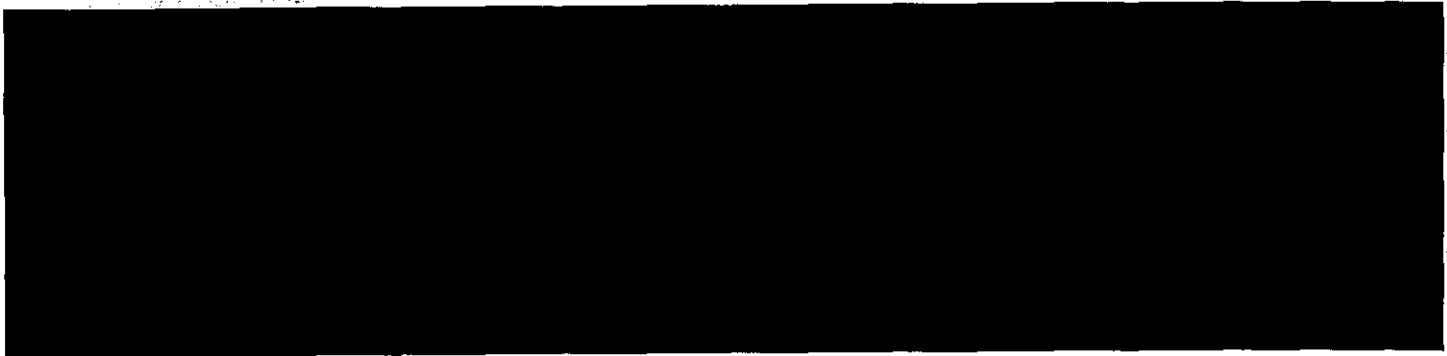
IV 訴訟に臨むに当たっての留意点
主張・立証



IV 訴訟に臨むに当たっての留意点
主張・立証



IV 訴訟に臨むに当たっての留意点
主張・立証



IV 訴訟に臨むに当たっての留意点
判決対応

滋賀 労働局

1 訟務処理体制について

① 応訴方針検討会議の出席者(役職名、人数)

労災補償課長、主任地方労災補償監察官、地方職業病認定調査官 計3名

② 法務局協議における出席者(役職名、人数)

労災補償課長、地方職業病認定調査官 計2名

2 訴訟追行体制について

① 期日への出廷者(役職名、人数)

労災補償課長、地方職業病認定調査官 計2名

② 進捗状況の把握・管理は、誰がどのように行っているのか。

労災補償課長が把握し、期日までにおける処理状況を確認しながら、随時、担当者へ指示している。

3 準備書面案の作成について

① 法務局に提出するまでの確認(決裁)者

労災補償課長、主任地方労災補償監察官

② 準備書面案の作成に当たり、苦慮している点、問題点



4 労災法務専門員の活用について

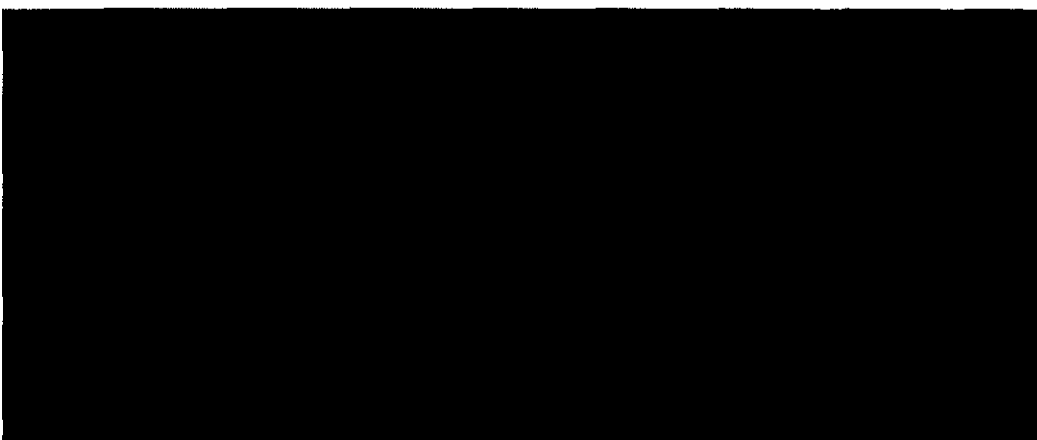
①労災法務専門員への相談回数(出張相談を含む)(月〇回程度)



②労災訟務において、どのような場面で活用しているか。(応訴方針検討、準備書面作成への助言、敗訴判決の検討、その他(具体的に))



5 医学意見書作成を依頼できる医師の確保のために工夫したこと、苦慮したこと



京都 労働局

1 訟務処理体制について

① 応訴方針検討会議の出席者(役職名、人数)

労災補償課長 1名、労災補償監察官 1名、地方労災補償訟務官 1名

② 法務局協議における出席者(役職名、人数)

労災補償課長 1名、労災補償監察官 1名、地方労災補償訟務官 1名

2 訴訟追行体制について

① 期日への出廷者(役職名、人数)

労災補償課長 1名、地方労災補償訟務官 1名

② 進捗状況の把握・管理は、誰がどのように行っているのか。

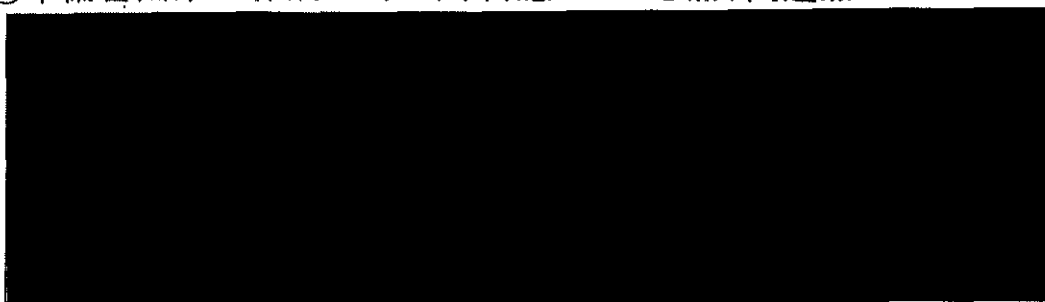
訟務官が担当監察官、調整官、労災課長に書面の決裁等の際に報告している。(法務局からの指示事項等については、労災課長に報告している)

3 準備書面案の作成について

① 法務局に提出するまでの確認(決裁)者

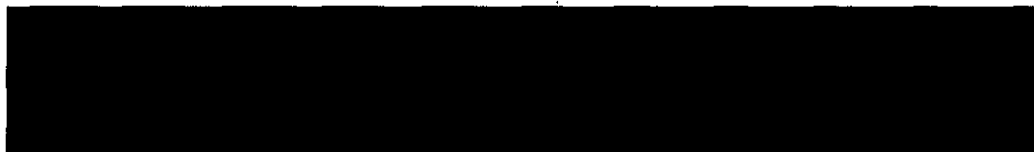
訟務官→担当監察官→調整官→労災課長→基準部長

② 準備書面案の作成に当たり、苦慮している点、問題点



4 労災法務専門員の活用について

①労災法務専門員への相談回数(出張相談を含む)(月〇回程度)



②労災訟務において、どのような場面で活用しているか。(応訴方針検討、準備書面作成への助言、敗訴判決の検討、その他(具体的に))



5 医学意見書作成を依頼できる医師の確保のために工夫したこと、苦慮したこと



大阪 労働局

1 訟務処理体制について

① 応訴方針検討会議の出席者(役職名、人数)

労災補償課長, 労災補償監察官(該当署担当), 訟務係全員, 該当署労災次長または労災主務課長
8ないし9名

② 法務局協議における出席者(役職名、人数)

労災補償課長, 地方労災補償訟務官等(主担当及び副担当), 該当署労災次長または労災主務課長
4ないし5名

2 訴訟追行体制について

① 期日への出廷者(役職名、人数)

1, 第1回期日: 地方労災補償訟務官等(主担当及び副担当), 該当署労災次長または労災主務課長: 3名
2, 第2回以降の期日: 地方労災補償訟務官等(主担当及び副担当): 2名
3, 判決言い渡し期日: 地方労災補償訟務官等(主担当及び副担当), 該当署労災次長または労災主務課長: 3名

② 進捗状況の把握・管理は、誰がどのように行っているのか。

行政訴訟事件経過報告書等による書面による進捗状況を報告または口頭による情報交換等
担当訟務官等から訟務係全員→地方労災補償監察官(担当)→主任地方労災補償監察官→労災管理調整官→労災補償課長→労働基準部長
※該当署あて文書報告

3 準備書面案の作成について

① 法務局に提出するまでの確認(決裁)者

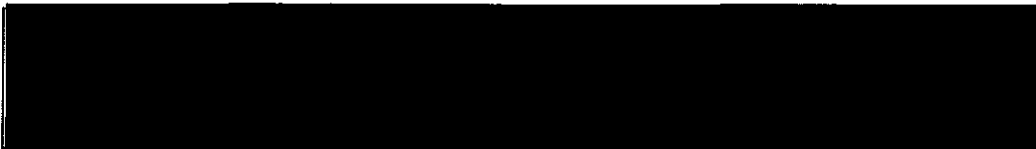
担当訟務官等→副担当者→労災補償課長→担当訟務官等→本省担当中央労災補償訟務官→担当訟務官等→大阪法務局

②準備書面案の作成に当たり、苦慮している点、問題点

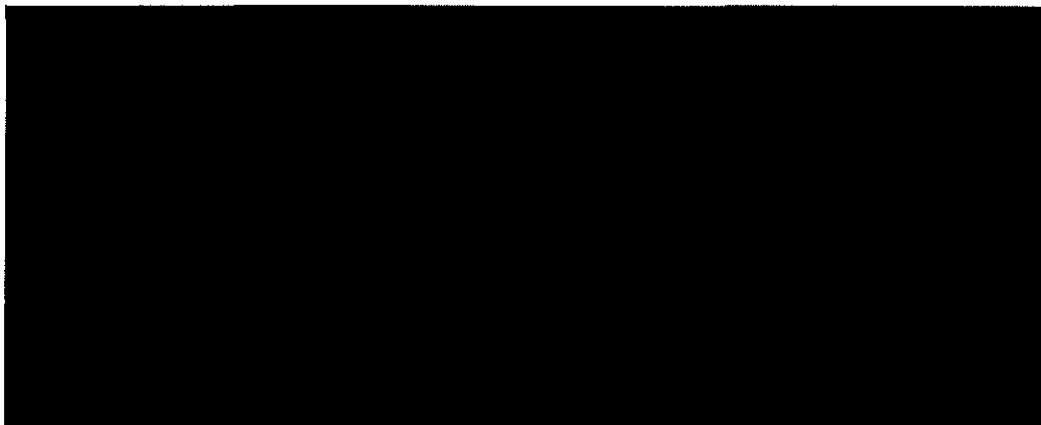


4 労災法務専門員の活用について

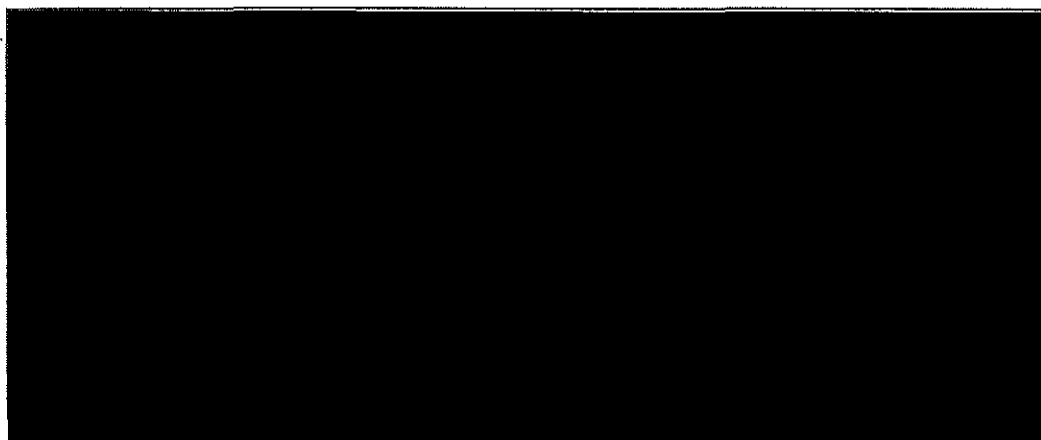
①労災法務専門員への相談回数(出張相談を含む)(月〇回程度)



②労災訟務において、どのような場面で活用しているか。(応訴方針検討、準備書面作成への助言、敗訴判決の検討、その他(具体的に))



5 医学意見書作成を依頼できる医師の確保のために工夫したこと、苦慮したこと



兵庫 労働局

1 訟務処理体制について

① 応訴方針検討会議の出席者(役職名、人数)

労災補償課長・労災管理調整官・訟務官3名・労災法務専門員1名

② 法務局協議における出席者(役職名、人数)

労災補償課長・訟務官2名(主副担当者)

2 訴訟追行体制について

① 期日への出廷者(役職名、人数)

訟務官2名(主副担当者)

② 進捗状況の把握・管理は、誰がどのように行っているのか。

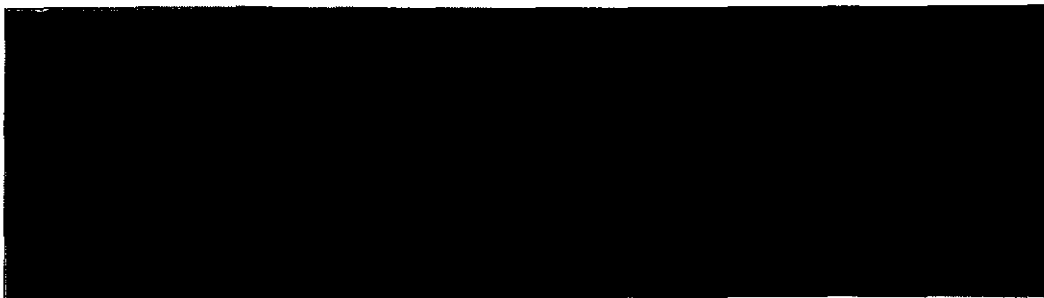
労災補償課長が、随時、期日経過報告に基づいて、法務局に指定された提出期限前に決裁がまわってくるか確認を行っている。

3 準備書面案の作成について

① 法務局に提出するまでの確認(決裁)者

労災法務専門員・訟務官3・労災管理調整官・労災補償課長・労働基準部長

② 準備書面案の作成に当たり、苦慮している点、問題点

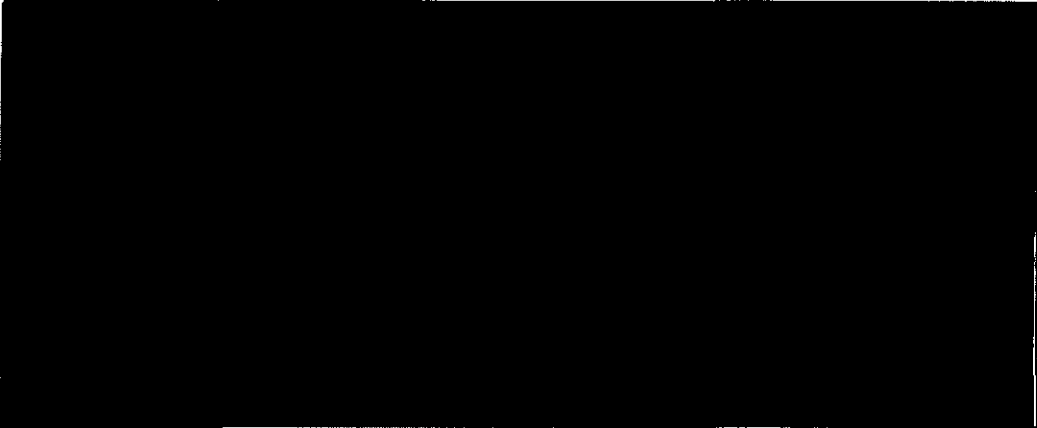


4 労災法務専門員の活用について

①労災法務専門員への相談回数(出張相談を含む)(月〇回程度)



②労災訟務において、どのような場面で活用しているか。(応訴方針検討、準備書面作成への助言、敗訴判決の検討、その他(具体的に))



5 医学意見書作成を依頼できる医師の確保のために工夫したこと、苦慮したこと



奈良 労働局

1 訟務処理体制について

① 応訴方針検討会議の出席者(役職名、人数)

局(3名) 労災補償課長 管理調整官 労災補償監察官
署(1名) 労災課長

② 法務局協議における出席者(役職名、人数)

労働局(2名) 労災補償課長 労災補償監察官
監督署(1名) 労災課長

2 訴訟追行体制について

① 期日への出廷者(役職名、人数)

労働局(2名) 労災補償課長 労災補償監察官
監督署(1名) 労災課長

② 進捗状況の把握・管理は、誰がどのように行っているのか。

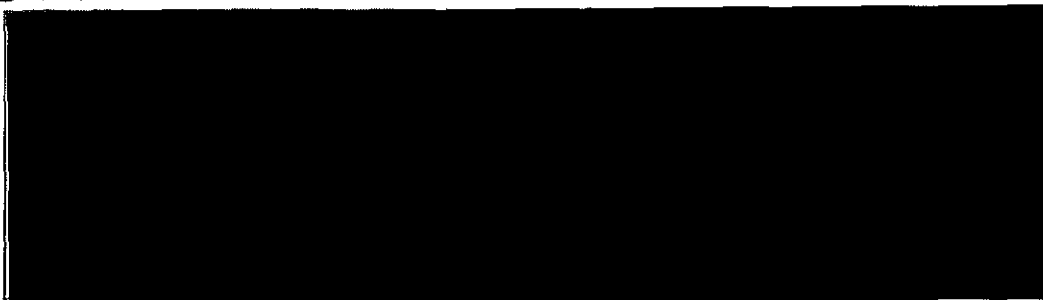
労災補償課長と労災補償監察官が、直接把握・管理を行っている。

3 準備書面案の作成について

① 法務局に提出するまでの確認(決裁)者

労災補償課長 管理調整官 労災補償監察官

② 準備書面案の作成に当たり、苦慮している点、問題点

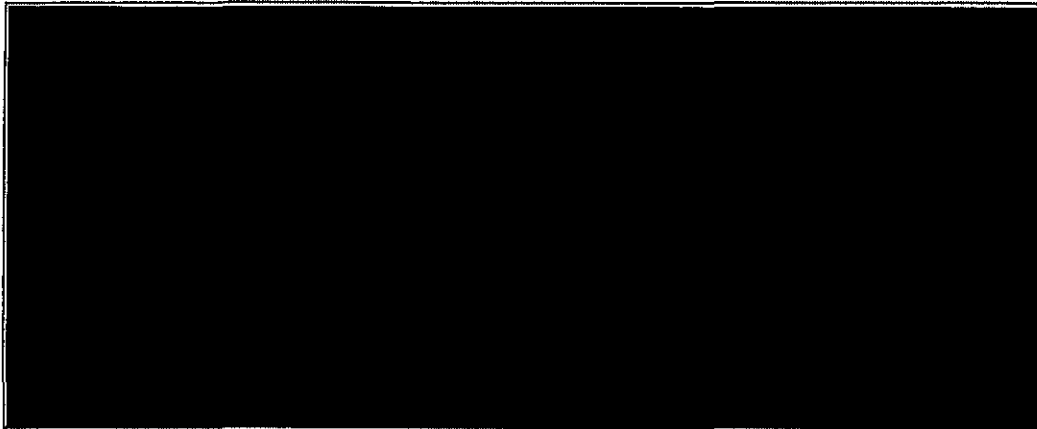


4 労災法務専門員の活用について

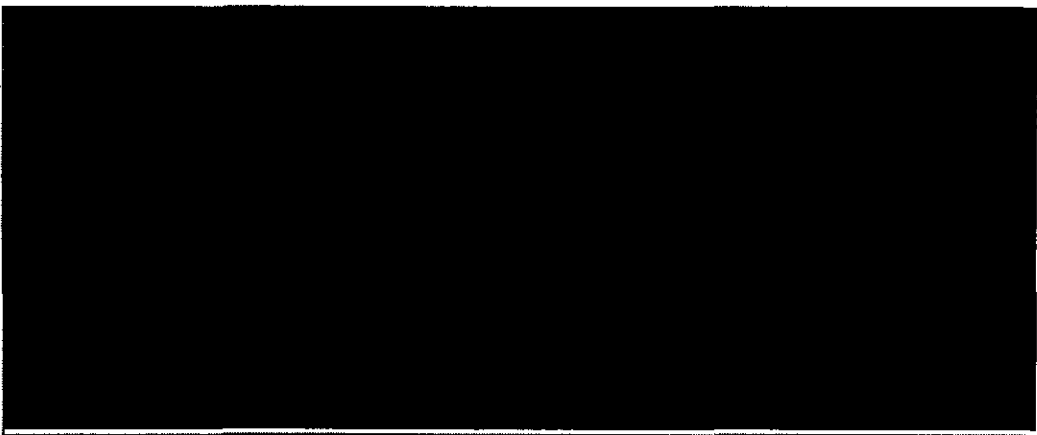
①労災法務専門員への相談回数(出張相談を含む)(月〇回程度)



②労災訟務において、どのような場面で活用しているか。(応訴方針検討、準備書面作成への助言、敗訴判決の検討、その他(具体的に))



5 医学意見書作成を依頼できる医師の確保のために工夫したこと、苦慮したこと



和歌山 労働局

1 訟務処理体制について

① 応訴方針検討会議の出席者(役職名、人数)

基本的には、労災補償課長、労災管理調整官、労災補償監察官(2)の計4名で検討し、適宜、局長、労働基準部長に経過報告の上、意見を求めています。また、事案によっては、局長及び労働基準部長にも検討をお願いしています。

② 法務局協議における出席者(役職名、人数)

労災補償課長 労災補償監察官(2) 計3名

2 訴訟追行体制について

① 期日への出廷者(役職名、人数)

労災補償課長 労災補償監察官(2) 計3名

② 進捗状況の把握・管理は、誰がどのように行っているのか。

主担は労災補償監察官であるが、常に労災補償課長が監察官の補佐をしながら事案の処理を進めています。

3 準備書面案の作成について

① 法務局に提出するまでの確認(決裁)者

担当労災補償監察官 → 労災補償監察官 → 労災管理調整官 → 労災補償課長 → (労働基準部長) → (局長)

② 準備書面案の作成に当たり、苦慮している点、問題点

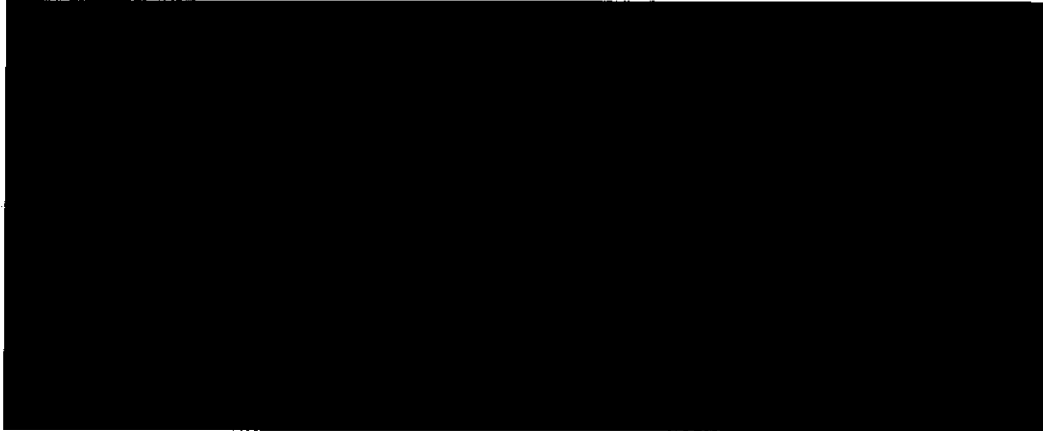


4 労災法務専門員の活用について

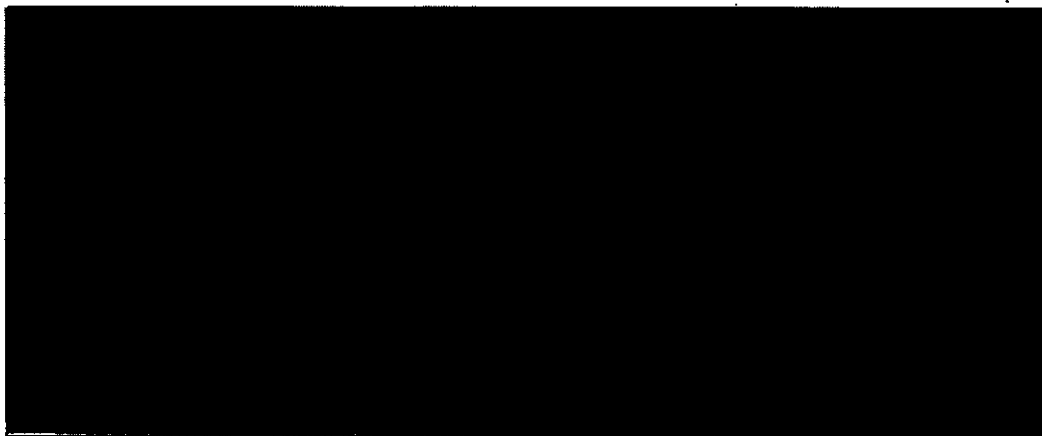
① 労災法務専門員への相談回数(出張相談を含む)(月〇回程度)



② 労災訟務において、どのような場面で活用しているか。(応訴方針検討、準備書面作成への助言、敗訴判決の検討、その他(具体的に))



5 医学意見書作成を依頼できる医師の確保のために工夫したこと、苦慮したこと



訟務担当者ブロック研修 協議事項(近畿ブロック)

(大阪) 労働局	1	議題	判決文の検索システム
		提案理由 (できるだけ具体的に記入してください。)	<p>①現在、各局の事件の判決文をデータにて送付して頂いているが、同判決文を例えば、「年度事件番号・事件名」「争点別分類」等による事例検索ができるようにできないかについて</p> <p>②また、法務局のシステムのように、最高裁・高裁・地裁の各判決文(国の行政訴訟、地公災または民事損害賠償関連)を検索できるようにできないかについて</p>

(大阪) 労働局	2	議題	準備書面等の検索システム
		提案理由 (できるだけ具体的に記入してください。)	<p>①各局の準備書面等のデータ検索ができないかについて</p> <p>②判例時報等の検索ができないか</p>

(兵庫) 労働局	1	議題	訴訟案件の情報共有について
		提案理由 (できるだけ具体的に記入してください。)	<p>新件が出たときに、本省に補503を報告した時点で類似した訴訟案件についてはすぐに教えてほしい。</p> <p>各局は補503報告の際に事件名だけでなく、簡単な「〇〇病の上外」や「石綿疾患の時効」などタイトルに入力し、本省でもそれらのタイトルを入れて管理していれば、新件が報告された時点で担当官の記憶に頼らずに、機械的にすぐに類似事件がヒットして便利なのではないでしょうか。</p>

(兵庫) 労働局	2	議題	裁判所のホームページにある「裁判例情報」の利用について
		提案理由 (できるだけ具体的に記入してください。)	検索方法について教示頂きたい。(キーワードでの検索・年代検索でもなかなかヒットしない)

(奈良) 労働局	1	議題	準備書面作成における追加調査について
		提案理由 (できるだけ具体的に記入してください。)	準備書面作成において、追加調査(関係者聴取、主治医意見)が必要となる場合がありますが、局または署のいずれにおいて実施されていますか。 奈良局の場合は、いずれにおいても職員が少ないことから、通常業務の負担となるところです。